

# 2017（平成29）年度 事業報告書

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

## 2017年度 事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
理事長 水野 雄二

### 「あなたがたは世の光である。」(マタイによる福音書 5:14)

2017年度は、4月1日に改正社会福祉法が施行されたことと同時にスタートしました。新たな法と制度は、ガバナンスの強化、事業運営の透明性と財務規律の強化、地域における公益的な取組への責務などを骨子としており、神戸聖隷福祉事業団も新法への対応を準備して迎えた新年度となりました。新法に則り、4月には新評議員が、6月には新役員が就任し、新しいガバナンスが形成されています。

同時に、2016年度に策定された「第3期中期計画」の初年度を迎え、法人全体及び各施設共に、新しい中期計画に基づく年度計画を実行しました。法人全体としては、「理念理解定着部会」「職員育成推進部会」「QOL推進部会」「経営強化推進部会」「地域貢献推進部会」「人事・労務・危機管理推進部会」を設置し、それぞれ担当部長(理事)の下で初年度計画の実行に努めました。予定通り完了できたこと、進展したが未了のこと、未着手のことなど計画された事項によって進捗は異なりますが、法人を挙げて中期計画の遂行に向けた行動がなされた一年でありました。

また、当法人は新制度による「社会福祉充実計画」の策定必須の法人であり、社会福祉充実残額の有効活用も第3期中期計画に合わせて実施されました。これもまた進捗には事項による差はあるものの5ヵ年計画の初年度としての歩みを進めています。

これらの計画の着実な実行のために、部長による中期計画実行管理会議、全施設長・全課長による中期計画実現会議が定例化され、相互チェックしながら推進しています。

年度のトピックスとしては、かねて準備されてきた地域密着型特別養護老人ホーム「さくらの苑」が朝来市和田山町竹田に、「グループホームふくだ」が神戸市垂水区に、それぞれ5月に開設され、事業がスタートしました。特に「さくらの苑」は入所者生活介護のみならず、デイサービス、居宅介護支援事業も併設し、街中の立地もあつて、地域福祉の重要な拠点として期待を集めています。

2017年度の神戸聖隷福祉事業団は、新しい法律、新しい中期計画の下、新たな歩みを始めました。そこに多くのご利用者がおられ、多くの笑顔がありました。秋には神戸地区で恒例の「おいでやすカーニバル」が、但馬地区では「神戸聖隷感謝祭」が開催され、多くのご利用者や地域の方々が交わる機会となりました。

多くのご支援、ご奉仕を得て、多くのご利用者や職員が「世の光」として輝いた一年を歩むことができました。

第3期中期計画初年度として

中期事業目標① 社会福祉法人の使命を果たすため、固く理念に立ちます

理念理解定着部担当

水野 雄二

法人存在の基盤、基軸としての基本理念に関して、職員が理解を深め、日常業務との関連性を感じることができるよう、常設の所管機関として「理念理解定着部会」を設置し、法人全体で理念に関するアプローチを始めました。より日常的な現場に密着し、より具体的に見える形として初年度の活動が予定通り進められました。

特に、職員の理念研修として、研修ごとに理念についての学びと確認の場が設けられました。また、他法人での理念研修として浜松の聖隷グループ訪問研修が、海外研修としてタイ・チェンマイでの研修が用意され、それぞれに実施することができ、参加者に大きなインパクトを与える機会となりました。

懸案であった「基本理念Q&A」の全面改訂がなされ、「神戸聖隷ハンドブック」として新たに編集し発刊しました。また、新たな「職員報」作成の試みが実行され、これも全職員に配布できました。基本理念浸透に向けて新しいアプローチを試みた一年でしたが、この試みを継続し、より深い定着を目指していきます。

1. 推進状況

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
所管常設 委員会の 設置と運 用	①「法人理念委員会」(仮称)の設置と運用	ア)「理念理解定着部会」として会議を開催 4/21、5/22、7/7、8/18、9/27、11/16、2/1に開催(7回)	◎
	②当事業目標達成のための方策検討と実施担当	ア)神戸聖隷歴史資料館プログラム担当(山根・稲津課長)で小会議を開催 イ)職員海外研修担当(山崎・中島課長)で研修企画・参加者募集・選考・事前研修を担当 ウ)「基本理念ガイド」作成担当(西郷・山本施設長)で小会議を開催 エ)職員報作成担当(山根課長・山本施設長)で小会議を開催 オ)全般に水野理事長が関わり企画及び実施を担当	◎
価値観と 出会う場 の提供	①基本理念の唱和の機会堅持(各施設)	ア)各施設と連動し、唱和を励行	○
	②年間聖句の選定と掲示(各施設)	イ)4月に2017年度掲示物を作成し、各施設での掲示	◎

	③神戸聖隷歴史資料館のプログラム提案	ア) 12/9 オープンクリスマス会を開催し、歌や物語の読み聞かせを実施。地域の子どもたちが約 30 人参加。	◎
キリスト教福祉講座の見直し・理念研修のあり方検討	①理念研修の実施（キリスト教福祉講座・歴史資料館訪問を含む）	ア) 職員育成推進部主管の研修会における理念研修の実施 イ) 各施設における研修で理念研修を実施 ウ) 但馬、神戸両地区においてキリスト教福祉講座を準備、実施（9月～11月）	◎
	②キリスト教社会福祉事業の他施設見学実施	ア) 2018年1月29日30日に浜松の聖隷グループを訪問、13名参加	◎
	③職員の海外研修実施	ア) 第1回海外研修をタイ・チェンマイで開催することに決定 イ) チェンマイ YMCA との交渉で研修内容を整備 ウ) 募集対象・方法を決定し、参加者募集を実施（7月） エ) 参加者を1次、2次と選考し、決定（8月） オ) 2度の事前研修及び事後研修を実施 カ) 11/23～29で実施 7名が参加	◎
「基本理念 Q&A」冊子の改訂（再作成）	①「基本理念ガイド」（仮称）の制作	ア) 名称を「神戸聖隷ハンドブック」に変更することを決定 イ) 内容を3部構成とし、第1部を初心者用、第2部を継続者用、第3部を便利帳として作成を決定 ウ) 2月に発刊し、全職員に配布	◎
その他	①協力牧師との懇談会開催	ア) 内山、竹内両牧師との懇談会開催（6月、7月） イ) 内山、竹内、尾堂、吉川牧師との懇談会を開催（8/29）	◎
	②職員報の作成（理念・ビジョンの共有化）	ア) 理念共有化のための職員報を発刊することを決定 イ) 2018年3月に第1号を発刊し、全職員に配布	◎

第3期中期計画初年度として

中期事業目標③ ひとり一人のQOLを生涯にわたって支えます

QOL 推進部担当

種谷 啓太

2017年度、QOL 推進部はメンバーが4グループに分かれ、実行計画の5項目にわたり利用者のQOL向上を目指し取り組んできました。

施設の中でのサービス向上だけではなく、社会・市民レベルでのQOL向上を目指しましたが、利用されている方々の満足していただける取り組みには届きませんでした。

QOL 推進部は、利用されている方のQOLに真摯に向き合わなければならないと考えます。

2017年度は職員サイドだけで検討していたのではないかと反省はありますが、実行計画の計画に沿い、より良いサービスの提供、安心安全な環境づくりの第一歩は示せたのではないかと思います。

1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
法人基準マニュアルの整備とチェック体制確立	法人標準マニュアルの整備 ①標準となる業務体系の抽出と項目設定とフォーム完成	ア) 法人での業務標準化マニュアルにつき、各施設の業務体系項目を抽出 イ) 標準化マニュアル（入浴）案作成 ウ) 策定項目を直接支援（入浴、排泄、食事、服薬、移乗、送迎）項目に限定 エ) 各施設のマニュアル作成状況調査実施	△
	第三者評価の受審継続 ①真生園、和生園、神戸愛生園、神戸光生園の受審	ア) 9/8 真生園 9/15 和生園 1/16 おおまち 1/17 光生園 2/9 愛生園受診	◎
	虐待防止チェックリストの実施継続 ①旧チェックリストの実施と分析。新チェックリストの策定	ア) 上半期分チェックリスト回収し結果報告を全施設に配信 2018年度使用の新チェックリスト内容の検討 イ) 下半期分チェックリスト回収 ウ) 2017年度虐待防止に関する取り組み報告案作成	△
	虐待防止判定基準表運用 ①各施設より事例収集と学習会の実施	ア) 全施設より不適切ケア・虐待と思われる事例を収集、全18事業所で学習会実施 イ) 全18施設の事例集約 報告案作成 ウ) 2018年度より使用予定の虐待防止判定基準表リニューアル終了	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
接遇指針の整備	接遇のしおりのリニューアルと運用 ①接遇のしおりリニューアル版の原案完成	ア) 支援・介護に特化した接遇指針を目指し、同時に施設での学習が行いやすい形態をパワーポイントで作成中	△
	顧客満足度調査の実施 ①顧客満足度調査の実施アンケート、実施勧奨案内、今年度の実施確認	ア) 法人内 18 施設に実施の有無と様式につき確認の結果 10 施設が実施している旨回答 イ) 顧客満足度調査の共通項目決定 ウ) 2018 年度下半期実施依頼を各施設に発信準備	○
在宅サービス創設	福祉サービス利用ニーズ調査 ①法人内ニーズ調査をアンケート方式で実施 ②福祉サービスの計画立案	ア) 12 月に各施設担当者にアンケート実施し回収し、推進部へ報告 ア) 在宅サービス展開については具体的な進展はなし	△
暮らしの場の確保	①障害者グループホーム増設	ア) 神戸地区では物件が見つからず イ) 但馬地区さくらの苑隣接地に土地購入し、来年度補助金申請のため基本設計開始	△
専門性の向上	QOL チームを各施設に設置 ①専門性について検討 ②OJT のチェック体制の構築	ア) 各施設の QOL 委員を指名（虐待防止推進委員と兼務）実施要綱は作成出来ず ア) 未実施	△

第3期中期計画初年度として

中期事業目標④ 社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます

経営強化推進部担当

西山 充

効率よくタイムリーに業務を推進するため、全体会議は進捗状況を確認・共有する場とし、グループリーダーを中心とした4つの小委員会で方針を決定し進めました。

支出面及び業務面の効率化を目的とした介護保険システム・自立支援システムのクラウド化、入所施設を中心とした支援記録システムの導入、財務会計の法人内全施設ネットワーク化整備については計画を1年早め実施しました。

今年度初めての取り組みとして、各事業所が目標とする利用人数・給付費収入の達成に向けて月次実績チェックと分析を行い、進捗が気になる事業所を訪問して現状を把握すると共に、改善に向けた対策を一緒に考える機会を持ちました。

神戸地区独自の送迎サービスの2018年10月試行実施に向け、送迎ニーズ・送迎状況の調査を行い、結果をもとに方針を決定し準備を進めました。

法人のスケールメリットを活かした取り組みとして、聖隷福祉事業団のご協力を得て関西電力と法人特約契約を締結し電気代の大幅削減につなげました。また、消耗品（通信販売）、損害保険（自動車・火災）、ガス代等についても全施設の調査を実施し、2018年度の法人一括契約締結に向け準備を整えました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
新たな顧客の開拓	既存事業の稼働率向上 ①利用者延人数1%増 (対前年比)	ア) 目標値達成月次チェックシートを作成、月次実績報告書の書式を変更(5月) イ) 目標値達成月次チェックを実施(毎月) ウ) 第1四半期実績をチェックし、気になる施設・事業(5施設9事業)抽出(8月)	◎
	新規事業等による事業収入拡大 ①給付費収入1%増 (対前年比)	エ) 気になる施設・事業の現地ヒアリングを行い、改善対策を共に検討、ヒアリング内容を全施設に配信し共有(9月) オ) 補正予算ヒアリング用シートを作成(10月) カ) 第2四半期実績をチェックし、データを補正予算ヒアリングに提供(10月) キ) 予算ヒアリング用シートを作成(1月) ク) 補正後の進捗状況が気になる施設・事業(3施設・4事業)を抽出しヒアリングシートを配信、シート記載の取組方針を2018年度事業計画・予算に反映(1~2月)	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
利用者にとって魅力ある施設づくり	神戸地区で独自の送迎サービスの実施 ①ニーズ調査	ア)神戸地区通所事業を対象に「送迎ニーズ及び状況」アンケート調査実施(7月) イ)「送迎ニーズ調査(2回目)」実施(9月) ウ)送迎希望者の詳細把握、必要ルート検討 エ)購入車両の検討 オ)運転業務委託業者・委託料の検討	○
	アメニティー向上の取組み ①ニーズ調査、予算計上・順次実施	ア)「アメニティー向上」に関する各施設の現状、ニーズについてアンケート調査実施(9月) イ)wifi整備実施、一般開放している施設(さくらの苑・真生園・中部在宅障害者福祉センター・神戸光生園)	○
計画的な積立金の計上	予算ヒアリングにおいて地区毎の目標額を計上する ①積立金額2億円	ア)当初予算の積立金計上額1.7億円(但馬地区0.6億円、神戸地区1.1億円) イ)3月最終補正積立見込額2.9億円(但馬地区1.4億円、神戸地区1.5億円)	◎
システム(障害者支援等)の法人内統合による支出の効率化	障害者支援システムクラウド化により法人内統合することで、支出面及び業務面において効率化を図る ①但馬・神戸両地区帳票検討、神戸地区クラウド化検討	ア)恵生園・真生園に記録システムを整備、栄養マネジメントソフトをクラウド化(5月) イ)自立支援システムクラウド化・記録システム整備の全施設意向調査実施(7月) ウ)社会福祉充実計画【⑬ICT設備導入による職員の業務効率化】に予算計上(8月17,206千円計上) エ)神戸明生園の自立支援システムをクラウド化し、支援記録システムを整備(9月) オ)中部在宅障害者福祉センターを除く法人内全施設の介護保険システム・自立支援システムクラウド化整備完了(12月) カ)2018年度支援記録システム整備に向けた準備実施(神戸愛生園・神戸光生園)	◎
	財務会計システムについては、法人内ネットワーク化(VPN)を検討し、効率化を進める ①神戸地区調査・検討	ア)法人内ネットワーク化に向け業者からの情報収集、見積り実施(6月・7月) イ)NTTフレッツ・VPNワイドを使い、法人内全施設の財務会計システムをネットワーク化する方針を決定(8月) ウ)財務会計システムの法人内ネットワーク化整備完了(12月4,555千円) エ)神戸地区各施設固定資産台帳への再入力実施(1~3月)	◎



実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
法人一括契約等による支出の効率化	消耗品購入 ①検討・実施	ア) コピー用紙の購入業者、年間購入枚数、購入費用等について調査実施 (7 月) イ) アスクル年間購入費調査実施 (7 月) ウ) 通信販売業者等より見積書取得 (10 月) エ) 消耗品 (通信販売) の法人一括契約提案に向け準備 (3 月)	○
	施設賠償保険 ①検討	ア) 契約保険会社・代理店、保険種類、年間保険料について調査実施 (7 月)	△
	損害保険 (自動車、火災) ①検討	ア) 契約保険会社・代理店、保険種類、年間保険料について調査実施 (7 月) イ) 火災保険について、法人一括契約の見積りを依頼 (11 月) ウ) 自動車保険契約先を 2018 年度に変更する旨提案 (3 月) エ) 火災保険を 2018 年度に法人一括契約する旨提案 (3 月)	○
	燃料費 ①検討・実施	ア) ガソリン・軽油の購入業者、年間使用量、購入費用について調査実施 (7 月)	△
	携帯電話 ①検討	ア) 法人内で 63 台使用している携帯電話の契約会社、使用目的調査実施 (7 月)	△
	電気代	ア) 聖隷福祉事業団の協力を得て、関西電力と「法人特約」に向け交渉 (12 月) イ) 関西電力と「法人特約」契約締結 (1 月) (法人評価割引率 12.9% 年間メリット見込額 4,691 千円) ウ) 関西電力「法人特約」適用 (2 月)	◎

第3期中期計画初年度として

中期事業目標⑤ 安心して暮らせる地域の実現に尽くします

地域貢献推進担当

有川 洋司

今年度は「地域」への具体的な取り組みを検討するうえで但馬と神戸の各地区を基本的な単位として取り組むべき課題の抽出などを行いました。

「情報発信」「地域交流」「地域貢献」の3つの要素で実行計画を構成し、それに沿った具体的な取り組みについて検討・実施を行いました。「情報発信」については各施設のイベントなどについて地元の新新聞やケーブルテレビ等に積極的に情報提供を行いPRに努めました。また、より多くの人に法人や施設のことを知っていただくツールとしてホームページのリニューアルに取り組み広報のための新たな体制構築を目指しましたが、年度内の達成には至らず次年度の早期運用を目指します。「地域交流」については但馬地区において新たに開設したさくらの苑を中心にイベントを実施し、地域の方々との交流の機会を持ちました。「地域貢献」については地域のニーズや災害時における施設の役割などについて行政機関と協議を行いました。施設単位ではありますが、社会福祉法人連絡協議会（「ほっとかへんネット」）にも積極的に参加して他法人との連携のなかで地域にむけた取り組みについて実践しました。この一年を通して地域との交流イベントや福祉教育など地道に取り組んでいたことが所謂「公益的な活動」と言えるものであることを再確認するとともに地域のセーフティーネットとしての機能の構築や個別のニーズへの対応について課題が残りました。

1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
施設見学を希望される方に対して、最寄りの駅や停留所までの送迎を実施。見学者のニーズを把握して記録し、法人全体で情報を共有する	①マニュアルの作成	①ア) 見学・来訪者対応マニュアルの原案検討・作成	① ◎
	②広報活動	②ア) 未実施	② ×
	③利用見学を容易にできるシステムづくり	③ア) 情報共有については現状ある程度確立出来ていることについて確認 イ) 送迎のシステムについては原則各施設の対応とするが次年度も検討継続	③ △
地域との連携・ネットワークに積極的に参画	①地域との関わりのあるネットワークの調査	①ア) 法人内全事業アンケート調査実施 イ) ほっとかへんネット等に積極的に参加	① ◎
	②専任スタッフの職務内容の検討	②ア) ①の調査結果を踏まえ、専任スタッフの配置の必要性ないと判断し取止	② ×

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
行政と連携し福祉避難所への備え等、地域住民の安全・安心な生活の確保に向けた取り組みの実施	①ニーズ調査。受入場所・対応の検討	ア) 朝来市及び神戸市の担当者らと福祉避難所に求められる役割等について協議 イ) 但馬地区において福祉避難所としての受入れ可能人数について確認 ウ) 神戸地区において中部在宅障害者支援センターが「障害者支援センター」として災害時要援護者の支援を行うことについて神戸市からの要請を受け協議	△
介護予防のための体操教室や低料金のカフェを出店し、地域住民に開放するスペースを提供	①開放するスペースの場所及び内容の検討	ア) 但馬地区での実施場所の検討（さくらの苑、あったかプラザなど） イ) 神戸地区においてワークセンターわかまつが場所についての情報収集 ウ) 朝来市の介護家族交流事業への申請にむけた内容検討	○
児童・障害・高齢の一体的な相談支援を担う人材を育成	①現状分析・育成プログラム・研修カリキュラム検討	ア) 育成プログラム（案）について検討・作成 イ) 研修カリキュラム（案）について検討・作成には至らず	△
委託相談支援事（ひょうご・すま）の継続委託	①申請準備	ア) 「公募」ではなく「事業評価」による手続きとなることを確認。 「事業実績報告書」提出し受託継続	◎
地域の社会福祉と援助ニーズに対する公益的・包括的取り組みの実施	①調査チームの立ち上げ。調査内容検討 ②地域の社会福祉と援助ニーズの調査	①ア) 調査チームの立ち上げは取止 ②ア) 法人内各事業所でのニーズ調査実施予定等の把握のためのアンケート実施 イ) 朝来市担当者と地域ニーズに関する情報共有のための連携などについて協議	×

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
低所得者に配慮した制度の創設を検討	①低所得者に対する制度の調査	ア) 朝来市担当者と情報共有 イ) 介護保険分野での減免制度の活用について検討	△
利用調整機関(居宅介護支援事業所・障害者地域生活支援センター等)への情報発信強化	①各相談支援事業所等へ定期的に巡回訪問 ②地域自立支援協へ継続参加	①ア) 事業所の空き情報については法人ホームページをリニューアルし情報発信することに変更 ②ア) 参加継続中	○
ホームページを定期的に更新することをルール化する。また、機関紙については各事業所で定期的に発行	①ホームページ毎月更新	ア) 法人ホームページ担当者とリニューアルに向けて検討実施 イ) 法人内施設に対しホームページに関するアンケート実施 ウ) 新たなホームページの運用にむけたルール化の検討。運用要領、写真掲載の同意書、施設空き情報フォームの各原案作成	△
新聞・ケーブルテレビ等、マスコミに積極的に情報提供	①新さくらの苑、グループホームふくだ等タイムリーな記事を神戸新聞等に掲載	ア) おいでやすカーニバルについて神戸新聞掲載	△
法人広報部の設置	*2017年度計画なし		
ボランティアの受け入れから育成までのシステム確立	①ボランティアコーディネーターの選任と育成 ②ボランティア受け入れマニュアルの作成	①ア) 未実施 ②ア) 受け入れ等に関するマニュアルの有無について法人内各事業所にアンケート実施 イ) 受け入れマニュアル原案の作成 ウ) 受け入れ規程(案)の作成	① × ② ◎

第3期中期計画初年度として

中期事業目標⑥ 働きやすく誇りを感じられるカンパニー（共同体）へ

人事・労務・危機管理推進担当

吉田 和夫

中期計画推進のために管理職の忙しさが増しましたが、そんな中で確実な人事評価とその後のフィードバック面接の実施に、全ての管理職が全力を挙げて取り組んでくれました。さらに、施設内評価審議会を両地区評価審議会に拡大して各地区総合施設長と当推進部メンバーが出席して地区間の評価傾向の違いを実感し、それに基づいて必要な再評価を行って公正性を確保してきました。評価結果を完全反映するまでにはなりませんでしたが、今年度制定した「昇格・昇任規程」の実運用に評価結果を活用することができました。これが当推進部の2017年度最大の成果で、キャリアパスの実体化が前進しました。併せて、一般職にまで拡張した目標管理制度の運用結果の検証を行いその課題を明確にし、2018年度でのより育成効果が望める取組みを始めることに繋げました。

「働き方改革」では、長時間労働の改善と有給休暇取得促進について、つよく提唱しました。いずれも毎月の実態調査を実施したうえで、月間30時間を超す長時間労働及び有給休暇の取得が5日以下の職員の状況改善を全施設長・課長に向けて取り組むように指示しました。

危機管理に関しては、施設支援に対するご利用者側からの苦情、管理職を指定した匿名のパワハラ通報がそれぞれ複数事案発生しました。「拙速でも即対応」をモットーにして危機管理担当理事として事案対応を行っております。

1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
公平な人事評価を実現し、処遇に反映する道をひらく	評価表の合理化（簡素化）	ア) 共通要素、専門評価項目の絞り込み イ) 新様式取り込み ウ) 評価実施	○
	処遇反映ルールの改良	ア) 人事制度運用マニュアル改訂版（11/1）交付 イ) 施設・地区別評価審議会実施 ウ) 共通・専門評価結果を昇格・昇任へ、目標管理を期末賞与へと暫定的に区分	△
	昇格、昇任、降任等への評価連動の仕組みを整理	ア) 「昇格昇任規程」制定（11月理事会） イ) 昇格承認推薦書様式変更し昇任等の判定	○
	深夜勤務の評価	ア) 処遇改善加算を夜勤者に傾斜配分実施 イ) 支給状況のサンプル検証	◎
ひとり一人の職員が目標をもって	目標設定のあり方を確定	ア) 一般職にも目標設定を実施 イ) 自己評価結果を部会で検証 ウ) 「目標設定チェックポイント」制定	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
働く仕組みを確立する	上長の関わりの仕組みを構築	ア) 「目標管理制度のポイント」及び目標支援記録様式を制定 イ) 両地区で勉強会を実施(7/11、7/24)	△
	達成度の評価の基準	ア) 目標管理制度運用マニュアル改訂 イ) 目標設定時の達成度明確化の仕組み提唱	○
時間外労働の改善、有給休暇利用促進に向けて取り組む	実態把握	ア) 超過勤務調査実施し30時間超の職員に関する施設長アンケート実施 イ) 2016年度有休管理表、2017年度有休管理表(調査データ)集約	○
	時間外労働管理ルールを再検証	ア) 現行ルールの認識を促す説明を実施	○
	出張の取扱い方の改良	未着手	×
	有休の計画的付与等の検討	ア) 12月中計実現会議に2018年度取得率目標を提示	△
	上長研修会実施	ア) 12月実現会議で提唱	×
	職員満足度調査の検討(職場定着支援への取り組み)	ア) 調査票検討中	△
支援現場の事務の多さの改善可能性を探る	現状調査の方法を検討	未着手	×
	調査試行と結果分析	未着手	×
	国の流れのフォロー	ア) 国資料確認	×
問題発生時の感知機能の強化と常任理事会の対応能力の強化を図る	コンプライアンスメンバーリストの期首時点整備	ア) 整備・周知	△
	ハラスメント研修	ア) 常務理事へ即時通報で即時対応は奏功	×
	社会福祉法の狙いの研修	未実施	×
コンプライアンス対応のデータ化を行う	過去記録からデータベース作成	ア) 2016年度虐待防止アンケート(全施設)集計、理事会・評議員会報告 イ) 2016年度及び2017年度の事故事案をデータ整理	△
	備え置き	ア) 公表版に至らず	△

## 2. 主な式典

### (1) 辞令交付式

2017年4月1日(水)10:00から舞子ビラ神戸・五色の間にて、新採用職員25名(うち登用者9名)、昇任者17名、異動(課長以上、理事含む)9名に辞令を交付しました。開会礼拝では、神戸愛生伝道所竹内富久恵牧師のメッセージ、お祈り、祝祷をいただきました。

### (2) 創業42年記念式典

2017年6月22日(水)10:00から幸徳殿にて、但馬地区各施設から多くのご利用者にも参加いただいて、ほのぼのとした記念式典を開催することができました。

記念礼拝では和田山地の塩伝道所内山強牧師から「イエス・キリストを見よ」のメッセージをいただきました。永眠者追悼式では2016年4月2日から2017年4月1日までに召天された45名に哀悼の意を表すことができました。

表彰では、勤続10年7名、20年8名に賞状と記念品を授与しました。またボランティア活動への感謝状を3名の方々に贈呈しました。

懇親会では、利用者に皆様、ボランティアの皆様への感謝の拍手、歌声ボランティア池口勉様の見事な「北国の春」への大喝采などで良いひと時を過ごせました。

## 3. 主要会議

### (1) 評議員会

#### ア) 第124回定時評議員会(2017年6月17日開催)

①議長専任の件、②議事録署名人選任の件、③2016年度事業報告の内容の報告の件、④2016年度計算書類及び財産目録の承認の件、④-2監事事業・決算監査報告、⑤新役員を選任の件、⑥2017年度会計監査人の選任の件、⑦役員報酬の額、役員等の報酬支給基準並びに役員及び評議員の報酬等に関する規程の承認の件、⑦-2職員としての給与が支払われる理事の報酬等の支給基準の決定の件、⑧グループホームながみね事業の他法人への移管の件、⑧-2第8号議案に係る基本財産処分の承認の件、⑨第8号議案に係る残余財産処分の承認の件、⑩神戸聖生園せきもり事業活動場所変更の件、⑩-210号議案に係る基本財産処分の承認の件、⑪評議員報酬に関する社会福祉法人神戸聖隷福祉事業団定款の一部改訂の承認の件、⑫さくらの苑の土地と建物の基本財産編入並びに本日第8号議案及び第10号議案の基本財産処分に基づく定款別表の改訂の件、⑬社会福祉充実計画の承認の件

#### イ) 第125回評議員会(2018年1月20日開催)

報告①2017年度期中事業推進状況のご報告と意見交換

### (2) 理事会

#### ア) 第184回理事会(2017年6月3日開催)

①議長選任の件、②議事録署名人選任の件、③2016年度事業報告案承認の件、④2016年度計算書類及び財産目録の承認の件(定時評議員会議案)、④-2監事事業・決算監査報告、⑤新役員候補者の定時評議員会への提出議案の件、⑥監事による会計監査人候補者の定時評議員会への提出議案の件、⑦役員及び評議員報酬及び支給基準の定時評議員会への提出議案の件、⑧定款一部変更承認の定時評議員会への提出議案の件、⑨グループホームながみね事業の他法人への移管の件、⑩第9号に係る基本財産の処分の定時評議員会への提出議案の件、⑪第9号に係る残余財産の処分の定時評議員会への提出議案の件、

⑫神戸聖生園せきもり事業活動場所変更の件、⑬せきもり建物に係る基本財産処分の定時評議員会への提出議案の件、⑭経理規程一部改定、⑮和生園共同募金受配車両の業者選定の件、⑯給与規程一部改定（待機手当支給対象事業所追加の件）、⑰社会福祉充実計画の件（定時評議員会議案）、⑱定時評議員会の招集日時、場所、付議する議案の決定の件、⑲役員賠償責任保険加入の件、⑳さくらの苑の土地と建物の基本財産編入並びに本日第10号議案及び第13号議案の基本財産処分に基づく定款別表の改訂の件

イ) 第185回理事会（2017年6月17日開催）

①議長選任の件、②理事長の選定の件、③業務執行理事の選定の件、④会計監査人との契約報酬の監事同意の件、⑤内部管理体制の基本方針及び必要な規程の制定の件、⑥神戸明生園大規模修繕整備事業の工事公告内容の承認の件、⑦和生園共同募金受配車両の選定スケジュール並びに業者選定及び予定価格の決定の件

ウ) 第186回理事会（2017年8月22日開催）

①議長選任の件（定款施行細則第11条要件、同第13条2項勘案）、②議事録署名人選任の件（定款第28条1項要件）、③神戸明生園旧館大規模修繕工事の入札参加業者選定の件、④2017年度改修工事（神戸聖生園・神戸光生園）の入札参加業者選定の件、⑤神戸愛生園の特殊浴槽更新に係る入札（見積合せ）参加業者承認及び予定価格決定の件、⑥竹田地区施設キュービクル設備改修工事实施承認と、入札（見積合せ）参加業者承認及び予定価格決定の件、⑦2017年度1次補正予算案承認の件

エ) 第187回理事会（2017年9月16日開催）

①議長選任の件（定款施行細則第11条要件、同第13条2項勘案）、②議事録署名人選任の件（定款第28条1項要件）、③神戸明生園旧館大規模修繕工事の入札結果及び契約業者承認の件、④2017年度改修工事（神戸聖生園・神戸光生園）の入札結果及び契約業者の承認の件、⑤神戸愛生園の特殊浴槽更新に係る郵便入札結果及び契約業者承認の件、⑥北但広域療育センターの指定管理者応募（申請）の件

オ) 第188回理事会（2017年11月21日開催）

①議長選任の件（定款施行細則第11条要件、同第13条2項勘案）、②議事録署名人選任の件（定款第28条1項要件）、③さくらの苑隣接土地の買収の件、④2017年度改修工事（神戸光生園）実施の件、⑤2017年度2次補正予算の件、⑥労働契約法改正に伴う就業規則一部改定の件、⑦母性健康管理に伴う規程整備の件、⑧育児・介護休業法改正に伴う規則一部改定の件、⑨正職員給与規程一部改定について、⑩昇格・昇任規程整備の件、⑪ひょうご・すま地域生活支援センターの事業評価による事業受託について

カ) 第189回理事会（2017年12月12日開催）

①議長選任の件（定款施行細則第11条要件、同第13条2項勘案）、②議事録署名人選任の件（定款第28条1項要件）、③2017年度改修工事（神戸光生園）の業者決定の件、④2018年度神戸聖生園空調工事計画及び業者選定の件、⑤就業規則等の一部改正の件、⑥給与規則の一部改正の件、⑦真生園指定障害福祉サービス事業所に対する兵庫県実地指導による是正改善報告の件、⑧ケアホームきたすまの神戸市補助によるスプリンクラー設置事業並びに設置工事業者の決定の件

キ) 第190回理事会（2018年1月20日開催）

①議長選任の件（定款施行細則第11条要件、同第13条2項勘案）、②議事録署名人選任の件（定款第28条1項要件）、③2018年度改修工事（神戸聖生園空調改修）の建築業者見積書審査並びに工事業者の決定の件、④北但広域療育センター事業の児童発達支援セ



ンター設置に伴う新規事業申請及び事業廃止に関する件

ク) 第 191 回理事会 (2018 年 3 月 20 日開催)

①議長選任の件 (定款施行細則第 11 条要件、同第 13 条 2 項勘案)、②議事録署名人選任の件 (定款第 28 条 1 項要件)、③2017 年度 3 次補正予算案の件、④施設長人事の件、⑤神戸友生園・ワークセンターわかまつの利用定員変更の件、⑥就労定着支援事業の開始の件、⑦2018 年度事業計画案の件、⑧2018 年度改修工事計画の件、⑨2018 年度予算案の件、⑩2018 年度改修工事 (恵生園、真生園屋上防水) の入札参加資格決定の件、⑪同真生園ナースコール設備更新工事に係る指名競争入札業者選定の件、⑫給与規程の一部改訂の件、⑬さくらの苑開業時運営資金の長期的返済のための金融機関借入の件

(3) 第 3 期中期計画実現会議

ア) 第 1 回実現会議 (2017 年 6 月 30 日開催)

①推進部 4~6 月推進状況報告 (理念・職員育成・QOL・経営強化・地域貢献・人事労務危機管理)、②施設 4~6 月推進状況報告 (和生園・こじか・神戸聖生園・神戸愛生園)、③協議

イ) 第 2 回実現会議 (2017 年 9 月 29 日開催)

①施設 7~9 月推進状況報告 (平生園・わらしべ・神戸友生園・神戸光生園・神戸明生園・せいれいやさかだい)、②推進部 7~9 月推進状況報告 (理念・職員育成・QOL・経営強化・地域貢献・人事労務危機管理)、協議

ウ) 第 3 回実現会議 (2017 年 12 月 26 日開催)

①施設 10~12 月推進状況報告 (真生園・さくらの苑・ワークセンターわかまつ・ワークセンターひょうご・ひょうごデイサービスセンター)、②全施設の 2017 年度実行計画のゴール予測、③推進部 10~12 月推進状況報告 (理念・職員育成・QOL・経営強化・地域貢献・人事労務危機管理)、④2018 年度各推進部重点取り組みから、各施設の事業計画に取り入れてもらいたいことの提案

エ) 第 4 回実現会議 (2018 年 4 月 11 日開催)

①施設 1~3 月推進状況報告 (恵生園・北但広域療育センター・自立センターひょうご・すま障害者地域生活支援センター・ひょうご障害者地域生活支援センター)、②推進部 1~3 月推進状況報告 (理念・職員育成・QOL・経営強化・地域貢献・人事労務危機管理)、③全施設および推進部の 2017 年度計画実現結果表の提出、④全施設および推進部の 2018 年度計画推進年間計画表の公表

4. 成年後見制度活用推進

(1) 活用推進委員会活動状況

ア) みまもり通信第 17 号、18 号、19 号発行

イ) 研修会開催

①但馬地区基礎研修「レッツスタート成年後見」

2017 年 12 月 12 日 (火)・さくらの苑

(講師) 丹有法律事務所馬場民生弁護士

②神戸地区基礎研修

2017 年 11 月 30 日 (木)・北須磨自治会館

(講師) 馬場法務事務所行政書士・社会福祉士馬場敏彰氏

### ③実務研修

2018年3月15日（木）・中部在宅障害者福祉センター

（講師）馬場法務事務所行政書士・社会福祉士馬場敏彰氏

#### (2) 活用実績（2018年3月31日）

事業所名	利用者・登録者数	後見	保佐	補助	任意後見	合計
恵生園	62	7	5	0	2	14
真生園	59	6	0	0	0	6
和生園（GH含む）	47	0	0	0	0	0
平生園	60	2	0	0	0	2
さくらの苑	174	1	0	0	0	1
高齢者グループホームわらしべ	18	0	0	0	0	0
北但広域療育センター	13	0	0	0	0	0
神戸聖生園（GH含む）	73	3	0	0	0	3
せいれいやさかだい	42	5	0	0	0	5
神戸愛生園	48	10	0	0	2	12
神戸友生園	42	1	0	0	1	2
神戸光生園（GH含む）	100	7	1	0	0	8
神戸明生園（GH含む）	83	20	0	0	0	20
ワークセンターひょうご	21	0	0	0	0	0
自立センターひょうご	65	5	1	0	0	6
ひょうごデイサービスセンター	111	6	0	2	0	8
ワークセンターわかまつ	35	0	0	0	0	0
すま障害者地域生活支援センター	896	12	2	1	0	16
ひょうご障害者地域生活支援センター	768	2	3	4	0	9
合計	2,606	87	12	7	5	110

## 5. 出来した事案

2017年度に出来した法人本部が危機管理上関与すべき事柄は以下の通りでした。

### (1) 虐待が疑われる支援行為事案2件

- ① 神戸地区事案：グループホーム利用者を事業文書授受の幸便役にしていた。

4/4 異動した職員が気づき施設の利用者権利侵害通報⇒4/14 虐待通報⇒4/17 通報者と面談し対策について合意⇒4/26 理事長から「点検と改善の注意喚起」発出

- ② 神戸地区事案：グループホーム利用者間のトラブルを止めようとして顔を叩いた。

5/13 GH 利用者さん間のトラブルに介入した世話人が、利用者に手を上げた別の利用者の「顔を叩く」トラブルの発生について、施設長から報告⇒5/16 施設長から神戸市へ連絡相談⇒5/18 神戸市指示により報告書提出⇒6/1 神戸市が実地指導として当事者から聞き取りし、後日「虐待と取り扱わない」と指示あり

### (2) 利用者事故事案1件

- ① 神戸地区事故：見守り中、転倒され眼球が破裂

5/22 事故の1報⇒5/26 手術（成功）と報告あり⇒7/12 施設長から現状報告（被害者家族のご意向等）⇒8/25 利用者の状況、保険対応の状況、関与した職員の状況について報告（施設長から）⇒10/12 補償示談成立

(3) 利用者間トラブルへ不十分な介入事案 1 件

① 神戸地区事案：利用者間トラブルへの介入による名誉棄損事案

7/12 施設長から現状報告⇒9/6 常務理事がご家族並びにご本人に面談し訴えを伺うとともに裁判所調停の利用を依頼⇒9/14 調停制度利用困難判明（9/12）により顧問弁護士立会いによる示談と金額（示談金額 30 万円）及びケア記録の補筆修正につき合意⇒9/21 示談書取り交わし

(4) 支援体制への苦情 1 件

① 神戸地区事案：施設長及び特定職員の適性に関する疑義の苦情

10/12 聖隷福祉事業団監査室長より当法人施設長及び特定職員に対する苦情並びに調査依頼の投書（匿名）が本部へ転送⇒10/16 ほぼ同じ内容で当法人宛に「家族会代表」名で投書あり、同時に本部への電話あり実名が確認できるも、後、匿名投書が数回継続。神戸地区理事により電話の本人に面談を申入れ実施するとともに、先方希望に基づいて1/20 に水野理事長が本人夫婦と面談し、可否を分けて対応する旨を伝えた。施設長等への面談も実施し職制の補充による支援体制強化を実施した。

(5) パワハラ通報事案 3 件

① 但馬地区事案：利用者から施設職員のパワハラの匿名による訴え

4/18 施設の職員の対利用者パワハラ通報（匿名）⇒4/19 常務理事が当該職員面談⇒4/26 但馬地区理事による日常対応策決定⇒5/1 通報対応策を施設長と当事者へ通知⇒地区総合施設長が適宜面談実施

② 但馬地区事案：施設第三者委員から常務理事へ、看護師が抱く医師の業務へ持続的不満に対して前施設管理者による適切な対処がなされておらず、現状は「一種のパワハラ」であるとの通報

5/31 施設職場状況について常務理事が施設長面談し、訴えの当事者との面談実施を決定⇒6/9 当事者及び施設長と面会し希望を聴取⇒その後平静

③ 神戸地区事案：職員の知り合いと言う匿名のパワハラ訴え

7/24 ホームページ問合せ口から匿名で、施設長を特定してパワハラとの苦情申し立て⇒施設長ヒアリングの結果「思い当たらない」⇒発信アドレスへ返信可能であり、有川理事から「もう少し具体的に」と要請⇒9/13、「休みが許可されない」などとあるも、その確認と対応をとるにも職員がわからない⇒さらに「具体的に」と要請中もそれには応えず、同理事に対して施設長への何らかの処分を求めるメールが間欠的に届く状況

(6) 苦情事案 1 件

① 神戸地区事案：相談支援センターの対応に不満、人事異動の要求

4/10、ヘルパー事業所の紹介依頼、その後、「自分で探せと言われた」として、適正化委員会等各所へ電話苦情訴え⇒5/22 兵庫県社会福祉サービス運営適正化委員会が見解を訴えの本人と神戸市障害者支援課へ連絡すると通知あり⇒5/24 神戸市関係各部署と当該相談支援センターの会議⇒7/13 当該相談支援センター苦情解決委員会開催⇒その後もセンターへほぼ毎日電話はあるが、職員対応によりセンターへの不満は減少。不満の矛先が行政や他の支援センターに移る。現在も電話対応中

(7) 経理処理不備事案1施設

① 但馬地区事案：経理事務処理不備

4/29 決算書違算発見（1拠点）、処理対応⇒6/9 但馬地区事務員による対策検討⇒7/19 同拠点事務状況確認スケジュール決定⇒9/7 当該拠点事務担当者へ 7 月分伝票処理指導⇒10/5 当該拠点事務担当者へ 8 月分伝票処理指導⇒但馬総合事務所副主任による継続指導継続により改善

6. 地域貢献・交流

(1) 但馬地区福祉体験学習実践（点字指導・手話指導）

ア) 恵生園事業報告参照

(2) 但馬地区「第5回神戸聖隷杯グラウンドゴルフ大会」

ア) 2017年5月23日（火）、筒江農村広場、参加者110名（うち地域の方73名）

(3) 老人クラブ交流会

ア) さくらの苑事業報告参照

(4) 成年後見制度活用講演会・研修会

ア) 「老後の不安を解決しませんか？—こんな時、成年後見制度が活かれます」

2017年11月11日（土）・さくらの苑

イ) 「将来の不安を解決しませんか？—わかりやすい成年後見制度研修会」

2017年11月30日（木）・北須磨団地自治会館

(5) 神戸地区ほっとかへんネット参加

ア) 神戸光生園事業報告参照

イ) ひょうご障害者地域生活支援センター事業報告参照

ウ) ワークセンターわかまつ事業報告参照

(6) 自治会参加・地域イベント開催・地域の祭り協賛出店

ア) 恵生園（あったかプラザ）：折り紙教室・地域清掃・介護予防脳トレ教室など

イ) 和生園：竹田駅周辺ゴミ拾い・地区自治会会議参加・夏祭り協賛

ウ) 平生園・さくらの苑：竹田上町元気会対象の困りごとアンケート実施

エ) 神戸友生園：北須磨団地「ふる里祭り」出店（たこ焼き・お茶販売）

オ) 神戸光生園：和太鼓チーム出演・自治会の公園清掃参加

カ) グループホームみなみたもん：自治会主催防火訓練参加

キ) グループホームふくだ：地域自治会加入・近隣小学校夏祭り参加

ク) ケアホームきたすま：自治会清掃に参加

ケ) ひょうごデイサービスセンター：センター前清掃

コ) 自立センターひょうご：兵庫駅前清掃（月1回）・第1回よつば寄席（地域落語会）

サ) ワークセンターわかまつ：妙法寺川（須磨区）桜祭り出店・須磨音楽の森出店・

わだやま竹田お城祭り出店・長田区池田小学生地域ボランティア養成講座受入

シ) せいれいやさかだ：地域高齢者茶話会・地域高齢者友愛訪問・サロン活動（月1回）

(7) オープンクリスマス会

ア) 理念理解定着部会事業報告参照

(8) 地域住民の作品展示スペース提供

ア) あったかプラザ

① パッチワーク展 2017.3.24～4.21・マルゴン

- ② 書道展：2017. 5. 26～7. 25・風信書道会
- ③ 写真展：2017. 7. 26～10. 13・松岡均さん
- ④ 絵画展：2017. 10. 14～11. 20・船田實さん
- ⑤ 粘土細工展：2017. 12. 1～2018. 1. 6・小野光子さん
- ⑥ 絵手紙・粘土細工展：2018. 2. 7～3. 11・鍛冶洋子さん
- ⑦ 雛飾り：2018. 2. 9～・米山さん
- ⑧ 絵画展：2018. 3. 10～4. 10・船田實さん

4) 神戸聖隷歴史資料館

- ① 押し花展：2017. 3. 30～4. 12・押し花二人会
- ② 絵画展：2017. 10. 2～10. 31・片岡丈太郎さん
- ③ 竹田秋祭り写真展：2017. 11. 16～11. 30・竹田秋祭り奉賛会
- ④ 書道展：2018. 1. 9～2. 28・玄同会 和田山支部
- ⑤ ネコの写真展：2018. 3. 1～3. 30・井口達也さん

## 7. 広報他

(1) 洗足発行

ア) 2017年7月31日

- ①グループホームふくだオープン、②成年後見制度の活用、③ヒガミ常務の「社会福祉法人改革の、これだけは言わせて」第1回、③施設紹介さくらの苑、④事業計画、⑤決算報告、⑥吉川牧師メッセージ「モデルを見つめて」

イ) 2017年11月17日

- ①おいでやすカーニバル、②インド聖隷希望の家の実習生、③神戸聖隷福祉事業団感謝祭、④第3期中期計画取組み報告 Vol. 1、⑤第3期中期計画 QOL 推進部会、⑥第3期中期計画職員育成部会、⑦成年後見制度の活用シリーズ 14、⑧ヒガミ常務の「社会福祉法人改革の、これだけは言わせて」第2回、⑨吉川牧師メッセージ「真のモデル」

ウ) 2018年3月15日

- ①書初めと餅つき大会（神戸聖生園）、②自立センターひょうご新年会、③第3期中期計画理念理解定着部会、④第3期中期計画経営強化推進部会、⑤真生園で土用干し、⑥恵生園クリスマスコンサート、⑦神戸聖隷における成年後見制度の活用、⑧但馬と神戸で成年後見制度講演会、⑨海外研修 in タイ王国、⑩ヒガミ常務の「社会福祉法人改革の、これだけは言わせて」第3回、⑪吉川牧師メッセージ「ことばを残して」

(2) パンフレット更新

ア) コンセプト：「我が事・丸ごと」

- イ) 変更点：福祉サービスフィールドマップを作成し利用者や家族が目的別に索引しやすく

(3) 中期計画リーフレット公表

ア) 法人計画版

- (ページ構成) ①第3期中期計画策定方針、②第3期中期計画策定への取組み、③神戸聖隷福祉事業団の2025ビジョンイメージ、④輝こう2025 経営戦略マップ、⑤2020～第3期中期計画の現状の課題・問題と取組み方針、⑥2020～第3期中期計画の重点実施項目とBSC実行計画、⑦中期事業目標1 社会福祉法人の使命を果たすため、固く理念に立ちます、⑧中期事業目標2 福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります、⑨中期事業目標3 ひとり一人のQOLを生涯にわたって支えます、⑩中期事

業目標 4 社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます、⑪中期事業目標 5 安心して暮らせる地域の実現に尽くします、⑫私たちは中期計画の中核として、社会福祉充実計画を推進しています、⑬社会福祉充実計画の取り組み方針と重点項目

イ) 施設計画版

(ページ構成)①輝こう 2025 経営戦略マップ、②2020 へ 第3期中期計画の現状の課題・問題と取り組み方針、③中期事業目標 1～中期事業目標 5

(4) フェイスブックによる施設情報発信

「職員の働く姿」を中心に、2017 年度中に 101 回の投稿を実施。登録者数 358 人。

(5) 他法人協力、講師等

ア) 役員・評議員委嘱 (社会福祉関係)

イエス団理事 (水野)、神戸いのちの電話理事長 (水野)、PHD 財団理事長 (水野)、頌栄保育学院理事 (水野)、春秋会理事 (吉田)、兵庫県社会福祉法人経営者協議会理事 (吉田)、二色福社会評議員 (有川)、須磨区社会福祉協議会理事 (加藤)、まほろば監事 (加藤)、聖隷学園評議員 (加藤)、ひまわり評議員 (西山)、養父市社会福祉協議会評議員 (伊崎)、垂水区社会福祉協議会評議員 (吉本)、神戸市兵庫区社会福祉協議会評議員 (村山施設長)、朝来市社会福祉協議会評議員 (足立和子真生園事務員)

イ) 講演等

西脇市教育委員会「生徒指導研修会」、全国 YMCA 専門職研修 (水野)、聖隷クリストファー大学講義「聖隷の理念と歴史-神戸聖隷のはたらき」(神戸聖生園西郷施設長)、全国経営協「改正社会福祉法フォローアップセミナー」地域貢献実践発表 (さくらの苑小山介護課長)、兵庫県経営協「経営計画シンポジウム」(吉田)

以上

## 2017年度事業報告

施設名 神戸聖隷歴史資料館

管理者 吉田 和夫

総括.

- (1) 法人内の認知度は向上しており、神戸地区を含めた多くのご利用者・職員が歴史資料館を観覧されました。一般来館者も含めると1年間に約600名の来館者がありました。海外研修生(モンゴル自治区研修生、インド聖隷ディル氏)へも歴史資料館の内容を発信しました。
- (2) 越智顧問による法人の歴史勉強会を計8回開催しました。但馬地区各施設より約50名の職員が参加し、法人の成り立ち・法人理念の理解に取り組みました。
- (3) 竹田お城祭りや竹田秋祭りの際に歴史資料館を開館し、地域の認知度向上に取り組みました。12月には理念理解定着推進部会主催の神戸聖隷オープンクリスマス会を初めて開催し、竹田の子供達(約30名)に歴史資料館を知る機会としました。
- (4) 広報活動により5つの個人・団体にギャラリースペースにて作品展示をして頂きました。又、竹田秋祭りフォトコンテスト応募作品の展示会場の一つに選ばれました。

### 1. 会議室の利用実績

使用内容	回数	使用内容	回数
但馬地区施設連絡会	13回	QOL推進部会	3回
但馬地区施設長会	2回	法人広報委員会	1回
但馬地区事務連絡会	3回	和生園事務関係会議	3回
但馬地区各種ヒアリング	4回	新規事業関係打合せ	6回
但馬地区人事考課評価審議会	1回	よろず福祉相談所設置会議	1回
歴史資料館・総合事務所運営委員会	1回	ストレスチェック関係会議	2回
常任理事会	4回	和田山地の塩伝道所関係会議	3回
中計実行管理会議	5回	但馬地区昇任・昇格候補者面接	2回
全体施設長会	3回	法人内研修・行事	3回
理念理解定着推進部会	11回	改修工事郵便入札	1回
経営強化推進部会	6回	テレビ会議システムデモ	2回
地域貢献推進部会	3回	協会けんぽ特定保健指導	1回
人材育成推進部会	2回	その他打合せ・話し合い等	14回

### 2. ギャラリーの利用実績

展示品	開催期間	出展者
押し花展	2017年3月30日～4月12日	押し花二人会
絵画展	2017年10月2日～10月31日	片岡丈太郎
竹田秋祭り写真展	2017年11月16日～11月30日	竹田秋祭り奉賛会
書道展	2018年1月9日～2月28日	玄同会 和田山支部
ネコの写真展	2018年3月1日～3月30日	井口達也

以上

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 平生園  
 施設長 松本雄二

### 平生園中期事業目標

地域包括ケアシステムにおける特別養護老人ホームの役割の中で、地域の拠点として在宅介護サービスに積極的に取り組みます

2017年度より第三期の中期計画がスタート致しました。平生園の中期事業目標はさくらの苑と共通であり、両施設が協力して推進していますが、まず平生園は職員の学習から始めました。リーダーとなる職員を朝来市主催の地域包括ケアシステム推進会議に定期的に派遣して知識を習得させた上で、その職員が講師となって、全職員を対象として地域包括ケアシステムについての施設内勉強会を開催しました。そして10月に朝来市地域包括支援センターや但馬長寿の郷の方を講師に迎えて、さくらの苑と共催で地域包括ケアシステムについての研修会を開催しました。ただ、知識は一時的なものなので、中期事業目標を軌道に乗せるためには、同様の研修会を定期的に持たなければと考えています。

2017年5月にさくらの苑が開設されましたが、居宅介護支援事業所や短期入所生活介護が平生園からさくらの苑へ移設、旧さくらの苑も移設によりデイサービスも平生園から遠くなってしまい、地域の情報を収集する面で大変困難な状況にあります。地域包括ケアシステムを推進する上で地域の皆様のニーズ把握は必要不可欠と考えられますので、これからの解決すべき大きな課題となっています。

収入面では、さくらの苑開設に伴い介護福祉士資格を有した職員が平生園とさくらの苑に分けられた関係で、日常生活継続支援加算（利用者：有資格者 6：1以上の配置）が算定不可能になり、当初予算と比較して大きな収入減となりました。制度が変わり介護福祉士資格を取得するためには年間数百時間の実務者研修が必要となりましたが、これまで平生園においては介護員を潤沢に配置できていなかったため、資格取得のための実務者研修に職員を派遣できなかったことも加算を算定できなかった原因の一つとして考えられます。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域住民の困りごとの調査	①調査方法の検討・分析・支援実施・委員会開催	ア)4月、6月、9月全体会議実施 イ)5月、7月、8月書面にて進捗状況共有 ウ)さくらの苑との合同会議に出席(9月) エ)困りごと調査内容の検討(さくらの苑連携) オ)竹田上町元気会を対象にアンケート実施、集計	△



実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
<p>ボランティアの受入れから育成までのシステムを確立</p> <p>地域とのつながりの充実</p>	<p>①ボランティアコーディネーターの設置</p>	<p>ア)5月、6月実施</p> <p>イ)4月、8月、9月書面にて進捗状況共有</p> <p>ウ)地域ボランティアの情報収集実施</p> <p>エ)ハンドマッサージ「おとめの会」 日高高校、生野高校、和田山高校 竹田こども園、芙蓉の会、さざなみ会へボランティアを依頼</p> <p>オ)＜団体＞ボランティア実績 ハンドマッサージ(5月、6月、8月)、赤ちゃん先生プロジェクト(6月)、日高高校、生野高校、和田山高校(8月)、平生園家族会(10月)、さざなみ会(7月、9月、10月、11月)、竹田こども園交流会(9月)、竹田城案内上映説明・民謡・指遊び等ボランティア(9月)、芙蓉の会(12月)</p> <p>カ)＜個人＞ボランティア実績 学生、地域住民ボランティア(8月6回、10月3回、11月5回、12月1回、1月3回、2月1回、3月6回)</p>	○
	<p>①行事内容の検討・実施</p>	<p>ア)全体会議実施(6月)</p> <p>イ)4月、5月、7月、書面にて進捗状況共有</p> <p>ウ)家族会懇親会(5月)、夏祭り(8月)運動会(10月)、クリスマス祝会(12月)、正月行事(1月)、節分行事(2月)</p>	◎
<p>地域包括ケアシステムを学び知識を身につける</p>	<p>①地域包括ケアシステムの研修受講(全職員)委員会の開催</p>	<p>ア)全体会議実施(4月、6月、9月)</p> <p>イ)5月、7月、8月、進捗状況共有</p> <p>ウ)10月開催の学習会講師を高年福祉課地域包括支援センターに依頼</p> <p>エ)朝来市地域包括ケアシステム推進会議、報告会議出席(5月、11月)</p> <p>オ)地域包括ケアシステムコラム発行(8月、12月)</p> <p>カ)地域包括ケアシステム研修会(10月)</p>	○

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
地域包括ケアシステムを学び知識を身につける	①地域包括ケアシステムの研修受講（全職員）委員会の開催	キ) 地域包括ケアシステム(朝来市について)各フロアに掲示 ク) 全資料ファイリングし各階に設置(12月) ケ) 習熟度確認プリント作成(9月) コ) さくらの苑にて開催の勉強会に参加(9月)	○
介護予防事業の充実	①介護予防の必要性を学ぶ	ア) 全体会議実施(4月) イ) 朝来市主催の地域包括ケアシステム報告会議に出席 介護予防、認知症予防について市の取り組みを学習(5月) ウ) 介護予防研修実施(11月)	○
定期巡回・随時対応システムを視野に入れた地域サポート型施設の構築	①地域サポート型施設を学び、参入を検討する	ア) 平生園単独での活動は難しいため、さくらの苑の委員会に職員2名派遣(9月)	×
事業所の特長やサービス内容をわかりやすく伝える事の出来るパンフレットの作成・配布	①パンフレットの内容検討と作成	ア) 5月に事業内容が変更となったため、パンフレットの内容を一部更新 イ) 機関誌発行	○
	①平生園独自のフェイスブックの立ち上げ	ア) 平生園独自のフェイスブックの立ち上げは未実施 イ) 法人フェイスブック定期更新実施	○
	①マニュアルの内容検討と作成	ア) マニュアルの内容検討と作成は未実施	×
修繕計画の確認と計画をする	①修繕計画箇所再考エレベーター修理	ア) エレベーター修理完了	◎
旧短期入所利用の空部屋の活用方法の検討	①空き部屋活用の計画・検討・事業立案	ア) 資金難で今年度は断念	△
	①積立金の実施	ア) 計画通り積立金実施	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
安定した収入の確保  経費削減	①空床期間の短縮 居宅介護支援事業所から情報収集	ア)2回/月の入所判定委員会の開催 (職制会、職員会議後) イ)定期及び空床時、市内居宅介護支援事業所へ短期入所利用を依頼 ウ)利用者の状態を把握し、必要に応じて介護度変更申請提出(3名) エ)目標稼働率97%に対し、96.6%で未達	○
	①業務内容の精査 職員への意識付け	ア)KOYOからユニチャームに試験的に変更(8月～) イ)水道光熱費データ報告 ウ)職員会議にて水道光熱費データ報告し削減の協力を要請(9月、1月)	○
各種マニュアルの更及び作成	①副主任、主任、各委員会にてマニュアルの有無の調査	ア)各委員会開催 イ)マニュアルの有無の確認 ウ)マニュアルの確認および更新(感染症=食中毒版、利用者個別介護マニュアル) エ)新規入居者の介護マニュアル作成	○
先進施設の取り組みを学ぶ	①先進施設の取り組みと、平生園の違いについて調査	ア)先進施設の取り組みと、平生園の違いについての調査は未着手	×
アセスメントを実施し、個々のニーズを把握した支援の実施	①ほのぼのNextの包括的自立支援プログラムについての学習会を実施	ア)各ユニット会議にて概略について説明 イ)ほのぼのNextの包括的自立支援プログラム使用方法についてのマニュアル作成に着手 ウ)包括的自立支援プログラムケアプラン研修会に職員4名派遣	○
	①ニーズ調査(アセスメント)から年間計画を作成	ア)ニーズ調査未実施	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
計画的な研修の実施	①年間計画、実施	ア)委員会の開催 イ)委員会による研修の実施および外部研修参加 おむつの当て方講習会、専門的人材派遣事業（介護技術講習会、ポジショニング、介護予防）、感染症学習会（2回）、避難訓練（2回）、虐待、拘束、事故防止委員会勉強会、普通救命講習会、認知症学習会/認知症キャラバンメイト養成講座、高齢者虐待対応力向上研修、ターミナルケア勉強会、たん吸引研修「不特定の者対象(第2号基本研修)、成年後見制度研修、ケアマネ更新研修、個人情報/守秘義務学習会	◎
人事考課制度の継続、浸透	①人事考課制度の継続	ア)適宜及び職員会議にて説明 イ)上司による個別指導の実施 ウ)目標管理制度の個人目標の作成と、上司による個別指導の実施 エ)共通要素評価表、専門要素評価表、目標管理表を基に上司によるフィードバック面接を実施	◎
エルダー制度の活用	①エルダー制度実施の中で、エルダーと副主任、課長、新人とエルダーとの相談時間を確保	ア)新任職員研修にて、エルダー制度について説明 イ)エルダー、新任職員それぞれと面談し、評価と課題について助言 ウ)エルダー報告書、職員育成到達目標表を活用し、新人職員の介護技術の習熟度や悩みなどに適宜助言	◎
キリスト教福祉の理解	①キリスト教福祉講座への参加 朝礼時に牧師によるメッセージを1回/月実施	ア)キリスト教福祉講座へ職員2名を派遣（9月、10月、11月） イ)朝礼、職員会議時に法人理念を唱和 ウ)職員会議、朝礼にて牧師による礼拝実施 （4月、5月、8月、9月、11月、12月、1月、2月）	○

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
法人基本理念を学び、理解を深める	①勉強会を開催・歴史資料館の見学 理念に沿った支援の実施	ア) 新任職員オリエンテーションにて、キリスト教理念に基づいた利用者主体の支援について説明 イ) 越智顧問による神戸聖隷福祉事業団歴史勉強会に職員を派遣（5月、6月、7月、9月、11月、12月） ウ) 他法人理念研修に職員派遣（12月＝課長研修、1月）	○

## 2. 出来た事案

特別な事案はありませんでした。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
事業所名 グループホームわらしべ  
施設長 松本 雄二

### グループホームわらしべ中期事業目標

#### 一人ひとりが役割と生きがいを持ち、地域と共に暮らす生活の実現

2017年度より第三期の中期計画がスタート致しました。当事業所は平生園と兼務である施設長を含めても正規職員は4人しかおりません。そのため多くの計画について臨時職員を担当者としてしましたが、正規、臨時全職員が中期計画の推進に努力した結果、ほとんどの年度計画を達成することができました。中でも地域への情報発信と地域との交流、ご利用者に寄り添う時間の充実には特に力を入れました。詳細な内容については以下の推進状況に記載しているとおりです。寄り添う時間の充実について少し説明しますと、これまでは職員が週3回半日かけて地域の小売店に食材や日用品の購入に外出していたものを、地産地消を目的に地元の魚市場や食品販売会社から直接配達してもらうことにより、時間の有効活用が可能となり、ご利用者の余暇活動や個別の対応に細かい配慮が可能となりました。また、魚市場直送で新鮮な食材を購入することが可能となり、ご利用者からもよい感想が聞かれ、確実に食事内容の質が向上しているものと判断します。

また、安全で安心、且つ快適な生活を提供しなければならない中で、冬本番を前にした昨年12月に空調が突然故障しましたが、他施設から暖房機を借用することにより、ご利用者にご不便をおかけすることなく乗り切ることができました。開設14年を過ぎ、各所に老朽化が目立つようになりましたが、空調の整備はもちろんのこと、定期的に点検を実施して計画的に修繕計画を立てなければと考えています。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
看板見直しとパンフレット等を活用した情報発信	①委員会立ち上げ・担当者選任	ア)委員会立ち上げ・担当者選任 (4月) イ)委員会実施 (4月、6月、9月、10月、12月)	◎
	②看板等の検討・設置	ア)現状の問題点確認(4月) イ)予算の確認(10万円) ウ)デザインの検討後、1月業者へ発注、2/24設置(旧看板撤去)	◎
	③パンフレット見直し・作成	ア)現状の問題点確認(4月) イ)現パンフレットの内容の見直し(9月) ウ)改訂版パンフレット作成(12月)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
看板見直しとパンフレット等を活用した情報発信	④機関紙発行	ア)機関紙編集会議 (8月、1月、3月) イ)原稿作成・提出(9月、2月、3月)	◎
地域活動への参加	①キャラバンメイト連絡会参加・活動への参加	ア)朝来市キャラバンメイト連絡会出席 (6月) イ)認知症サポーター養成講座に参加 (8月、11月、3月)	◎
関係機関との連携強化(情報共有)による収入確保	①居宅介護支援事業所への情報提供と共有による空床利用の推進	ア)入院による空床利用の推進・情報発信(5月、6月、8月、10月、11月、12月、2月、3月) イ)入院・退所による空床利用 (8月、11月、2月、3月)	◎
	②医療機関との連携、早期退院・退院後の調整等	ア)入院者のフォローと退院に向けた調整(5月、10月、11月、12月、2月、3月) イ)在宅医療への移行による入院減 (6月)	◎
入所申込者の情報調査	①入居申込者の情報確認	ア)入所申込みファイル整理・更新 (毎月) イ)入所申込者の意向調査(5月) ウ)入所申込者の面談(6月～2月の毎月)	◎
経費削減	①職員会議にて収支に関する説明	ア)昨年度事業費の実態把握(8月) イ)収支の上半期集計と職員会議での報告(9月、10月) *下半期は2018年5月に報告予定	◎
	②毎月グラフ掲示(水道光熱費)	ア)水道光熱費をグラフ化し掲示 (7月以降毎月)	◎
	③半期毎の振り返り・予算に参画	ア)収支についての上半期集計・報告 (9月、10月) イ)実績状況(予算対比)の職員への報告と理解(10月以降毎月)	◎
	①他施設情報収集・消耗品等の見直し実施	ア)他施設より情報収集(7月) イ)調味料等のサンプル使用・モニタリング(8月、9月)	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
経費削減	②毎月の消耗品等の使用量確認	ア) 消耗品等の使用量の確認 (毎月) イ) 消耗品使用量の上半期集計 (9月) ウ) 消耗品の年間使用量集計 (3月)	◎
利用者ニーズ調査	①処遇チーム立ち上げ	ア) 処遇チーム立ち上げ (4月) イ) 委員会開催 (4月)	○
	②アンケート作成・実践	ア) アンケート作成 (4月) イ) アンケート集計 (5月)	△
ユニットでの実践	①ユニット毎の計画 (雅ユニット)	ア) 4月3回、5月1回、6月1回、7月3回、8月1回、9月2回、10月3回、11月2回、12月1回、1月2回、2月1回実施 (行事・外出)	◎
	②取り組み実践 (1回/月) (雅ユニット)	ア) ものづくりクラブ実施 (毎月 工作、壁面作り、行事) イ) 年間の作品展開催 (3月)	◎
	①ユニット毎の計画 (泰ユニット)	ア) 4月3回、5月1回、6月1回、7月2回、8月1回、9月2回、10月1回、11月3回、12月1回、1月1回、2月6回実施 (行事・外出)	◎
	②取り組み実践 (1回/月) (泰ユニット)	ア) 温泉の日、調理、壁面作り、行事 (月1~3回)	◎
選択肢を増やす	①選択肢を増やし希望のサービスを提供 (雅ユニット)	ア) 個別外出 (4月3名、6月2名、7月1名、9月2名、10月2名) イ) 誕生日希望メニューの提供 ウ) 故郷訪問の実施	◎
	②選択肢を増やし希望のサービスを提供 (泰ユニット)	ア) 個別外出 (6月1名、7月3名、9月2名、10月2名、2月1名、3月1名) イ) 誕生日希望メニューの提供 ウ) 毎週火・金曜日おやつの日を設定 (4月~) エ) 故郷訪問の実施	◎
	③振り返り	ア) 未実施	△



実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
相談支援の充実	①状態変化に応じた相談支援の実施(家族)	ア)状態変化による要介護度変更申請実施(6名) イ)状態変化による家族との面談実施(9名) ウ)家族へ特別養護老人ホームの情報を提供(8名)	◎
看取り支援の充実	①委員会立ち上げ	ア)委員会立ち上げ(4月) イ)委員会開催(4、6、7、9、10、12月) ウ)看取りについての方向性の確認	○
	②情報収集とマニュアル作成	ア)現状把握と他施設からの看取り資料収集(5月、6月) イ)現状に即した年間計画の見直しの検討 ウ)マニュアルの検討 次年度わらしべ版「グループホームでの看取りに必要なこと」作成を計画	△
	③看取り実施した場合 →振り返りアンケート	ア)仮アンケート作成(6月) イ)年間を通して看取りなし	○
職員教育(看取り)	①研修の実施・参加	ア)グループホーム連絡会のターミナル研修に委員2名参加(9月)	△
	②実施事業所見学・報告・伝達研修	ア)職員会議時に看取りに関する伝達研修実施(10月)	△
防災への取り組み	①委員会立ち上げ	ア)委員会立ち上げ(4月) イ)委員会開催(4月、7月、1月)	◎
	②情報収集とマニュアル見直し・作成	ア)火災、自然災害時の食料についての情報収集 イ)火災時避難マニュアル作成(5月) ウ)地震発生時マニュアル作成(8月) エ)マニュアル表の掲示(9月) オ)災害時の備蓄物についての検討	○
	③訓練実施・振り返り	ア)毎月の避難訓練実施(日中、夜間、地震等) イ)消防署立会い避難訓練の実施と消防教室の開催(5月) ウ)消防査察と消防署立会いの通報訓練実施(2月) エ)地震時の備え勉強会(2月)	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
防災への取り組み	④但馬地区・福祉村防災連絡協議会との連携による会議・訓練への参加	ア)福祉村防災連絡協議会会議出席 (6月) イ)福祉村合同防災訓練参加(8月) ウ)防災体験プログラムに委員1名参加 (1月)	◎
事故防止の強化	①ユニット毎の事故の検証と対策の実践	ア)事故報告書、ヒヤリハット報告書をもとにユニットで事故後の対策を検討(毎月) イ)上半期集計・報告(9月) ウ)下半期集計(3月)	◎
	②毎月職員会議にて周知	ア)5月以降、毎月の職員会議での報告と検証・周知	◎
	③危険予測の共有・気づきの実践	ア)5月以降、毎月の職員会議での報告と検証による共有の実施	◎
虐待・不適切ケアへの取り組み	①委員の任命・研修計画・参加	ア)虐待防止委員の選出(4名 4月) イ)職員へ身体拘束マニュアルの説明(5月) ウ)虐待防止判定基準表勉強会参加(8月) エ)グループホーム連絡会虐待防止研修に職員2名参加(10月)	◎
	②虐待防止標語の募集・毎日の唱和と実践	ア)募集した標語の掲示(2ヶ月毎の更新) イ)毎朝礼時の標語の唱和(通年) ウ)次年度の虐待防止標語の募集・集計、次年度への準備	◎
	③チェックリストの実施・ユニット会議での振り返り	ア)法人の虐待防止チェックリストの実施・集計・評価(9月、2月) イ)昨年度チェックの入った項目について各ユニットでの振り返り(毎月)	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
積極的な 研修参加 と伝達研 修の充実	①年間計画	ア) 平成 29 年度介護職向け専門研修 6 コースに申込み・受講 (但馬長寿の郷)	◎
	②認知症実践者研修受講	ア) 管理者研修受講 1 名 (5 月) イ) 認知症実践リーダー研修受講 1 名 (6 月～10 月) ウ) 認知症実践者研修受講 1 名 (7 月～10 月) エ) 介護支援専門員更新研修受講 (ケアマネ 1 名 10 月、11 月、2 月) オ) 施設ケアマネ研修受講 1 名 (3 月)	◎
	③ADL・看取り・身体拘束等 グループホーム主催研修 への参加	ア) 市内グループホーム連絡会主催の 研修会に参加 (5、6、8、9、10、11 月) (内容：ADL、認知症対応、ストレス、 ターミナル、虐待防止、感染症)	◎
	④伝達研修	ア) 職員会議時に伝達研修実施 (5、6、7、8、9、10、11、12 月)	◎
	⑤自施設研修企画・開催	ア) グループホーム連絡会「感染症研 修会」を自施設で実施 (11 月)	◎
記録ソフト活 用と勤務 ごとの業 務見直し	①業務内容の見直し・情報 収集	ア) 業務内容見直しのための職員アンケ ート作成・実施・集計 (4 月、5 月) イ) 委員会開催 (4 月、6 月、10 月) ウ) 業務分担表についての検討 (10 月)	△
食材購入 (献立)業 務の見直 し検討と 取り組み	②食事購入方法等検討・情 報収集	ア) 委員会開催 (4 月、6 月) イ) 現状把握と課題の抽出、食事のあり方 の検討 ウ) 食事提供方法、食材の買物の状況 を朝来市・養父市内のグループホ ームに聞き取り (7 月、8 月) エ) 食材購入方法について検討し 11 月 より地域の卸業者からの購入開始 オ) 食材購入の問題点、利用者の生活 の変化等を職員会議で共有 (12 月) カ) 卸業者からの仕入れ業務を全職員 へ伝達中	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
有効な会議の進め方の検討・実施	①会議進行の見直し	ア) 会議の進め方研修開催 (伝達研修) (5月) イ) 会議用レジュメを活用した職員会議の進行 (6月～)	◎
	②マニュアルの作成・実践	ア) 会議進行の要点・マニュアル (レジュメ)作成 (4月) イ) 職員会議でレジュメの説明 (5月) ウ) レジュメを使用した会議の実施 (6月～)	◎
法人理念の理解と共有	①理事長からのメッセージ (歴史を学ぶ)の依頼と実施	ア) わらしべ単独での理事長メッセージは困難。内山牧師を通じて基本理念を学習 (6月～職員会議時) イ) 越智顧問による神戸聖隷の歴史を学ぶ会参加 (6月、10月)	○
	②Q&A冊子を活用した勉強会の開催 (1回/年)	ア) 毎月職員会議にて、内山牧師によるQ&A冊子の内容を反映させたメッセージ	◎
キリスト教福祉の理解	①キリスト教福祉講座への参加	ア) 今年度は対象者 (主任、副主任) なし	×

## 2. 出来た事案

特にありません。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 さくらの苑  
 施設長 掃部久美代

### さくらの苑中期事業目標

地域包括ケアシステムにおける特別養護老人ホームの役割の中で、地域の拠点として在宅介護サービスに積極的に取り組みます。

2017年5月1日、新天地にてさくらの苑を開設いたしました。地域密着型特別養護老人ホーム29名、地域密着型通所介護18名、短期入所10名、居宅介護支援事業所の運営を推進して参りました。竹田街区において事業開始することになり、住民の方々との交わりを大切に地域全体の介護予防を目的としたサービス提供と元気な方々にも気軽に親しんでいただける老人ホームとして、竹田地区の元気老人会へ参加し、交流や困りごと調査のアンケートを行いました。また、キャラバンメイト養成研修を受け、認知症サポート養成講座を開催し、認知症高齢者に優しくあたたかい地域づくりに取り組んで行きました。今後、在宅サービスの利用者の介護のニーズ把握にとどまらず、家族の生活全般にかかわる福祉ニーズの把握、介護サービスを必要としない地域住民の福祉ニーズの把握が必要と考えます。

そして、新規開設での職員育成として体調不良となる職員がいる中で、介護職員がイキイキと働いてもらうために「日常業務の遂行」「チームワークづくり」等に力を入れ、安心して働くことのできる、明るい魅力ある職場作りに努めてまいりました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域の困りごと調査	調査方法の検討・分析・支援実施	ア) 委員会実施（8、9月） アンケート項目検討 イ) 困りごとアンケート調査を地域老人会との交流会にて実施（10月） 他施設とアンケート調査結果の内容の共有を実施 ウ) 竹田新町元気会と利用者、職員との交流会を実施（10月）	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
ボランティアの受け入れから育成までのシステムを確立	ボランティアコーディネーターの設置	ア) キャラバンメイト養成研修4名受講(9月) イ) 認知症サポーター養成講座をさくらの苑職員対象に開催(9月) ウ) ボランティアの受け入れ(8月タンポポ、9月竹田こども園・赤ちゃんボランティア) エ) ボランティア委員がボランティアコーディネーターを実施 ボランティアの受け入れ継続 認知症サポーター養成講座を竹田地区2地区、高等学校1校、病院1施設へ開催	◎
地域とのつながりの充実	行事内容の検討・実施	ア) 委員会開催(7、8、9月) イ) 竹田松明祭りに参加(7月) ウ) 感謝祭・クリスマス祝会について検討(8、9月) エ) 新規施設であり、全ての行事が初めてであったが、毎月ではないが季節に合わせた行事を実施	◎
地域包括ケアシステムを学び知識を身につける	地域包括ケアシステムの研修受講(全職員)	ア) 毎月委員会を実施し委員会メンバーで勉強会を実施(6、7、8、9月) イ) 職員会議にて委員会より地域包括ケアシステムについて説明(9月) ウ) 研修会実施に向けた検討会(8月、9月) エ) 地域包括ケアシステム研修を実施(10月)20名の職員が受講 未受講の職員の研修(伝達研修)未実施	○
介護予防事業の充実	介護予防の必要性を学ぶ	ア) 作業療法士との目標の確認、対象者への具体的アプローチを通しての介護予防の必要性を理解(7、8、9月) イ) 地域包括ケアシステムの研修を通し、地域での介護予防の学びを実施(9月) ウ) デイサービス利用者を中心に運動を実施、他施設と情報共有しながらADL改善の実施	○

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
地域サポート型施設への参入	地域サポート型施設を学び、参入を検討する	ア) 委員会を開催し地域サポート型施設について学ぶ (6～9月) イ) 地域サポート型施設 (いくの喜楽苑・かるべの郷) に聞き取りにて学ぶ (8、9月) ウ) イ) について委員会で聞き取り結果をもとに検討 (8、9月) エ) 地域サポート型施設見学を実施 (2施設)、また、研修会に参加し情報を収集しながら、困りごと調査を参考に取り組み内容を検討	○
フェイスブックの定期的な更新	フェイスブックの更新ペースの見直し	ア) 5月、6月、7月、9月に更新。 イ) 委員会会議を開催し、次の更新内容について検討 (7、8、9月) ウ) 法人広報担当者からの年間計画に沿ったフェイスブックの定期更新を実施	◎
パンフレットの作成・配布	パンフレットの内容検討と作成	ア) 委員会会議にて内容検討 (7、8、9月) イ) パンフレットの内容検討を行い未完成	△
施設見学の柔軟な受け入れと施設案内の実施	マニュアルの内容検討と作成	ア) 委員会会議にて検討 (8、9月) イ) 内容検討を実施。作成は未実施	△
修繕計画の確認と計画	積立金の実施	ア) 利用実績の確認実施 (6、7、8、9、月) イ) 今年度積立金はできず	×
安定した収入の確保	空床期間の短縮 居宅介護支援事業所へ情報提供	ア) 入所判定委員会の開催 (4、5、6、7、8、9月) イ) 上半期空床平均 4.5 日 (満床 7 月以降) ウ) 毎月初に事業所へ訪問し、ご利用募集と希望者の情報収集を実施 (5、6、7、8、9月) エ) 開所 3 か月間は満床になっておらず利用率は低くなっていたが、満床後 (8 月以降) は目標値を上回る。空床期間は平均 4 日 情報提供は月 1 回定期的実施	◎

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
経費削減	業務内容の精査 職員への意識付け	ア) 公用車リース契約時相見積にて約 7%の削減実施（9月） イ) 職員会議にて経費削減の意義を説明 （6月） ウ) 今年度取得予定加算はほぼ取得 経費は昨年度の実績がなく職員への 意識付けについても説明不足	○
各種マニ ュアルの 更新及び 作成	主任、副主任、各委員会 にてマニュアルの有無 の調査、作成、更新	ア) マニュアルの有無の調査、作成実施 （4、5、6、7、8、9月） イ) マニュアルの有無を確認後、各委員会 にてマニュアルの素案を作成、更新を 実施 職員会議にて委員会による勉強会を 5、6、7、8、9、10、11月に実施	△
先進施設 の取り組 みを学ぶ	施設見学と先進施設の 取り組みとさくらの苑 の違いについて調査	ア) 調査、検討実施（8、9月） イ) 課題を整理しながら、他施設のユニッ ト支援の情報を収集、職員に情報提供 を実施。支援へ反映	△
アセスメ ントを実 施し、個々 を知り 個々のニ ーズを把 握した支 援の実施	ほのぼの NEXT の包括的 自立支援プログラムに ついて学習会を実施	ア) ツール検討変更を実施（4月） イ) 24時間シートへ変更・学習会実施 （4、5月）シートの作成（9月） ウ) 24時間シート勉強会実施 各担当へ伝達。アセスメントをシート に反映	○
	ニーズ調査（アセスメン ト）から年間計画を作成	ア) 初回面接、生活場面でのニーズ調査 実施（5、6、7、8、9月） イ) 利用者・家族より聞き取り （5月～1月） 情報をもとに年間計画を作成	○
計画的な 研修の実 施	研修年間計画、実施	ア) 職員会議で研修計画作成、実施 （4、5、6、7、8、9月） イ) 外部職員研修への随時参加 （6、7、8、9月） ウ) 研修年間計画を研修委員会にて検討 作成 外部研修 延べ49名参加 内部研修 延べ28名参加	◎



実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
人事考課制度の継続、浸透	人事考課制度の報告	ア) 目標管理シートの確認。必要に応じて相談・アドバイス実施 (6、7、8、9月) イ) 目標管理を1年間通して職員会議、ユニット会議等で職員に周知	◎
エルダー制度の活用	エルダー制度実施の中で、エルダーと副主任・主任・課長・新人との相談時間を設ける	ア) 新人とエルダーの職員育成シート作成、相談を実施(6、8月) イ) 新人とエルダーの職員育成シート作成、相談を実施(6月～8月) 新規施設であったが年度末には職員連携良好	◎
キリスト教福祉の理解	キリスト教福祉講座への参加 朝礼時に牧師によるメッセージを1回/月実施	ア) 4名キリスト教福祉講座へ参加(9月) イ) 職員会議にて内山牧師によるメッセージ(5、6、7、8、9月) ウ) キリスト教福祉講座に4名参加(9、10、11月) 職員会議にて内山牧師によるメッセージを毎月実施	◎
法人基本理念を学び、理解を深める	勉強会を開催・歴史資料館の見学 理念に沿った支援の実施	ア) 神戸聖隷歴史勉強会に2名参加(9月) イ) 職員会議と職制会、ユニット会議での理念の理解と理念に沿った支援の確認(5、6、7、8、9月) ウ) 神戸聖隷歴史勉強会に2名参加(9月) 職員会議と職制会、リーダー会議、ユニット会議にて理念理解と理念に沿った支援の確認を実施	◎

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 恵生園

施設長 田路 松代

### 恵生園中期事業目標

障害特性（身体・知的・精神）に応じたサービスの提供と支援・対応力の向上

第三期中期計画の初年度でもありましたが、確実に進捗した計画もありました。特に、「あったかプラザでのイベント開催」では、地域の方々のニーズ調査結果から安価な食事提供に取り組み、会を重ねるごとに参加者は増えてきました。「日中活動の見直し」では、ご利用者の高齢化に伴う障害の重度化で製袋機の移設を視野にいった説明をご利用者やご家族に行い、理解を頂けたことは大きな一歩ですが、それに代わる活動提供について、次年度は確実に進めていく必要があることを痛感しました。また、「働きやすい職場環境づくり」の取り組みも毎週支援課ミーティングを実施し、相談する時や場を積極的に設け関係作りに取り組みました。支援記録システムを導入したことにより、連動機能により各種記録に取り込め作業時間の短縮へとつながりました。今年度は、準備の年として取り組みました。1年を終え全体を通して、目標到達の為の筋道や達成するために5つの視点に関わりあって取り組む事業計画を立てましたが、リンクすることが少なかったのではないかと反省します。

収入面では、高齢になるご家族の事を気遣い空床のあった地元施設へ転所や疾病等により退所された方があり、速やかな定員充足に至りませんでした。また、ノロウイルスやインフルエンザなどの感染症に多くのご利用者が罹患され、通所者や短期入所のご利用者が利用を見送られたこともあり利用人数確保や目標収入額達成に至らなかったことも影響しました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの抽出	<b>和田山地区施設の情報発信</b> <b>①和田山地区施設の検討会開催（2回/年）</b>	ア)6月の地区施設連絡会で協議した結果、情報発信のあり方を各施設再検討となる。 イ) あったかプラザで地域イベント写真を上映の為編集実施（9月） ウ) イベント写真を見やすいよう環境設定	△
	<b>恵生園の情報発信</b> <b>①機関紙「しあわせ」発行（2回/年）</b>	ア) 機関誌 179号発行（5月） イ) 機関誌 180号発行にむけ原稿収集、校正 ウ) 機関紙 180号発行（3月）	◎
	<b>②SNS（ホームページ・パンフレット・ブログ）発信</b>	ア) パンフレット更新（4月） イ) ホームページの更新（8月） ウ) あったかプラザブログ発信（12回/毎月）	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの抽出	地域ニーズの抽出 ①アンケート内容検討・調査実施(1回以上/年)	ア) あったかプラザでアンケート実施 (上半期 158名、下半期 339名) イ) アンケート結果に基づき、社会貢献メニュー「あったか定食」9月より開始 (上半期 1食、下半期 42食) ウ) 回答コーナー設置(10月)	◎
福祉体験学習の推進	福祉体験学習ニーズへ対応 ①福祉体験学習の開催(2回/年)	ア) 和田山高校に点字講師派遣(6月) イ) 生野中学校に利用者3名と手話講師派遣(7月) ウ) 梁瀬中学校に利用者2名と視覚障害者手引き講師派遣(7月) エ) 中川小学校に利用者2名と視覚障害者手引き講師派遣(7月) オ) 和田山高校に福祉体験学習講師派遣(9月) カ) 大蔵小学校にご利用者2名と点字講師派遣(11月)	◎
	指導者の育成 ①育成指導方法の検討・学びの場の開催(新規指導者1名/年)	ア) 和田山高校にて点字講師派遣(6月) イ) 新たな点字指導者を人選し、個別に点字勉強会実施(8月) ウ) 大蔵小学校にて点字講師(新規指導者)として参加(11月)	◎
地域との交流の場の開催	イベントの開催 ①あったかプラザでのイベント計画・実施・振り返り(2回/年)	ア) 第四金曜日にイベントを開催 ・地域清掃・折り紙(5月10名) ・地域清掃・ハーモニカコンサート(6月9名) ・折り紙教室(7月6名) ・めんつゆ作り(8月8名) ・折り紙教室(9月10名) ・お抹茶の点て方教室(10月15名) ・絵手紙教室(11月2名) ・折り紙教室(12月3名) ・体を温める飲み物作り(1月7名) ・大人の折り紙教室(2月11名) ・介護予防「脳トレ教室」(3月19名)	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
安定した介護給付費の確保	定員の充足 ①相談支援事業所、病院等より情報収集(1回/月)	ア)市町村・相談支援事業所へ施設案内を送付 (上半期:入所2名・短期5名新規契約) (下半期:入所3名・短期2名新規契約)	△
	②入所受け入れ検討委員会の開催・職員間情報共有(1回/月)	ア)受入検討委員会(1回/月)実施 イ)情報共有方法を見直し、回覧方式から全職員に対し資料配布へ変更(12月)	○
	確実な積立 ①経営進捗状況報告(1回/3か月)	ア)定員超過利用状況・事業別目標値達成状況チェック表に基づき職員会議で報告(6.7.9.12.3月) イ)法人全体の対目標・対前年度実績達成状況報告を職制会で報告(7.8月)	◎
無駄の排除と固定費の削減	無駄の排除 ①消耗品(紙・手袋類)の見直し	ア)トイレトーパー、ペーパータオル、手袋を試行し、各製品について商品変更実施(7月) イ)物品使用簿の記入を開始し、使用状況を把握(9月～)	◎
	固定費の削減 ①電気代2%削減策検討・提案・実施	ア)前年度までの電気代の推移確認(4月) イ)職員会議にて電気・水道代をグラフ表示化し、職員会議で確認(4～3月) ウ)館内エアコン消し忘れチェック(8.9.12月) エ)職員へ経費削減案についてアンケート実施(1月)	△
建物改修と居住環境の向上	建物改修 ①屋上防水、外壁改修工事箇所決定、見積り	ア)次年度改修工事に向け、真生園と合同協議し見積りを依頼 イ)2018年度7月改修工事完了に向け準備 ウ)屋上防水工事に傾注する為、延期 エ)浴室脱衣場床の腐食と浴室タイルの剥がれの為、屋上防水と一体型工事で準備実施	◎
	居住環境の向上 ①居住環境改善委員会開催、改善提案(1回/月)	ア)毎月の居住環境改善委員会未実施 イ)いこいスペース活用のアンケート実施(7月) ウ)作業倉庫の不用品整理(8月) エ)感染症流行期に居室換気を定時に行い発症や感染予防対策を実施	△

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
新たなサービスの提供	送迎サービスの提供 ①送迎サービスの内容検討、実施	ア)10月実施に向け、重要事項説明書・変更届提出 イ)給付費等の算定に係る体制等の関する届出受理通知受領(9/22付) ウ)相談事業所、ご利用者ご家族へ情報発信 エ)短期入所事業送迎サービス開始(10月～:延47人)	◎
	新たなサービスの開拓 ①新たなサービスの検討	ア)相談支援事業所に対して、ニーズ調査を実施(8事業所回答)	△
日中活動全般の見直し	製袋機を和生園へ移設 ①利用者、家族を含めた恵生園での移設協議	ア)全体集会と家族会にてご利用者・ご家族に移設に向けた動向を報告(4月) イ)和生園との移設協議実施(5、9月) ウ)家族会役員に移設計画を説明(3月)	△
	小グループ単位での日中活動提供 ①年齢、障害特性、希望に応じた日中活動の提供	ア)年齢、障害特性等に応じた日中活動提供未実施 イ)ご利用者、職員対象に日中活動アンケートを実施(4月) イ)アンケート結果を踏まえ、朝来生涯学習センターへ外部講師の情報収集実施(5月) エ)ご利用者アンケートで要望が多かった日中活動を提供(屋外歩行・紅葉見学) ウ)視覚障害者向け日中活動の提供(脳トレ体操・クッキング・壁面) カ)午前中、作業と併用して日中活動を開始(2月～)	○
将来を見据えた支援の提供	家族との担当者会議を開催 ①全利用者の将来の生活についての意向調査	ア)ご利用者へ意向調査実施(6月) イ)個別支援計画の目標と連動し、家族面談(7.8.9.10月延4名)	◎
	地域移行や他施設への転所希望者の支援 ①施設見学、体験利用希望者へ支援、移行・転所後の支援	ア)特別養護老人ホームへの移行(6月1名) イ)障害者支援施設の体験利用後転所(8月10月延2名) ウ)障害者支援施設の面談(8月1名)	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
標準化した支援の提供	支援マニュアルの見直しと運用 ①支援マニュアルの見直しと運用（1回/年）	ア) 支援マニュアルを見直し、全職員へ配布 イ) 支援課ミーティングで職員周知 ウ) ご利用者の入退所に伴い随時マニュアルを更新	◎
	②医療情報書の更新（1回/年）	ア) 変化のあった方を中心に更新（上半期29名、下半期28名）	○
	事故対策会議の実施 ①事故検証、防止策検討（ケース会議）、防止策実施、周知	ア) ヒヤリハット・事故報告書の回覧、情報共有実施 イ) ミーティングで事故検証と対策を協議 ウ) ミーティング資料としてヒヤリハット事故報告の集計表を簡素化 エ) 利用者のリスク状況に対する職員アンケートを実施（7月） オ) ミーティングで前月のヒヤリ・事故報告の内容確認・対応方法を共有（9～3月）	△
虐待・不適切ケアの検証と対策	身体拘束ゼロの理解と取り組み ①身体拘束検証、防止策（ケース会議）、防止策実施	ア) センサーマット使用のご利用者・ご家族へ説明し承諾書署名（1名） イ) 身体拘束状況確認と一覧表作成（4月） ウ) 「拘束用具体験」勉強会実施（6月） エ) 身体拘束勉強会実施（2月）	○
	個人情報保護の取り組み ①個人情報書類の確認・管理・周知	ア) 個人情報書類の説明実施（4月） イ) 「マイナンバーの取り扱いについて」勉強会実施（4月） ウ) フェイスシート更新完了（6月） エ) 書庫整理・保管期限過ぎの書類処分実施（9月） オ) 「USBの取り扱い等個人情報保護」勉強会実施（10月）	○
	虐待防止の取り組み ①不適切ケアの検証、防止策検討（ケース会議）、防止策実施	ア) 虐待・不適切ケア判定基準表を活用した事例検証実施（5月） イ) 虐待・不適切ケア判定基準表「訪問学習会」受講（6月） ウ) 「不適切な記録をなくそう勉強会」実施（7月） エ) 虐待チェックリスト実施（9.2月） オ) 虐待・不適切ケア判定基準表を活用した事例検証実施（2月）	△

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
成年後見 制度利用 の推進	<b>制度理解</b> <b>①成年後見制度勉強会・ 研修会の開催（2回/ 年）</b>	ア) 制度利用状況と急を要する対象者について検討 イ) 職員会議で勉強会実施(7月) ウ) 家族会で研修会実施(9月) エ) 家族会役員対象の司法書士による相談会実施(10月) オ) 但馬地区成年後見基礎研修参加(12月)	◎
	<b>必要な方への支援</b> <b>①必要な方へ制度活用の 推奨、手続支援の実施 (3名/年)</b>	ア) ご利用者とその家族に対して、制度利用の面談実施(9月1名) イ) 短期利用から本入所へ契約変更時に、制度利用(9月1名) ウ) 入所予定者が成年後見選任後入所制度利用(1.3月延2名) エ) 家族より制度利用の申し立て中(3月1名)	○
誰もが発言できる 職場づくり	<b>自主的ミーティングの 開催</b> <b>①ミーティングの開催、 対応策の実施、振り返り</b>	ア) 週1回(各30分)のミーティング開催(上半期16回)42件の事案に対して対策の検討・実施・振り返り <b>【内容】</b> 事故・ヒヤリハット検証、業務マニュアルの見直し、支援方法の検討・情報共有、記録システム勉強会、介助技術勉強会、伝達研修 (下半期21回)53件の事案に対して対策の検討・実施・振り返り <b>【内容】</b> 上半期の検討内容に加え、業務改善提案を実施	◎
リーダーの育成と 新人の育成	<b>エルダー制度の導入</b> <b>①エルダー制度導入に 向けての準備</b>	ア) エルダー制度勉強会を実施(5月) イ) エルダー制度マニュアル作成(8月) ウ) 記録用書式を作成(8月) エ) 次年度エルダー制度導入に向けて展開方法を職員会議にて説明(1月)	◎

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
障害支援記録システムの導入	障害支援記録ソフト導入 ①システム導入・定着	ア) 支援記録ソフト説明会に全職員参加 (3 回) イ) 入力方法についてマニュアルを作成し勉強会で職員周知 ウ) 従来の日誌記録を併用しながら、ソフトへ移行開始 (7 月) エ) ヒヤリハット・事故報告書提出開始 (8 月) オ) ケアパレット導入 (10 月) に伴い操作マニュアルを作成、全職員へ配布後、使用開始 (1 月)	○
専門知識・技術・記録能力のアップ	勉強会の開催 ①勉強会の開催 (3 ヶ月に 1 回)	ア) ミーティングで勉強会開催に向け話し合い実施 イ) 「記録の書き方」勉強会実施 (6 月) ウ) 「個別支援計画・サービス等利用計画書について」勉強会実施 (9 月) エ) 「接遇」勉強会の実施 (11 月)	○
法人基本理念の理解推進	法人基本理念の理解 ①法人基本理念の理解推進	ア) 「聖隷の発足とバッジ」勉強会開催 (7 月) イ) 「基本理念 Q & A」の所持確認と未所持者へ配付 ウ) 神戸聖隷ハンドブック全職員配布	○
キリスト教福祉の理解	キリスト教福祉の理解 ①キリスト教福祉の理解	ア) キリスト教福祉講座への出席 (2 名) イ) 全体集会で内山牧師の講話聴講 (上半期延 71 名、下半期延 64 名) ウ) 毎月内山牧師による職員向け講話聴講 (上半期延 61 名、下半期延 57 名) 不参加者に対して報告書回覧 エ) 越智顧問の協力を得て聖隷の歩み(浜松聖隷・神戸聖隷)勉強会を毎月実施 (上半期延 15 名、下半期延 6 名) オ) 勉強会の研修レポート集計、振り返り実施 (11 月)	○



## 2. 出来した事案

### (1) 作業の南但指定ゴミ袋の不良品発生（4月）

下請け作業の南但指定ゴミ袋（小）製品の底部の熱処理不足により、納品先の南但広域行政事務組合はもとより、卸業者や消費者の方に対してご迷惑をおかけしてしまいました。製造日の確認を行い、卸業者へ該当日後の製品の交換を実施。対策として、業者による製袋機の点検と施設内で検品工程の再検討を行い、チェック体制を再構築。

### (2) ご利用者の誤嚥による窒息事故（11月）

居室で、同室者が所有しておられる菓子を摂取し窒息。脳死状態となり入院され、翌日死亡。警察による事故現場検証と状況の聞き取りを受けました。特に指摘事項はありませんでした。ご家族もおられますが成年後見人が選任されており、入院時からの手続きを後見人が行われました。

同室になるご利用者の障害特性と生活上のリスクを検討し、再発防止に努めます。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 真生園

施設長 太田 敦子

### 真生園中期事業目標

自分らしく、その人らしい生き方が出来る支援をします

持病悪化等による入退院を繰り返される方、突発的な受診そして経過不良による退所等が目立ち、重度高齢化を痛感した一年となりました。

しかしそのような中でも、重点実施項目に掲げた収入の確保という面については、施設入所の空床を補うべく短期入所、生活介護の利用への積極的な働きかけや、感染症予防の実践として研修の充実、衛生管理の徹底等により施設内での感染症が発生しなかった事等により、地域からの受入が確実に実施できた事はプラス要因となり、当初予算通り執行ができ、積立金の確保も実現しています。「利用者主体の支援」をテーマに各班が研究に取組み実践し、ご利用者・ご家族そして職員との関係性を強め、より良い支援に繋がっています。人財育成・環境面ではIT化として支援記録システムを導入し、全職員が活用可能となり記録転記作業が減少する等、業務の効率化を図る事ができています。又、ロボットスーツ HAL 導入等に向けデモ機の体験や導入施設の見学等の検討を重ね、次年度導入に向け積極的に取組みました。

2017年度は第三者評価、県の実地指導を受けるといった外部からの評価・指導等の機会が与えられ、施設の運営から利用者支援までの幅広く細部にわたる範囲の中で、今後改善すべきことや新たな課題、そしてこれまでの実践に対し評価できる項目についても確認する事が出来、色々な面で多くを学ぶ機会となりました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
利用者が地域に出ることで地域と繋がりを作る	①竹田地域へ利用者の外出を企画・実施(4回/月) ②地域に外出したことによる効果と課題の抽出	①-ア)買物外出実施 (4月～9月：利用者 54人・35回) (10月～3月：利用者 17人・12回) イ)竹田周辺外出 (4月～9月：利用者 14人・18回) (10月～3月：利用者 9人・4回) ②-ア)利用者のストレス軽減等の効果有 イ)2月：竹田地区マップ完成 ウ)課題：感染症流行期の外出	○
地域から望まれるニーズ調査に取り組む	①地域ニーズに関するアンケート作成・調査	ア)福祉ニーズアンケートを5ヶ所の相談支援事業所に実施(8月) イ)南但馬自立支援協議会にて随時地域ニーズの情報収集実施	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
利用者の確保・待機者確保	①市町・相談支援事業所・病院等へ情報収集	ア)入所：5名（4月・9月・10月・11月・12月） イ)短期：体験利用6名（4月・6月・7月・8月・1月） ウ)生活介護通所利用1名（1月）	○
新規サービスへの取組み（地域ニーズ調査と連携）	①地域のニーズ調査 ②既存施設の維持管理	①-ア)地域ニーズのアンケート調査実施（8月） ②-ア)週1回の点検と屋内清掃を実施（9月～3月） イ)今後の展開に向けて但馬地区理事を交えての検討会（6月）や職制会等での意見交換（9月）を開催。又、提案に対する見積り依頼（8月）	○
重度高齢化に伴う入院予防対策	①個々の口腔ケアの現状把握・改善指導(1回/年)	ア)歯科、口腔ケアに関するアンケートの実施（職員対象：5月） イ)歯科衛生士の口腔ケア指導（7月） ウ)各寮にて伝達研修を実施（8月） エ)看護師による口腔ケアの改善指導の実施。（4名/10月） オ)利用者等に言語聴覚士による口腔ケア指導を実施（12月）	○
	①感染症予防研修実施	ア)田中医師による「感染予防対策」講義実施（5月） イ)職員会議にて手洗い、手袋の着脱方法の実技指導の実施（5月） ウ)食中毒対策として食事前のアルコール消毒の実施（6月～） エ)ノロウイルス・食中毒等の啓発活動の実施（10月） オ)感染症予防研修の実施（11月）	◎
	①定期健診に基づくフォローと緊急時の早期処置・判断	ア)利用者定期健診実施（4月・10月） イ)田中医師による健診結果フォローと面談の実施（5～8月） ウ)田中医師による体調不良利用者の診察及び処置、協力医療機関との連携による早期受診の実施 エ)インフルエンザ予防接種と職員健診後の医師の面談実施（12月） オ)インフルエンザ感染濃厚職員へ予防薬処方（1月・3月）	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
継続した積立金の確保と経費削減	①利用定員を確保し、年3000万円を積み立てる ②月別水道光熱費・物品の集計	①-ア) 上下半期、ほぼ見込み通り推移し積立を実施 ②-ア) 毎月職員会議にて、月別水道光熱費の報告を行い、経費削減に向けての意識づけを実施	◎
意思疎通できない利用者の方にも、その人らしい生活を送って頂ける支援を提供します	①利用者主体の支援の追求（グループ研究発表実施）	ア) 各寮の研究メンバーの選定とリーダーを決定。利用者主体を基本としたテーマを確定し研究を実施。また、毎月の職員会議にて、各寮のリーダーより進捗状況を報告 イ) 施設内研究発表会実施（12月） ウ) 法人総合職員研修参加し金賞受賞（2月）	◎
利用しやすい施設作り	①運営会議・懇談会・食事委員会の開催（月1回）	ア) 毎月、利用者自治会と施設側との運営会議・懇談会を開催。年間テーマに沿ってご利用者の意見を聴き改善	○
日中活動プログラムの検討と実施 日中活動プログラムの検討と実施	①日中活動の現状把握と実施内容を検討 ②日中活動の実施マニュアル作成	①-ア) 日中活動プロジェクトを立上げ、現在までに実施した活動内容をピックアップし、現状把握実施 イ) 現状を踏まえた新たな余暇活動内容・方法の検討を実施 ウ) 活動場所確保に向けた環境整備 エ) 毎日の活動に向けたグループ編成を実施 オ) マニュアル作成の為の現状調査を実施 ②-ア) 日中活動マニュアルの作成実施	○
日中活動に関する研修に参加	①他施設を見学 ②日中活動に係わる専門研修へ参加	①-ア) 障害者支援施設の見学を実施（1回/月） イ) 障害者支援施設の見学（11月・1月・2月・3月） ②-ア) 日中活動に係わる専門研修へ参加未実施 イ) 近畿地区身体障害者施設協議会へ参加し情報収集（11/30・12/1）	○

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
IT、ロボットプロジェクトチームを立ち上げ、ロボット導入を目指す	①IT・ロボットの情報収集・展示会・研修会に参加	ア) ロボットプロジェクトチームを立ち上げ、ロボットに関する情報収集を実施 イ) 介護ロボット HAL の体験会を実施 (7月) ウ) 介護ロボット導入に向けた職員アンケートを全職員に実施 (8月) エ) みまもりセンサーを借用し、特定利用者のバイタルのみまもり継続中 (8～9月) オ) パラマウントベッドみまもりセンサー試験導入実施 (10月) カ) HAL 全国研修会参加 (2名/3月)	◎
業務の効率化 1) ナースコールのIT化	①ナースコールの把握と最新のナースコールの情報収集を実施 ②最新ナースコールを導入している施設を見学 ③ナースコールの調査依頼と最新ナースコールの見積を確認	①-ア) メーカーから製品説明と最新のナースコール情報を収集。また、利用者・家族へナースコール更新について説明実施 (7月) イ) ナースコールメーカーと電話施工業者との接続確認 (2月) ②-ア) 導入施設へ見学 (7月) ③-ア) 現在使用中のナースコールについて診断実施。又、各メーカーの最新ナースコール見積り実施 イ) 黒田設計と入札の確認 (3月)	○
業務の効率化 2) 障害支援記録システムの導入	①システム説明・準備 ②システム導入	①-ア) 支援記録システムをインストール実施し、導入に向けた説明会を実施 (5月) ②-ア) 支援記録システム導入後、職員・利用者全てのデータを入力。また、支援記録システム完全移行に向けたマニュアル作成と個別指導を実施 (7月移行完了) イ) 記録システム勉強会実施 (7月・9月・12月)	◎
IT、ロボット等に関する情報を地域へ発信	①施設の最新情報を地域へ発信	ア) 機関誌 129 号発行 介護ロボット HAL 体験・行事等の記事記載 イ) 機関誌 130 号発行 ボランティア、各行事、インド聖隷等の記事を記載	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
エルダー制のシステム見直し	<p>①エルダー制の現状と課題を抽出</p> <p>②エルダー制の修正版マニュアル作成</p>	<p>①-ア) 新任職員習熟度チェック（セルフチェック）を実施（7月）</p> <p>イ) 新任中期研修にてエルダー制についての意見を聴取（11月）</p> <p>②-ア) 新任職員習熟度チェックの評価結果を分析し、エルダー制マニュアルを見直し中</p> <p>イ) エルダー制マニュアルを作成し、2019年度にマニュアルに基づいたエルダー制を実施</p>	○
全ての職員へ統一した介護基礎研修と介護実務研修の実施	<p>①介護技術研修について検討・企画</p> <p>②介護基礎研修マニュアル作成</p> <p>③介護実務研修マニュアル作成</p>	<p>①-ア) 衣類の着脱についての研修実施（7月）</p> <p>イ) 食事について研修実施（12月）</p> <p>②マニュアル作成には至っていないが、半期毎に介護基礎習熟度チェック（セルフチェック）を実施</p> <p>ア) 介護基礎習熟度チェック（7月）</p> <p>イ) 介護基礎習熟度チェック（1月）</p> <p>評価結果を分析し、今後の研修計画に反映予定</p> <p>③マニュアル作成には至っていないが、介護の基礎技術習得を目的に、半期毎に介護実務研修を実施</p> <p>ア) 衣類の着脱についての研修実施（7月）</p> <p>イ) 食事についての研修実施（12月）</p>	○
継続した専門研修への参加	<p>①専門的的外部研修の参加と情報共有</p> <p>②サービス管理責任者・喀痰吸引等に係わる資格取得</p>	<p>①案内のあった研修の選定と参加者の人選</p> <p>ア) 但馬長寿の郷介護研修参加（5月/2名、6月/1名、7月/1名、8月/1名）</p> <p>イ) 専門研修での学びを職員会議にて共有（6月、7月、8月）</p> <p>②サービス管理責任者・喀痰吸引等に係わる資格取得</p> <p>ア) 喀痰吸引研修参加（7～8月/1名）</p> <p>イ) 相談支援初任者研修・サービス管理責任者研修参加（9月/各1名）</p>	○

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
清潔感があり働きやすい服装へ見直す	<p>①業務中に着用している衣類について現状調査とアンケートを実施</p> <p>②業務中の服装について課題と改善を検討</p>	<p>①-ア) 県内の障害者支援施設 19 施設を対象に制服についての聞き取り調査を実施 (5月)</p> <p>イ) 現状調査とアンケートを全職員対象に実施 (6月)</p> <p>②-ア) アンケート結果に基づき、新たな制服の課題・改善検討を実施</p> <p>イ) カatalogを取り寄せ、新たな制服の検討を実施 (10月～)</p> <p>ウ) 業者へのレンタルの問合わせ実施</p>	○
権利擁護に対する意識向上	<p>①虐待・不適切ケア評価基準表を使用した、虐待防止研修の実施 (OJT)</p> <p>②苦情解決委員会、虐待防止委員会の開催・成年後見制度の推奨</p>	<p>①-ア) 虐待防止研修を実施 (9月/2回)</p> <p>イ) 「何でも相談」を行い、利用者からの訴えを生活委員会にて精査し、苦情解決委員会にて課題について検討し対応を実施</p> <p>②-ア) 虐待防止委員会開催(1回/月)虐待防止に関する研修計画の立案等実施</p>	◎
リスクマネジメント対策の強化	<p>①リスクマネジメント委員会の開催</p> <p>②リスクの検証・評価・共有</p>	<p>①-ア) 委員会を第3月曜日に開催 (4.5.6.8.9月)</p> <p>イ) 委員会を第3月曜日に開催 (10.1.2.3月)</p> <p>②-ア) 提出された事故報告・ヒヤリハットを検証し、朝礼時にて速やかに報告。又、集計後職員会議にて再度報告し職員へ周知(1回/月)</p> <p>イ) 繰り返す事案について各寮の主任、リーダーへ報告。担当支援員等と共有し対策を実践</p> <p>ウ) 誤嚥防止研修実施(12月)</p> <p>滑落防止研修実施(3月)</p>	◎
管理医師との協働	<p>①衛生委員会の開催</p>	<p>①-ア) 毎月、衛生委員会を開催し、施設設備・環境等について検討・改善</p> <p>イ) 朝礼後の職員のラジオ体操参加を奨励し、心と体をリフレッシュする取り組み実施</p> <p>ウ) 管理監督職の為の雇用管理改善～腰痛予防推進研修参加 (7月)</p> <p>エ) 職員より提案された親睦を兼ねての会を開催 (11月)</p>	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
管理医師との協働	②職員へのストレスチェックとフォロー(田中医師)	②-ア) 田中医師による体調等のフォローを随時実施。 イ) ストレスチェックの受講(9月) 回収(10月) フォロー(11月～)	○
基本理念とキリスト教福祉を学ぶ	①地の塩伝道所牧師によるメッセージ(月1回)	ア) 朝礼時に内山牧師による基本理念に関するメッセージを実施(1回/月)	○
	①キリスト教福祉講座への参加	ア) キリスト教福祉講座へ参加(9月/2名、10月/2名、11月/2名) イ) 聖隷福祉事業団研修参加(1月/1名)	○

## 2. 出来した事案

2017年9月27日 兵庫県の実地指導にて短期入所(送迎に関する記録の整備、初期加算、延長時加算)及び施設入所支援(入所時特別加算、療養食加算)について指摘を受け、是正又は改善の指示がありました。送迎に関する記録の整備については、新たに送迎記録表を作成致しました。又、加算につきましては各市町へ報告を行い、療養食加算以外の加算について過誤にて処理を実施致しました。



## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 和生園

施設長 久木田 憲彦

### 和生園中期事業目標

ひとり一人の価値観を尊重した働く場の提供と、地域とともに活動する施設づくり

2017年度は、職員への理念の浸透に重きを置き、協力牧師による理念研修や理事長講話の時間をもち、理念の支援への落とし込みに努めました。また、地域との関わりの強化として、竹田地区区長へのアプローチや秋葉台管理組合の会議へ参加し、地域ニーズの情報収集に努めることにより、地域イベントへの参画や地域が必要とされている施設備品を活用していただくことができました。

和生園の作業面では、主力作業である㈱セイバンの生産管理体制が変更となり、これまでの納期厳守に加え不良率削減への取り組みの強化により、肩ベルトの生産数が減少したものの、全職員・全利用者が一丸となり、よりよい製品づくりのための意識改革と環境改善を行なうことで、年度末には㈱セイバンからの信頼を得ることができました。また、肩ベルト生産数の減少に対しても小泉製麻㈱の作業を安定して受注することで、収入の減少を最小限に食い止めることができました。

第2和生園での生産作業においては、兵庫県の実施する「兵庫ブランド商品構築モデル事業」への参画により、9月より新商品「城崎温泉ライスサブレ」の販売を開始することができ、売上げの安定につなげることができました。

しかし、就労移行支援については、一般就労された後の利用者の補充をすることができず、グループホームの体験利用を本利用へ変更し、訓練等給付費収入の減収を補うこととしました。

グループホームもみの木・かしの木では、定員がいっぱいとなり共同生活を行う上での利用者間の人間関係についての課題が山積しましたが、職員の的確な対応で関係改善に努めました。また、幅広い年齢層の利用者への適切な支援を目指し、関係機関と連携し地域資源を活用しながらの個別支援を実施しました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
ニーズ調査の実施	①調査方法の検討 ②調査の実施	ア) 地域ニーズ把握ツールとしての地区情報誌発行を検討するが、見合わせることを確認(6月) イ) 朝来市障害福祉計画策定に参画(8月～3月) ウ) 朝来市障害計画策定に係るアンケート結果の概要入手(11月)	×

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
利用者が地域に出での活動	<p>①地域清掃活動の継続と、他活動項目の検討・実施</p> <p>②地区ニーズに関する情報収集・活動実施</p>	<p>ア) 毎月2回、竹田駅周辺のゴミ拾い実施</p> <p>イ) 竹田地区区長会長へ地域貢献の趣旨説明実施 (4月)</p> <p>ウ) 秋葉台管理組合会議に出席し、地域ニーズの情報収集 (6・7・8・9月)</p> <p>エ) グループホーム利用者のクリーン作戦、避難訓練へ参加</p> <p>オ) 秋葉台連合子供会へ除雪機貸出しの申出と機器取扱いの説明会実施 (11月)</p> <p>カ) 秋葉台資源回収へ運搬車両の貸出し (2月)</p>	○
住民参加型イベントの実施	<p>①地区自治会会議に参加・情報収集 (2回/年)</p> <p>②イベント内容の検討・実施 (2回/年)</p> <p>③地域ボランティアの開拓と地域向け給食サービスの試行</p>	<p>ア) 秋葉台3区総会及び、秋葉台管理組合総会出席 (4月)</p> <p>イ) 秋葉台管理組合会議へ出席し、地区行事及び活動へ協働 (6・7・8・9月)</p> <p>ウ) 竹田地区松明祭りへ神戸聖隷として協賛 (7月)</p> <p>エ) 秋葉台夏祭りへ協賛、出店 (7月)</p> <p>オ) 施設見学会を開催し5名が来園 (6月)</p> <p>カ) 近隣区長へ施設見学会及び、作業ボランティア募集について説明と依頼を実施 (6月)</p> <p>キ) 朝来市内ボランティアグループを調査 (8月)</p> <p>ク) さくらの苑感謝祭へ参画 (11月)</p>	△
就労移行支援事業利用者の確保	<p>①オープン施設見学会の実施在宅障害者に関する情報収集</p>	<p>ア) オープン施設見学会を開催し、和田山特別支援学校保護者8名が来園 (8月)</p> <p>イ) ハローワーク、朝来市内、養父市内の相談支援事業所、特別支援学校へ情報収集を実施</p> <p>ウ) 朝来市、養父市へ就労移行事業のリーフレットを持参し情報提供依頼 (9月)</p> <p>エ) 朝来市民生委員障害福祉部会へ事業説明の実施 (11月)</p> <p>オ) 朝来市在住の在宅障害者1名が体験実習から利用契約 (1月)</p> <p>カ) 養父市在住の在宅障害者1名が就労アセスメントから利用契約 (2月)</p>	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
第2和生園 のアピール	①SNS等での広報活動 とオープン施設見学会の 実施	ア)法人の Facebook 投稿を年間計画に基づき実施 (6月) イ)オープン施設見学会を開催し、和田山特別支援学校保護者8名が来園 (8月) ウ)ライオンズクラブ見学に来園 (10月) エ)朝来市民生委員障害福祉部会が見学に来訪 (11月) オ)Facebookへビスコッティ製造過程を法人初の動画で投稿 (1月)	○
加算の算定	①既就職者の定期訪問 (1回/2ヶ月) ②月次生産管理の徹底と 閑散期の受注確保	ア)既就職先企業からの相談、要請に応じ 随時訪問 イ)既就職者5名に延べ13回訪問 (4~9月) ウ)肩ベルトの納期、不良率を低減させる 仕組み作りの為、350本から200本へ 日産本数が減少 エ)肩ベルトの減産継続により、小泉製麻 より作業を受注開始 (9月) オ)既就職者5名に述べ6回訪問 (10~3月) カ)肩ベルト作業の減少により、ハイロン より作業を受注 (1~3月)	△
事業展開 の検討	①実施事業の検討 ②補助事業の調査	ア)SELP 全国大会で制度改正の情報を収集 (7月) イ)但馬地区施設連絡会で新規実施事業について検討、及び提案 (7~9月) ウ)新規実施事業を放課後等デイサービス、グループホーム開設で方針決定し準備開始 (11~3月) エ)2018年度補助事業スケジュールを確認 (11月) オ)地区担当者でのイメージ図面による検討を実施 (11~3月)	△
製袋作業 (恵生園) の引継ぎ	①製袋機設置場所の検討	ア)恵生園製袋作業担当者と移設に係る検討会議を実施 (7・9月) イ)ノア建物内での製袋機設置を決定し、環境整備費を2018年度予算へ反映 (1月)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
高工賃の維持と安定作業の確保	<p>①工賃単価交渉の実施</p> <p>②受注状況に応じた生産管理</p>	<p>ア)セイバンより品質、納期面で改善要請があり、工賃単価交渉は言及できず</p> <p>イ)作業進捗ボードの活用開始(7月)</p> <p>ウ)利用者個々の作業工程時間を計測し、生産状況に応じた作業配置実施(7月)</p> <p>エ)肩ベルト減産の継続により、単価の高い小泉製麻作業の継続受注開始(9月)</p> <p>オ)肩ベルト260本/日産(年度平均)</p> <p>カ)小泉製麻フロートカバー月平均540枚を受注(10月～3月)</p> <p>キ)2018年度モデルからの工賃単価見直しを依頼(12月)</p>	○
障害特性に応じた作業確保	<p>①自助具の開発・改良</p>	<p>ア)肩ベルトのパット貼り自助具改善により、利用者2名新たに作業着手(6月)</p> <p>イ)ベーカリーモデル事業に使用する自助具を作成・改良(7・8・9月)</p> <p>ウ)小泉製麻裁断用木枠の作成(11月)</p> <p>エ)朝来溶工真作業用自助具の作成(1月)</p>	◎
就労が困難と思われる知的障害者の受け入れ実行計画	<p>①落ち着ける環境の確保・仮設</p> <p>②仮設環境の評価・改善</p>	<p>ア)第2和生園/会議室へ知的障害者の個別スペースを仮設置する事決定(7月)</p> <p>イ)事務所内の配置を変更し、仮設に向けたレイアウトの変更(9月)</p> <p>ウ)個別スペースの仮設場所確保(12月)</p> <p>エ)個別スペースに係るパーテーション購入費用を2018年度予算へ反映(1月)</p> <p>オ)自閉傾向の強い特別支援学校生徒が個別スペースで作業実施し、有効性確認</p>	△
障害者就労に関する横断的活動	<p>①就労関係会議への参加(12回/年)</p> <p>②就労定着支援事業に関する情報収集</p> <p>③余暇状況把握とニーズ調査(5回/年)</p>	<p>ア)南但馬自立支援協議会しごと部会出席</p> <p>イ)就労支援連絡会議出席(7・11・3月)</p> <p>ウ)SELP全国大会で就労定着支援事業に係る最新情報を収集(7月)</p> <p>エ)南但馬自立支援協議会しごと部会で余暇の充実について検討</p> <p>オ)就労移行利用者と合同で、既就職者も参加できる一泊旅行の実施(9月)</p> <p>カ)障害者就労支援セミナーへ利用者と共に参加(2月)</p> <p>キ)関係機関や事業者説明会での情報収集を行なうが詳細な情報得られず(2・3月)</p>	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
就労移行支援事業のアピール	①企業訪問計画作成・訪問 ②リーフレット作成と説明会実施（1回/年）	ア) 特別支援学校説明用リーフレット作成（5月） イ) ライオンズクラブ会員 17名へ就労移行支援事業に係る事業説明実施（10月）	△
SST（社会生活技能訓練）プログラムの実践	①SSTプログラム作成・実施 ②SST専門研修の参加	ア) 就労移行支援にて SST プログラムを実施（毎月） イ) 兵庫県内での SST 研修は未開催 ウ) 2018年4月に開催される SST 専門研修に受講申込（1月）	○
新規グループホームに係る検討と具現化	①ニーズ調査・分析・検討（2回/年） ②資金計画・試算	ア) 南但馬自立支援協議会地域拠点・基幹相談検討会にて意見交換を実施（5月） イ) 特別支援学校卒業予定者の進路について、情報収集を実施（6月） ウ) 朝来市、養父市訪問により障害福祉計画策定時のニーズ調査結果の情報提供を依頼（9月） エ) 新事業開設に係る方針決定に基づく補助事業を確認し、準備開始（10～3月） オ) 和生園利用者へのニーズ調査実施（12月）	△
将来に繋がる利用者支援の提供	①成年後見制度の説明・選任手続き支援 ②情報提供・面談（1回/3ヶ月） ③自立生活援助事業に関する情報収集とサテライト型住居の検討	ア) 利用者1名に保佐申立ての手続き開始（7月） イ) 第3月曜日/毎月、グループホーム利用者連絡会を実施し情報を提供（毎月） ウ) 後見制度を必要とする利用者1名と面談（7月） エ) 自立生活援助事業に関する資料の分析と人員配置等のイメージ検討（12月）	△
統一したマニュアル整備と周知	①マニュアルの整理・整備・周知	ア) 事業所内マニュアルの確認（6月） イ) 作業マニュアル改善に着手（8月） ウ) 第三者評価受審により必要マニュアルを確認（9月）	×
施設間の業務の共有	①職制職員・正規職員の事業所内現任訓練の実施	ア) 支援課長の和生園と第2和生園の定期的な訪問による業務把握の実施（4・5・6月） イ) 現任訓練は相互の業務状況により、進展せず	×

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
知的障害者の正しい理解	①支援方法の学習	ア)事例検討会でOJTを行うことを決定(7月) イ)事例検討会を開始(9・10月) ウ)応用行動分析研修に参加(9月)	○
法人理念の浸透	①理事長講話の日程調整・実施(1回/年) ②キリスト教福祉講座の受講(1人/1クール3回/年)	ア)理事長講話の日程調整の実施(7月) イ)全職員を対象に理事長講話の実施(8月) ウ)キリスト教福祉講座の受講(9～11月)	◎
理念の利用者支援への落とし込み	①研修会の実施(4回/年)	ア)内山牧師による理念学習会実施(7・3月) イ)パート職員対象に牧師による理念学習会を実施(9月) ウ)GH 世話人を対象に牧師による理念学習会を実施(11月) エ)給食サービス時の牧師によるメッセージを実施(毎月)	◎
他施設の理念の実践の体感	①法人内現任訓練の検討・試行(3人/年)	ア)現任訓練は相互の業務状況により、進展せず	×

## 2. 出来した事案

6月：セイバン肩ベルトに係る顛末書を提出

肩ベルト大量失損(36本)発生と納期遅れにより、㈱セイバン姫路工場長宛で、顛末書提出。種谷理事、西山理事が㈱セイバンへ訪問し謝罪及び、対応方法について説明。

8月：セイバン肩ベルト受注本数の減少

肩ベルトの仕損じ削減、仕損じの流出に改善が見られないとの事で、肩ベルト日産本数を350セットから200セットへ減少。西山理事、施設長、支援課長が㈱セイバンを訪問し意向確認を実施。

12月：セイバン肩ベルトカシメずれによる大量失損発生

肩ベルト小カシメの位置が基準値内から1mmずれている肩ベルトが大量に発生しているとの連絡がセイバンよりあり。セイバン生産管理部より担当者が来園され、原因の確認と対応策を協議。

1月：セイバンの方針として、毎月1回委託加工先の定期訪問と需要変動制によるランドセルの生産を行なう旨の連絡あり

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 北但広域療育センター

施設長 中江 紀子

### 北但広域療育センター中期事業目標

#### 地域の療育の中核を担う

2017年度は指定管理の第2期の最終年度となり、指定管理の継続に向けて、豊岡市・香美町・新温泉町と協議・調整を重ね、事業の再編を行いました。豊岡市を中心に幾多の会議を繰り返す中で、引き続き指定管理の受託をいただき、但馬圏域ではじめての児童発達支援センター誕生への手続きが終了いたしました。また、同時に奈佐地区に放課後等デイサービス「らみい」を開設するに至りました。

一方で、第3期中期計画のスタートの年でありましたが、施設として指定管理の更新に重点的に取り組まざるを得ず、計画全体をバランスよく進めることが難しい状況でした。

部署リーダーの会議で収支報告を継続し事業別の目標達成状況の把握を促したことで、各部署のリーダー（正規職員や嘱託等）の中に事業計画への意識、経営意識が向上してきたことは、第3期中期計画の全体的な計画推進に繋がる取組みであったと感じています。

収入面では、1月2月の大雪とインフルエンザの流行が、例年に比して大きく、児童発達支援事業「すまいる」を中心に低迷いたしました。重症心身障害児への放課後等デイサービスにおいて、授業終了後の受入れへの取組みが療法士を活用することで進めることができ、次年度へ繋げる足がかりとなりました。

#### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
関係機関との話し合いを持ち、児童発達支援センターへの移行を目指す	<b>整備計画書の作成</b> ①指定管理者との話し合い	ア) 1市2町会議へ参加(4、5、6月) イ) 豊岡市との協議(7月) ウ) 豊岡市との調整会議(8月) エ) 香美町放課後等デイサービス候補地視察(9月) オ) 奈佐幼稚園設備確認 カ) 新温泉町放課後等デイサービス候補地視察(9月) キ) 指定管理の承認 ク) 県庁にて事前ヒアリング ケ) 事業の申請、変更、廃止届提出 コ) 3月29日開所式	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
児童発達支援センターへの移行の目的、意義の共有	<p>先進地の視察、話し合い等を通して職員間で目的や意義を共有していく</p> <p>①発達支援センター機能と役割を明確化</p> <p>②部会議にて話し合い</p> <p>③先進地の視察</p>	<p>①ア)豊岡市との話し合い(4月)</p> <p>②ア)児童発達支援センター移行案について周知(4月)</p> <p>イ)進捗状況について報告(7、8、9月)</p> <p>③ア)浜松聖隷児童発達支援センターの見学報告と共有</p> <p>イ)部会議にて次年度体制について継続的な話し合いを実施</p>	◎
申請後の事業内容について保護者及び関係機関に周知する	<p>タイムスケジュール、役割分担表の作成</p> <p>①タイムスケジュールの作成</p> <p>②役割分担の決定</p> <p>③保護者への説明</p>	<p>①ア)タイムスケジュールを作成(4、9月)</p> <p>② 未実施</p> <p>③ア)合同保護者会を実施(5月)</p> <p>イ)代表保護者会を実施(12月)</p> <p>ウ)合同保護者会を実施(1月)</p> <p>エ)奈佐地区住民説明会を実施(1月)</p> <p>オ)合同保護者会の実施(3月)</p>	◎
放課後等デイサービスの受け入れ	<p>放課後等デイサービスの受け入れ</p> <p>①授業終了後の重心児受け入れ体制づくり</p>	<p>①ア)長期休み時の受け入れについて確認(6月)</p> <p>イ)受け入れ体制について話し合い(9月)</p> <p>ウ)受け入れ開始を決定し相談支援事業所へ周知(1月)</p>	◎
ノー残業デイの継続実施	<p>ノー残業デイの実施</p> <p>①毎水曜日、朝礼にて周知</p>	<p>①ア)水曜日朝礼にて周知(4、5、6、7、8、9月)</p> <p>イ)担当による話し合いの実施(7月)</p> <p>ウ)啓発ポスターの作成(12月)</p> <p>エ)啓発ポスターの掲示</p>	○
ひとり一人が担う業務量の把握と適正化	<p>業務量の把握と面接</p> <p>①事業ごとの業務量把握</p> <p>②業務分担の見直し</p>	<p>①ア)マニュアル作成取り組み開始(4月)</p> <p>② 未実施</p>	×
誕生日休暇の奨励	<p>誕生日月に休む</p> <p>①職員に周知後、実施</p>	<p>①ア)風会議にて説明・周知(8月)</p> <p>イ)風会議にて周知(1月2月)</p>	△



実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
毎月の部会議にて経営状況について報告	事業別目標値達成状況の共有 ①部会議にて収支報告を行い各部署内で毎月確認	①ア) 月別予算内訳書の提示(4、5月) イ) 収支報告を実施(6、7、8、9月) ウ) 収支報告の実施と回覧(10. 11. 12. 1. 2. 3月)	◎
改善策について部会議で検討	検討シートを利用して部会議にて検討 ①毎月の各部署会議で上がった改善策を部会議で検証	①ア) トゥモロー放課後等デイサービスの受け入れ開始	○
研修の実施	経営に関する研修を実施する ①改善策の実施確認	①ア) 経営に関する研修へ参加(9月)	×
業務マニュアルの作成	各部署ごとに支援マニュアルを作成する ①マニュアル作成担当者の設置 ②各部署で業務の洗い出し ③マニュアル化できる業務の特定 ④進捗状況をマニュアル作成担当者会で確認	①ア) マニュアル作成担当者会を設置(4月) イ) マニュアルの項目について検討(6月) ②ア) 全体的な項目の洗い出し(6月) ③ア) マニュアルの項目について検討(6月) ④ア) 部会議にて進捗状況確認(6月)	×
支援の視点の共有のためのチェックリストの作成	チェックリストを作成する ①支援の重要な視点の項目の検討	① 未実施	×
保育所等訪問支援事業の充実	保育所等訪問支援に関するパンフレットを作成し周知する ①パンフレットの作成 ②訪問支援員の業務内容の確認と特定 ③OJT研修の実施	①ア) パンフレット案の作成(6月) イ) 部会議にて案を確認(7月) ウ) パンフレットの完成 エ) 保護者、関係機関への配布(3月) ②ア) こども育成課との連携等についてフローチャート等で確認(4月) イ) こども支援課と案を確認し修正(5月) ウ) 資料収集とパンフレットの作成(7月) 周知 ③ 未実施	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
<p>特性理解のための講座の実施</p>	<p>思春期の自己理解支援、及び地域の関係機関の支援力向上のための取り組みを実施</p> <p>①保護者向け講座の実施 ②思春期向け講座の実施 ③関係機関向け講座の実施</p>	<p>①ア)「ほめ方・しかり方講座」を実施(5月) イ)虹の会を実施(6、7月) ウ)「兄弟支援講座」を実施(9月) エ)虹の会にて「進路について」「災害時に自分たちが出来ること」を実施(9月) オ)虹の会にて「感情コントロール・気持ちの振り返り」(10月) カ)虹の会にて「ソーシャルスキル」(11、12月) キ)虹の会にて「ライフスキル」(1月) ク)虹の会にて「成人期に向けて」(2月) ケ)虹の会にて「コミュニケーションについて」(3月)</p> <p>②ア)思春期向け講座を実施、兄弟支援プログラムの実施(8月) イ)兄弟支援講座」を実施(9月) ウ)虹の会にて「進路について」「災害時に自分たちが出来ること」実施(9月)</p> <p>③ア)自閉症スペクトラム講座を実施(7月) イ)自閉症スペクトラム講座 2、3 を実施(8月) ウ)出石精和園シンポジウムに参加(9月) エ)事業所等のコンサルテーションの一環で実施 オ)ASD 特性支援講座の実施(1, 2, 3月)</p>	◎
<p>療育センターで求められる職員像の明確化</p>	<p>求められる職員像のしおりを作成</p> <p>①求められる職員の明文化</p>	<p>①ア)「支援の手引き」を朝礼時に確認(6、7、8月) イ)職員育成推進担当部での取り組みを待ち検討することを確認する(9月)</p>	×
<p>人材育成に関する取り組み状況の整理</p>	<p>整理票の作成</p> <p>①各部署の研修状況の把握 ②各部署で必要な研修の把握 ③整理票の作成</p>	<p>①ア)研修状況一覧表を作成・記入(6、7月) ②ア)研修状況一覧表の作成(10月) イ)月ごとに個人に分析(2月) ③ 未実施</p>	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
研修計画の作成	基本となる研修計画を作成する ①各職員の研修参加状況の把握 ②各職員研修計画の見直し	①ア)研修状況一覧表を作成・記入(6、7月) ② 未実施	×
ボランティア、実習生の受け入れ態勢の整備	受け入れについて検討し、マニュアルを作成 ①各部署での受け入れ可能性について検討 ②受け入れマニュアルの作成	① 未実施 ②ア)他施設の取り組みを調査	×
ボランティア、実習生が担う役割の洗い出し	ボランティア役割表の作成 ①各部署でボランティアが担う役割を検討	① 未実施	×
周知のためのパンフレットの作成	ボランティア周知のためのパンフレットの作成 ①2018年度より	①2018年度実施予定	×
基本理念の唱和継続	朝礼での唱和を継続する ①週1回朝礼にて朝礼担当が率先して全員で唱和	①ア)月曜日の朝礼にて実施 イ)朝礼での唱和を継続	◎
キリスト教福祉講座の開催	施設にてキリスト教福祉講座を開催 ①施設にて年3回開催する	①ア)内山牧師によるキリスト教福祉講座を実施(6、9月) イ)1月については講師体調不良にて急遽中止	○
法人の歴史を学ぶ	歴史資料館を見学し、法人の歴史を学ぶ ①和田山歴史資料館を見学し、越智顧問よりお話を聞く	①ア)歴史資料館にて行われた、越智顧問による講演会へ職員1名参加 イ)3月については講師都合にて急遽中止	△

## 2. 出来た事案

9月21日付で本部にひょうご発達障害者支援センタークローバー豊岡支部の電話対応について改善申し立てがあり、県やクローバーセンターとも協働しながら、法人の苦情解決規程に基づき対応をしました。第三者委員も含め苦情解決委員会を11月22日に開催し、結果、携帯電話へ転送すること、メッセージを流すことで終結しました。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 エスポワールこじか  
 施設長 伊崎 辰夫

### エスポワールこじか中期事業目標

#### 地域に必要とされる資源に（物も人も）なる

第3期中期計画を基にした事業計画の1年目が終了しました。計画していた内容は概ね達成できました。

利用者（保護者）満足を重点に、支援目標を分かりやすくすることに取り組み、療育プログラムの目的の視覚化や小グループの保護者に向けたピンポイントな学習会を実施し、相談支援においては、保護者の子育て、夫婦間、家族間、学校、地域の事など、様々な相談に親身に寄り添うことを続けました。その結果、保護者満足度調査「望まれる支援内容か」という設問に対し満足91%の評価を頂きました。

また、地域での産婦人科、小児科が減少傾向の中、保護者から超早期療育（0歳児からのリハビリ療育）の要望が高まり、行政・病院と協力してこじかで実施することとし、地域のニーズにひとつ応えることができました。

利用状況においては、4月から急激に利用の希望が増え、利用率85%の過去最高を記録しました。また、スタッフは空き時間が少ない状態でも欠席への振り替え対応を123回も実施し、保護者満足へと繋がりました。その反面、後半は定員が一杯のため利用までに時間がかかりすぎる状態となり、待機の方には不満となりました。需要と供給のバランスが難しいと感じます。

基本理念の浸透におきましては、毎日の聖書朗読を初め、内山牧師によるキリスト教福祉勉強会を2回実施、越智顧問による神戸聖隷の歴史勉強会、地区キリスト教福祉講座への参加を通し理念の大切さを意識付けしました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
学習会の実施	①ニーズに合わせ実施 (年5回)	ア)3回実施 保護者延べ20名 「メンターさん相談会2回」「言葉の発達」 イ)3回実施 保護者延べ20名参加 「療育の意味」「子育ての工夫」「就園就学前に準備すること」	◎
グループ勉強会の実施	①2グループへの保護者勉強会の実施	ア)ひなげしグループ、さくらんぼグループ保護者へ、「療育とは」「環境調整(構造化)」 イ)同グループの保護者へ、「まとめについて」「子供の行動理解」	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
ステップアップマニュアルの作成	①認知面（個別学習：ワーク）のマニュアル作成	ア) 検討会 2 回 発達記録チャートを基盤にし、発達検査等の内容を盛り込んでいく方向で検討中 イ) 検討会 1 回実施したが、原案の作成には至らず	△
保護者満足度アンケートの実施	①内容を検討しアンケート作成、実施（他の調査計画と併用）	ア) アンケート案作成。全体での意見交換後、12 月ごろ実施予定 イ) 満足度アンケート 12 月実施 結果等は保護者会や関係機関連絡会及び法人フェイスブックにて公表	◎
担当制と保護者同伴の個別療育の実施	①担当制の実施・保護者同伴の実施	ア) 担当制と保護者同伴は、契約時に説明しており、継続実施 イ) 担当制及び保護者同伴継続実施	◎
相談体制の充実	①療育活動後に食事や排泄への助言・相談等の時間確保 ②医師による療育相談 ③専門家による様々困り感に対する個別相談の実地 ④療育終了児童・保護者への相談窓口を設置	①ア) 歯磨きや食事指導を含めた相談。延べ 30 人 イ) 下期は延べ 48 人 ②ア) 医師による療育相談 4 回実施。 イ) 下期は 6 回実施。 ③ア) 困り感への相談。電話 35 回、来園 5 回、療育中 4 回、園校等同行 3 回 イ) 電話 45 回、療育中 2 回、園校等同行 9 回 ④ア) 第 4 月曜日に相談日を設定するも利用は 0 名。 イ) 設定日通知するも利用は 0 名。（設定されている安心感）	◎
指定権者と改修計画を協議して進める	①軽微な修繕実施 ②建物修繕箇所確認 ③修繕計画作成し協議	①ア) 託児室照明、煙感知器、ガス検知器交換 ②ア) 特殊建物検査にて外壁等修繕箇所及び空調機器改修見積を養父市へ提出 ③ア) 9 月 1 市 2 町課長会議にて協議 空調機器改修、外壁等改修は一体的に 2019 年度実施を確認 イ) 上期にて協議終了	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
お試し療育の実施	①ニーズ調査と計画 (他の調査計画と併用)	ア)計画素案作成 イ)11月の2市1町のケース会議及び2月の実務者(健康課、福祉課、こども育成課)連絡会にて協議。次年度8月実施予定	◎
地域へのアンケート調査の実施	①教育機関へのアンケート作成	①ア)11月以降に着手予定 イ)学校等訪問時に打診するも必要性を確認できず。次年度計画省く。	△
園校訪問及び参観の実施	①保護者の同意を得て、在籍園校への職員訪問 ②在籍園校の先生の参観受け入れ	①ア)延べ13カ所の園校へ職員訪問し連携 イ)延べ8カ所の園校へ職員訪問 ②ア)延べ7カ所の園校先生が来園し連携 イ)延べ7カ所の園校先生来園	◎
地域子育て支援への職員派遣及び地域協議会・委員会等への参画	①のびのび教室、家庭療育支援講座への派遣実施 ②自立支援協議会、福祉計画策定会議等への参画	①ア)朝来市のびのび教室へ言語聴覚士2回派遣(年間3回依頼)、養父市へは1回派遣 イ)朝来市1回派遣 ②ア)南但馬自立支援協議会専門部会、香美町障害者自立支援会議会(全体、専門部会)、養父市地域福祉計画(障害者計画・障害福祉計画)策定委員会委員に参画 イ)下期も継続して参画	◎
施設内研修(ビデオ研修、反省会)の実施と見直し	①療育活動を撮影し、自らの実践の振り返りと特性を理解(各職員1回、全体2回) ②療育を振り返り、課題の確認、次回の計画、共通理解を図る	①ア)ビデオ研修3回、全体勉強会2回 イ)担当ビデオ研修3回実施 ②ア)毎回の反省会見直しは、記録用紙の変更とグループ目標の確認を実施 イ)下期、具体的な見直しは実施せず	○
放課後等デイサービス事業の展開	①ニーズ調査を実施(他の調査計画と併用)	①ア)ニーズ調査は、南但馬自立支援協議会こども部会アンケートを参考に検討 イ)結果、養父市に放デイの必要性低い。ただ、児童発達支援センター設置の要望が浮上	○

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
保護者希望の時間帯確保	①保護者の希望時間帯確保のため面談実施	①ア) 保護者送迎が基本となる為、利用開始時に面談し、ほぼ希望に沿った時間帯にて提供 イ) 下期もほぼ希望に沿った時間帯を提供	○
欠席時の振替確保	①欠席連絡時に積極的に振替を調整する体制を作る	①ア) 担当の空き状況を確認し、振替希望へ対応。延べ 51 回実施 ア) 下期、延べ 72 回実施	◎
計画相談件数の確保	①サービス計画 60 件、継続計画を 120 件確保	①ア) サービス計画半期目標 37 件、実績 43 件、継続計画半期目標 85 件、実績 85 件 利用希望が増え計画件数増加 イ) 補正後年間サービス計画目標 68 件、実績 73 件、継続計画目標 152 件、実績 189 件	◎
朝礼での聖書の朗読、基本理念等の唱和	①聖書の朗読と基本理念の唱和を継続する	①ア) 聖書朗読「使徒言行録 1-1」より開始 朝礼時「基本理念、施設方針、平和を求める祈り」の唱和継続 イ) マタイによる福音書 13 章 43 節まで 朝礼時「基本理念、施設方針、平和を求める祈り」の唱和継続	◎
キリスト教福祉の勉強会実施	①牧師によるキリスト教福祉勉強会の実施。	①ア) 6 月内山牧師による勉強会実施 イ) 9 月但馬地区キリスト教福祉講座 1 名参加 ウ) 11 月内山牧師による勉強会実施 エ) 10 月、11 月但馬地区キリスト教福祉講座 1 名参加	◎

## 2. 出来た事案

特別な事案はありませんでした。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸聖生園  
 施設長 西郷 昌一

### 神戸聖生園中期事業目標

- ①地域貢献につながる活動を創造する
- ②利用者と職員が共に成長し合える神戸聖生園を目指す

第三期中期計画の初年度として、スタートした今年度は多くのテーマについて計画を立てました。計画一つ一つに小グループを立て、チームごとのミーティングを重ねました。施設あげでの事業計画達成に向けて意識は向上しました。

今年度の大きな取り組みとしては、せきもりの移転と配食サービス再開があげられます。

せきもりの移転では、地域の根強い反対により、候補地は見つかりましたが、移転には結びつきませんでした。ようやく現在の横尾地区に確保できたものの、説明会で、周辺住民の理解には結びつかず、二年の限定使用となりました。新たな活動拠点場所の確保が求められています。

配食サービス再開については、実施直前まで進行していましたが、受け入れ側の将来における採算の問題で中止となりました。

その他、今まで培ってきた地域との関係を更に進めるべく、新たな取り組みを計画しましたが、充分には取り組めませんでした。各チームが十分な検討と実施のための時間捻出が、次年度への課題として残りました。

収入面では、利用者の高齢化や身体状況の急激な変化、ご家族の介護への困難から退所者が予想外にありました。また2月にはインフルエンザの大量罹患により、営業日の休止や、利用率が半減したことが響き、減収になりました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域行事参加計画の策定と実施 (職員・利用者参加)	①情報収集 ②半期ごとに見直し 職員主体で顔づくり ③利用者による自治会館・高齢者施設への訪問	ア)年間計画を立案 イ)自治会長に計画内容説明(7月) ウ)ふるさと祭りの準備会に参加(4月) エ)寿喫茶に参加(6月、9月、11月、12月、1月) オ)自治会館スタッフを神戸聖生園クリスマス会に招待(12月)	△
地域住民及び自治会との交流・情報交換(顔づくり)	①地域ニーズの聞き取り ②対応を検討	ア)地域ニーズの聞き取り一部実施 イ)ニーズに対する対応策は未実施	△



実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
文化教室や住民の方の技能を生かした交流機会を創出	①交流機会の検討 ②交流提案	ア) 広報のためのチラシ作成を検討(毎月) イ) 自治会館で交流会実施	○
利用者受診の付添いと医療機関との連携	①利用者の関わっている病院リストアップ ②近隣の病院マップ作成 ③本人・ご家族に受診付添いを依頼 ④付添いの継続、主治医との関係を構築し支援の共有を図る	ア) 病院リストアップ未実施 イ) 近隣病院マップ未作成 ウ) 受診同行実施(6月、7月) エ) 神戸聖生園主治医と実施(7月、11月、12月、1月)	△
災害種別に応じた準備及びマニュアル作成	①地震防災マニュアル作成 ②津波防災マニュアル作成 ③地震防災訓練 ④受入れマニュアル素案・検証 ⑤備蓄品リスト作成・予算	ア) 地震防災マニュアルを作成実施(1月) イ) 津波防災マニュアル不必要と判断(7月) ウ) 防犯マニュアル作成、訓練実施(11月) エ) 受け入れマニュアル未作成 オ) 備蓄品試供品の購入、検討実施(8月)	○
業務の向上と効率化	①業務見直し・検討 ②改善業務の実施、反省と改善 ③収入と支出の毎月の報告と分析 ④生活介護新規利用者10名の増員へ、新年度体制が慣れてから募集を掛ける	ア) 検討会議実施 イ) ガソリン購入方法変更(9月) ウ) 職制会で共有、グラフ化し職員詰所に掲示(毎月) エ) 増員時の活動場所の検討(7~9月) オ) 生活介護から就B移動のアンケート実施(1月)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
サービスの創造と提供	①ニーズ調査 ②サービスとプログラムの検討	ア) ニーズ調査未実施 イ) 新しい企画を提案し、利用者に取り組んでいただき、本人に合ったものかどうか検証（毎月） ウ) 自立支援プログラム作成、施行	○
目標設定と課題の可視化と分析	4半期毎 ①取り組みと改善報告 ②課題・達成内容の掲示	ア) 職制会で予算との相違について検証し、対策を協議（毎月） イ) 収入の推移をグラフにして掲示を実施	◎
各月毎の収支分析の実施と報告	①取り組みの実施 ②3ヶ月毎にサビ管も入り意識付ける	ア) 利用者一人一人の予定と実績を具体的に上げてその差の要因を検討（毎月） イ) サビ管と情報を共有	○
研修活用による接遇力の向上	①電話応対・挨拶・受容等接遇力向上 ②テーマ・講師の調整 ③研修① ④研修② ⑤新規職員研修プログラム作成 ⑥障害特性研修プログラム作成	ア) 独自の研修は実施できず。公の研修は該当がなく未実施 イ) 外部講師の招へいによる研修会未実施 ウ) 新規職員研修プログラムを作成、実施 エ) 障害者特性研修プログラム未作成	△
各マニュアル作成とPDCAサイクルによる運用と管理	①マニュアル作成 ②整備状況の確認と周知 ③マニュアル改善点を検証	ア) 新採用職員研修のマニュアルを作成開始（4月） イ) マニュアルについて職制会で検証（毎月） ウ) マニュアル改善点の検証未実施	△
移行時期の周知と移行先の確保	①やさかだいと協議・調整 ②物件取得の予算・手続き ③移行場所・物件情報の精査 ④利用者・家族への周知、意向確認、説明	ア) 就B利用者の新たな活動場所の協議、選定など未実施 イ) 役員会、家族会で情報を共有（毎月）	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
対象者への支援とサービス提供	①アンケート実施 ②メニュー・仕組み検討 ③講師調整・予算化	ア)アンケートをモニタリング時に実施(8～9月) イ)満足度調査の実施に向けて検討(8月) ウ)講師調整。予算化未実施	○
個別給食マニュアル作成・配食サービスの準備	個別給食 ①アンケート ②調理課題検討 配食サービス ①予算検討・体制確立 ②職員募集・研修 ③機器・専用車両整備 ④試験運用 ⑤10月運用開始	ア)個別給食アンケート作成のみ実施(6～8月) イ)個々の課題について検討(毎月) ウ)配色サービスは対象施設からの申し出で中止、計画を終了	○
聖生園の広報誌発行	①年間テーマ作成 ②地域情報・トピック等の収集と発信 ③広報誌発行1～4号	ア)年間テーマを決定(8月) イ)広報誌の内容を検討し収集を実施(9月) ウ)広報誌発刊(1月)	◎
不動産(賃貸・土地)情報と資金調整	①契約延長不可の場合 は本部会議室へ ②賃貸物件確保 ③永続物件の検討	ア)須磨区横尾で物件を確保(8月) イ)新規賃貸物件情報を収集(毎月)	◎
研修参加と資格の修得(サビ管・防火管理者他)	①申請、受講、資格取得	ア)サビ管(B型)の研修申し込み実施 イ)サビ管受講実施(7～12月)	◎
業務内容の省力化	①書類の見直しと改善 ②試行・改善・採用 ③その他業務の見直し	ア)書類の見直し、試行・改善・採用は未実施 イ)記録の記入時間の確保のため職員の動き方について検討の上施行(7～9月)	○
人事考課と育成システム(OJT)の活用	①人事考課取組目標設定 ②フィードバック ③OJT担当による職員支援 ④半期毎振り返り ⑤新職員研修プログラム作成	ア)人事考課は臨時職員も実施(5月) イ)フィードバックは正職員には実施。臨時職員は未実施 ウ)利用者担当を複数職員で担当し、OJTを実施(毎月) エ)新職員研修を実施(随時)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
専門家に相談	①利用者支援の課題検討 ②愛生園P・Tへの相談継続 ③専門家へ相談と課題解決	ア) ケース単位で検討（毎月） イ) 神戸愛生園P・Tに相談を実施（毎月） ウ) 医療に連携を依頼（8月）	◎
研修機会の充実	①歴史資料館見学 ②キリスト教福祉講座	ア) 歴史資料館の見学実施（6月） イ) 1名参加（9月）	◎
人権擁護(成年後見制度)・虐待防止の実践	①理念について考える ②人権擁護・虐待防止研修(2/年) ③不適切対応研修	ア) 日ごとの糧を施設長が解説（毎日） イ) 人権擁護・虐待防止研修実施（3月） ウ) 不適切対応研修未実施	○

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
事業所名 グループホームながみね  
施設長 西郷 昌一

10月1日付で、社会福祉法人光朔会への譲渡を行いました。(書類上は、9月末に事業終了。10月1日付で光朔会が新規グループホーム立ち上げ) 譲渡後もお住まいの利用者さんの継続利用、支援スタッフの継続雇用を柱に協議を重ねた結果、目標通り継続利用、継続雇用のまま、社会福祉法人光朔会が新規で立ち上げたグループホームの開設という形で運営することとなりました。

今年度は4名の入居者でのスタートとなりましたが、5月に法人内他グループホームに1名が転居し、3名となりました。当該利用者、ご家族の事業譲渡に伴う不安にできるだけ丁寧に対応しました。

### 1. 推進状況

区分	2017年度計画	実施状況	達成度
QOL	権利擁護・虐待防止のための支援	ア) 法令順守研修に参加 (7月) イ) 虐待防止の周知を実施、研修は未実施 ウ) 成年後見制度勉強会 未実施	△
	利用者の健康状態に応じた支援提供	ア) 定期受診の支援・付添いを実施 イ) 傷病時・緊急時の付添いを実施 ウ) 日中活動先への送迎を実施	◎
	安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	ア) 定期的訪問は実施するも回数及ばず イ) 自治会活動、ゴミステーション掃除、近隣へのあいさつ等実施 ウ) 速やかな対応を実施 エ) 避難訓練 未実施	◯
財務	安定的な収入の確保	ア) 利用率向上の働きかけ実施 イ) 週末帰省短縮の働きかけ実施	◎
	建物の修繕・コスト削減	ア) 職員のできる補修は実施 イ) 光朔会が改修工事全般を検討し実施することになる	◎
	譲渡に向けた準備	ア) 個々に説明を行うが説明不足により指摘を受ける イ) 光朔会事務担当者らとの打ち合わせ等を実施	◎

	バックアップ体制の継続	ア) 台風による避難勧告が発令されるが週末帰省の延長で対応 イ) 支援マニュアル作成 未達成 ウ) 職員の人的補充 未達成 エ) 予定表の徹底 未達成 オ) 敷地内植え込みの除草を1回実施	○
人材育成	専門性の向上と情報共有	ア) 法令順守研修に参加 (7月) イ) 世話人・支援者とのミーティング 未達成 ウ) バックアップ職員との情報共有 未達成	△

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
事業所名 グループホームしおや  
管理者 西郷 昌一

夜間体制が整い、利用者に必要な支援を無理なく提供することができました。

しかし、開所以来永らくご尽力いただいた職員が高齢などにより、勤務できなくなり、支援体制維持のため、バックアップ施設から応援をいただきましたが、後を担う職員が与えられ感謝です。

昭和40年代の建物を賃貸している当ホームは、今後消防設備（スプリンクラー）の設置や建物の耐震基準との整合性を問われることとなり、場所の移転も視野に入れ解決策が急務ではありますが、神戸市との協議がスムーズに行われませんでした。

また、さらに土砂災害避難地域であることから、台風襲来時には特段の支援が必要とされました。今後、抜本的な解決策も考えていきます。

利用者の障害特性（自閉症・ダウン症）、課題対応については専門知識を取り入れ、ご家族・支援者による共有を図ることが十分には実施できませんでした。

年度途中に1名の利用者が退所をされました。職員の交代期とも重なり、新たなご利用者さんの利用開始が3月にずれ込みました。

### 1. 推進状況

区分	2017年度計画	実施状況	達成度
QOL	権利擁護・虐待防止のための支援	ア) 法令順守研修に参加（7月） イ) 虐待防止研修は4月参考資料で周知 研修は3月実施 ウ) 成年後見制度勉強会 3月実施	◎
	利用者の健康状態に応じた支援提供	ア) 定期受診の支援・付添いを実施 イ) 傷病時・緊急時の付添いを実施 ウ) 利用者の状況に合わせた送迎を実施 エ) 新規利用者の通所経路の確認、支援を実施	◎
	安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)	ア) 職員会議による訪問実施。回数（2回/月） は一部実施（1回/月） イ) 自治会活動等、階段掃除、近隣へのあいさつ、ゴミステーション清掃を実施 ウ) 地域住民からの声に速やかな対応を実施 エ) 避難訓練、土砂災害避難訓練 3月実施	◎

財務	利用率の確保	ア) 1名欠員状態の影響で利用率 84.79% イ) 週末帰省短縮の働きかけを実施 1名家庭の事情で週末も利用開始 ウ) 連休・夏季・冬季帰省（体験利用）等で 365日開所は未達成	△
	建物の老朽化と修繕・コスト削減	ア) 土壁の補強工事を実施 イ) 職員で行える修理を随時実施	◎
	耐震補強・消防設備等への課題対応	ア) 耐震補強対象事業所としての市との協議未実施 イ) 簡易スプリンクラー設置に向け建物オーナーに相談を実施（設置については了承を得るが費用負担について具体的な相談は未実施）	△
	支援者の安定的雇用	ア) タイムカードの導入を実施 イ) 人材確保に向けた情報収集・募集 未実施	○
	バックアップ体制の継続	ア) バックアップ体制の継続を実施 イ) バックアップ職員と支援内容の共有化を実施 ウ) 植え込み・植栽の剪定を実施	◎
人材育成	専門性の向上と情報共有	ア) 法令遵守研修に参加（7月） イ) 家族会 未実施 ウ) 職員会議を継続実施 エ) ホームと日中活動先の情報共有を実施	○



## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
事業所名 グループホームたいのはた東  
管理者 西郷 昌一

開所から2年目を迎え、地域との関係、バックアップ施設と連携、体験利用の促進及び法人内事業所間の連携などの課題に取り組んできました。

特に、支援者会議を充実し、ホームで上がってくる課題を一つ一つ丁寧に取り組んだことで、連絡等運営上必要な伝達が出来ました。

地域との関係、バックアップ施設との連携により、より安定した運営が出来ました。

また、体験利用については、神戸聖生園利用者をはじめ、法人下、各事業所から多くの利用者が体験できました。

新年度に向かって、体験利用の更なる推進を柱に、地域との関係を強化できるよう取り組みを進めます。

### 1. 推進状況

区分	2017年度計画	実施状況	達成度
QOL	<b>権利擁護・虐待防止のための支援</b>	ア) 法令順守研修参加 (7月)、支援マニュアル整備実施 イ) 虐待防止研修 1月実施 ウ) 成年後見制度勉強会 1月実施	◎
	<b>利用者の健康状態に応じた支援提供</b>	ア) 歯科受診の支援・付添いを実施 イ) 熱発における受診付添いを実施 ウ) 体験型利用者の送迎を実施	◎
	<b>安心・安全な生活の提供 (管理者・サービス管理責任者の働き)</b>	ア) 職員会議・ミニ礼拝・体験型訪問等月2回以上の訪問を実施 イ) 自治会総会、クリーン作戦、利用者見送り、近隣あいさつ、ゴミステーション清掃等を実施 ウ) 車両の駐車に対する苦情あり。職員・ご家族など関係者に周知・対策を実施 エ) 避難訓練 未実施	○

財務	利用率の確保	<p>ア)年間利用率は 86.26%を達成</p> <p>イ)体験型利用者を含めた利用率は 78.58%を達成</p> <p>ウ)帰省短縮（土曜帰り・日曜戻り）を実施</p> <p>エ)365 日開所は連休・夏季休暇により一部達成</p> <p>オ)受入れ拡大・利用手続き・ルール等の整備を実施</p>	◎
	コスト削減	<p>ア)事務及び現場レベルでも見直し経費削減を実施</p> <p>イ)会議・行事等必要な残業は事前確認の上、実施</p>	◎
	支援者の安定雇用	<p>ア)人件費の推移は毎月確認を実施</p> <p>イ)知人及び他法人職員への働きかけを実施</p>	◎
	バックアップ体制の継続	<p>ア)バックアップ体制継続</p> <p>イ)情報共有は実施、支援マニュアルの整理未達成</p> <p>ウ)生垣の剪定実施（7月）除草は2ヶ月毎に実施</p>	○
人材育成	専門性の向上と情報共有	<p>ア)ミニ礼拝の月1回実施継続、法令順守研修に参加（7月）</p> <p>イ)家族会の開催 未実施</p> <p>ウ)定期ミーティングを毎月第3金 14:00～実施</p> <p>エ)バックアップ職員と情報共有を実施</p>	◎

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 神戸愛生園  
施設長 加藤 航

### 神戸愛生園中期事業目標

利用者により向き合える体制づくりを目指します

今年度は春季、秋季に感染症による多数の入院者やそれに伴う退所者があり、予想以上の減収となりました。新規利用者の入替えも思うように進まず、年間を通して欠員状態となりました。また複数のご利用者の死に直面し、支援の有りようについて見つめ直す機会を与えられました。感染症については業務用空気清浄機を導入した後は拡大が見られず、一定の効果を挙げています。この間短期入所事業では、緊急を含むご利用者の受け入れを積極的に行い、当初見込みの収益を上回る実績を上げ、地域にお住まいのご利用者の受け皿としての役割を担いました。

今年度初めて挑戦した EPA による外国人労働者獲得の取り組みは残念ながら、人材確保には至りませんでした。経験と人脈を得ることができ、次年度チャレンジへの足掛かりとなりました。

新しく立ち上げた「業務改善委員会」はパート職員の活用の視点から、清拭などのタオル類の洗濯業務や、清掃作業の共用部分の外部委託を提案し、実施致しました。そこで捻出した時間を利用者支援業務の充実に充てる取り組みを開始いたしました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
北須磨団地自治会へ地域ニーズ調査。それに基づいた取組の展開	①効果的な調査方法の検討・調査の実施と分析	ア)友が丘地区の施設に北須磨団地自治会へのニーズ抽出の重複があり、社会福祉充実計画 14 (友が丘総合事業)へ統合	-
フェイスブックの実施・運用	①フェイスブックの実施・運用	ア)2017年6月までに運用体制構築。 イ)2017年7月より毎月投稿実施	◎
入所利用者の増員	①待機者の確認・51人目の利用者増員	ア)毎月の職制にて待機者を確認 イ)増員については職員体制と合わせ検討継続 ウ)3月末時点で現状の定員(50名)を満たせず(47名)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
視覚・聴覚支援体制加算	①加算取得に必要な資格取得 ②障害者手帳の書き換え支援	ア)指定病院確認済 イ)書き換え対象利用者の選定 ウ)書き換え支援に対する具体的な動きできず	△
業務と人員配置の見直し	①業務改善委員会運営開始（常勤職員2名増員での支援課勤務シフトの検討・パー業務の見直し・夜勤体制加算取得）	ア)委員会を立ち上げ イ)業務の外部委託を基にしたパート支援員と清掃員の役割の見直しを推進 ウ)11月よりタオル類のレンタル開始 エ)1月より清掃一部業務委託開始 オ)11,1月パート会議開催	◎
短期入所登録者を増やす	①利用ニーズの把握 ②登録数増による利用日のシミュレーション	ア)上半期の新規利用登録者（緊急利用を含む）は6名、希望者の面談や体験利用受け入れも推進 イ)下半期利用登録者7名 ウ)入院者や欠員を考慮し、積極的な受入を行った	◎
接遇向上委員会の活動継続と更なる活発化	①効果的な接遇向上の継続実践	ア)毎月の接遇強化週間にて啓発を継続。強化週間の内容を供覧共有 イ)11月委員会で虐待防止チェックリストの結果を共有、接遇強化週間に活用 ウ)3月委員会にて虐待防止チェックリストの結果を共有	○
接遇向上委員会の活動継続と更なる活発化	①満足度調査実施	ア)年間計画を作成、調査準備 イ)10月調査実施、集計し職制会で共有	◎
中堅層の指導力向上	①リーダー勉強会の開催・振返り	ア)8月に各リーダーにリーダーとして学びたいと思っている事についての聞き取りを実施 イ)課題抽出により、コール2人体制、全利用者特浴入浴、口腔ケアについて取組む	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
ISO システムの定着 実行計画	①内部監査・サーベイランス審査の実施	ア)内部監査(1回目)を7月に実施。指摘事項の改善により、システムの確実性を向上 イ)10月内部監査実施 ウ)1月サーベイランス受審し、認証継続となる	◎
キャリアパス制度・内部研修制度の運用	①キャリアパスモデル試行とそれに基づいた内部研修制度の実施	ア)新任職員研修(更衣、排泄、食事) 4/13、24、27 イ)新任職員向け福祉機器研修 7/22 ウ)オムツ研修実施 10/2 エ)神戸愛生園キャリアパスモデルの改訂実施	○
エルダー制度の継続	①エルダー制度の継続・見直し	ア)3名の新任職員にエルダーを配置。 イ)定期的な振り返りや、習熟度チェック表を活用し、育成 ウ)エルダーの質向上の為、勉強会も実施 エ)エルダーマニュアルの実施	◎
研修修了者の増員	①研修の受講・修了(2~3名)	ア)前年度分の実地研修4名終了 イ)8月より新規3名の研修開始 ウ)兵庫県介護福祉士協会の研修に1名参加 エ)外部研修受講者を含め、5名の研修修了	◎
障害特性について学ぶ	①研究発表会の実施	ア)担当部署、発表テーマ決定済。発表に必要なデータを収集中 イ)1月に園内プレ発表 ウ)2月に法人総合職員研修にて発表	◎
利用者支援の基本的な考え方に関する研修の実施	①研修の実施	ア)介護技術向上研修実施 5/29、7/31、9/25、11/17 イ)その都度自己評価を行い、研修の達成度を測った	◎

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
各部署会議などで意見交換をし、日々の仕事で実践できたか振り返る	①部署会議での意見交換と実践	ア) 部署会議ではなく、まずは職制間で意見交換する方向に変更し、その具体的方法を検討中 イ) 神戸聖隷ハンドブックを活用した理念理解の検討。次年度の計画に盛り込む	△
EPA 等による外国人実習者の受け入れ	①受け入れ準備	ア) EPA の受け入れ機関として認定を受け、8月にインドネシア・ジャカルタでの現地合同面接会に参加。9月に第1次マッチング名簿を作成し、斡旋機関(JICWELS)に提出 イ) 1次、2次共にマッチング不成立	○
朝礼メッセージの活用	①職員の朝礼メッセージ担当	ア) 実施方法の検討をしたが、職員体制が整わず、人員が確保されるまで実施保留 イ) 今年度実施できず。来年度の具体的実行内容をまとめた	△

## 2. 出来した事案

9月の請求時に施設側のミスによりお一人の利用者の補足給付の受給更新の手続きができていなかったため、二ヶ月分の補足給付費(111,228円)の請求ができないことが判明し、その分を施設で弁償するということがありました。利用者の経済的権利を支援していることを再認識し、整理整頓を含め、受給者証の管理の徹底を共有いたしました。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 すま障害者地域生活支援センター  
 施設長 有川 洋司

### すま障害者地域生活支援センター中期事業目標

「障害のある方が気軽に思いを伝え相談ができる地域の身近でやさしいセンターを目指します」

法人基本理念に堅く立ち、地域で生活する障害者(児)とそのご家族等からの困りごとや相談に対し、思いを受け止めたうえで必要な情報の提供や助言を行うとともに、関係機関と柔軟に連携を図り適切な障害福祉サービスを利用調整するなど、住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができるよう包括的な相談支援を実施しました。

また、須磨区自立支援協議会の事務局として、行政、関係機関、関係団体と協働しながら、障害の有無に関わらず誰もが住み慣れた地域で安心して生活できることを目的に、地域の特性に応じたテーマ別部会などを通じて、ネットワークを活かした様々な取り組みを実施しました。

さらに、業務内容が幅広く多岐にわたり、個々の相談者との関わりが担当相談員との間で完結する特性を踏まえ、相談者の多様なニーズに包括的な相談支援を実施していくために、相談員が抱え込み過ぎたり孤立することなく、相談員間の知識や経験の差が影響しないよう、心理的フォローを含めたヒアリングとスーパーバイズを計画的かつ継続的に実施し、センター全体の相談支援力の向上に繋げました。

結果として、これまでの4年間の委託事業実績に対して一定の評価を受け、2018年度から新たに3年間の委託事業継続の指定を受けることが出来ました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握	須磨区自立支援協議会運営(事務局) ①全体会(1回/年)、運営委員会(4回/年)の開催	ア) 全体会開催(5月) イ) 運営委員会開催(5月、8月、11月、3月)	○
	就労支援部会 ①当事者セミナー(2回/年)、支援者スキルアップセミナー(1回/年)の実施	ア) 就労支援セミナー実施(9月、1月) イ) 支援者スキルアップセミナー実施(2月)	○
	すまいんど部会 ①アンテナショップ(1回/月)、バザー(1回/年)、ギフト販売(1回/年)の実施	ア) アンテナショップ「すまるしえ」実施(毎月第4木曜日) イ) 手づくりひろば「すましあ」実施(11月) ウ) 冬のギフトセット販売(12月)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握	まなぼー!!部会 ①事例検討会(2回/年)、地域啓発行事(1回/年)の実施	ア) 事例検討会を実施(7月、11月) イ) 地域移行勉強会を実施(1月) ウ) 映画上映会(市民フォーラム)を実施(2月)	○
	ともいき部会 ①地域防災大会(1回/年)参加、地域交流イベント(1回/年)の実施	ア) 須磨区地域防災大会に参加(11月) イ) 須磨海浜水族園交流会を実施(2月)	○
	親子部会 ①動作法研修(3回/年)の実施、サポートブックの更新	ア) 動作法研修を実施(6月、10月、2月) イ) サポートブック勉強会を実施(7月、10月、12月) ウ) 発達の気になる小学生とその家族のため支援教室を実施(8月)	○
	相談支援連絡会 ①連絡会(1回/2ヶ月)の開催	ア) 相談支援連絡会開催(偶数月第4月曜日)	○
	ピアカウンセリング ①発達の気になる子ども保護者向けのグループピアカウンセリングの実施(10回/年)	ア) グループピアカウンセリング実施(6月、7月、9月、10月)	△
支援センター事業への応募	受託申請 ①受託に向けた手続き準備	ア) 神戸市から情報(事業評価手続き)収集(4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月) イ) 次年度事業継続意向調査票を提出(11月) ウ) 事業評価(事業実施状況報告書)を提出(12月) エ) 次年度事業委託継続決定(3月)	◎
特定相談支援事業所としての役割の再考及び総合相談窓口に関する最新動向の確認	事業の見直し ①計画相談支援(サービス等利用計画)の見直し	ア) 契約状況の確認、見直し調整を実施(毎月第1火曜日、毎月第3水曜日)	○
	相談支援の将来的なあり方検討 ①最新動向についての学習	ア) 未実施	×



実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
ケース検討会の継続	ケース会議 ①ケース会議(1回/月)の開催と内容の検討	ア) ケース会議、事例検討会を開催 (毎月第3水曜日)	◎
内部研修の充実	内部研修 ①セルフネグレクト等アウトリーチ支援に関する勉強会(1回/年)の実施	ア) ペット飼育ケースに関する意見交換会を実施(10月) ア) 就労支援に関する勉強会を実施(11月、12月)	○
スーパーバイズの強化	スーパーバイズ ①スーパーバイズの実施(1回/2ヶ月)	ア) 個別スーパーバイズの実施(2ヶ月サイクルで毎月実施)	◎
定期ヒアリングの実施	定期ヒアリング ①全職員対象に定期ヒアリングを実施(1回/4ヶ月)	ア) 定期ヒアリングの実施(6月、10月、2月)	◎
法人理念、権利擁護の実践及び委託事業の意義、役割について学ぶ機会の提供	法人基本理念の理解推進 ①基本理念の唱和(2回/月)	ア) 職員会議(毎月第1火曜日)、ケース会議時(毎月第3水曜日)に基本理念を唱和	◎
	キリスト教福祉の理解 ①学び方、学ぶ内容の検討	ア) 年間聖句を事務所内の目立つ場所に掲示 イ) 職員会議(毎月第1火曜日)で施設長による講話を実施	○

## 2. 出来した事案

### (1) 苦情受付による苦情解決委員会の開催

7/13、センター相談者からの福祉サービス(居宅介護)利用に係る相談について、センターの対応に対しての苦情申出を受付、第三者委員を交えた苦情解決委員会を開催。相談者の居住地近くの居宅介護事業者の情報提供をすることで一応の解決に至る。【完了】

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸聖隷総合相談センター  
 施設長 有川 洋司

### 神戸聖隷総合相談センター中期事業目標

「地区住民の方のお困りごとの相談（障害、発達、児童、高齢など）が気軽に安心して相談できる地域に開放されたセンターを目指します」

法人基本理念に堅く立ち、地域で生活する障害者とその家族等からの相談に対し、相談者の意思及び人権を尊重した適切な情報提供や助言、意向に沿った計画相談支援（サービス等利用計画の作成）サービスの提供等、地域で生活する方々のセーフティネットとしての役割を果たすべく、障害、年齢等に関係なく、生きづらさ、困りごとを持つ方々の相談、ニーズ把握に努め、住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができるよう丁寧な相談支援を行いました。

業務の中心となる計画相談支援サービス（サービス等利用計画作成）においては、主に法人内の事業所を利用されている方を中心に、約 270 名の方々のサービス等利用計画の作成を推進することができました。

さらに、必要性が高まっている「成年後見制度」に関する相談、情報提供、申立支援を通じて地域のニーズに応えるべく、地域向け学習会を 11 月に開催し、制度の普及・啓発、センターの PR に繋げることが出来ました。

しかし、地域との連携や繋がりという点ではまだまだ不十分であり、センターの本来の目的である地域の身近なセーフティネットとしての役割を果たしていくために、積極的に地域との繋がりを深めニーズの把握に努めていくようにします。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域における福祉ニーズの把握	地域ニーズの把握 ①地域行事への積極的な参画(随時)	ア) おいでやすカーニバル出店（障害疑似体験コーナー）（9月） イ) 地域支え合い学習会に参加（北須磨団地自治会）（11月）	△
	地域向け学習会 ①地域向け学習会(1回/年)の開催	ア) 成年後見制度研修会を実施(11月)	◎
特定事業所加算の取得に向けた検討	加算取得 ①加算取得に向けた手続き準備	ア) 特定事業所加算取得（2017年6月～）	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	
ケース検討会の継続	ケース会議 ①ケース会議(毎月)の開催と内容の充実	ア) ケース会議を開催(毎月第4金曜日)	◎
内部研修の充実	内部研修 ①子どもの貧困等、社会的テーマに関する勉強会(1回/年)の企画、実施	ア) 未実施	×
スーパーバイズの強化	スーパーバイズ ①スーパーバイズの実施(1回/3ヶ月)	ア) 個別スーパーバイズを実施(5月、8月、11月)	○
定期ヒアリングの実施	定期ヒアリング ①全職員対象に定期ヒアリングを実施(1回/4ヶ月)	ア) 定期ヒアリングを実施(6月、10月、12月)	○
法人理念、権利擁護の実践及び委託事業の意義、役割について学ぶ機会の提供	法人基本理念の理解推進 ①基本理念の唱和(1回/週)	ア) 神戸愛生園朝礼にて基本理念の唱和、竹内牧師の講和を拝聴 イ) 職員会議(毎月第2金曜日)、ケース会議時(毎月第4金曜日)に「平和を求める祈り」を唱和	◎
	キリスト教福祉の理解 ①学び方、学ぶ内容の検討	ア) 年間聖句を事務所内の目立つ場所に掲示 イ) 神戸聖隷歴史資料館見学を実施(6月)	○

2. 出来した事案  
特になし。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸友生園  
 施設長 井上 待子

### 神戸友生園中期事業目標

利用者一人ひとりの「働きたい」に応えるため、専門性の高いチームワークのとれた集団を目指します。

利用者の方の高齢化、ご家族の高齢化に伴い、安心・安全な生活の提供が求められており、グループホーム事業を検討してきましたが、良い物件に出会えず事業開始することが出来ませんでした。次年度も継続して物件探しを行うと共に、公営住宅を活用してのグループホームも検討していきます。

今年度よりジョブコーチの認定施設となり活動を開始しました。その結果3月には長らく友生園を利用してくださった利用者を一般就労に繋げることが出来ました。労働行政や就労支援機関とも連携をとりながら長く働くことが出来るように今後も支援します。また、福祉的な就労の場としても充実できるように自主生産品をバザー等に出店し、生産を安定させ大まかな年間生産数を見極めることができました。

収入面では概ね予算通りでありましたが、職員の残業時間が多く業務改善の必要性を感じました。職員の健康が損なわれないように環境整備を行います。

利用者理解を深めるため、また人材育成の視点からもケース会議を実施し生育歴から生活環境まで共有する事で、必要な支援の方向性を職員間で学び合う機会としました。

施設の特徴を活かしながら、地域貢献力を高め地域との交流を深め、高齢化や、特別支援学校との連携により困難ケースへの取り組む仕組みづくりを実施していきます。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズの把握	① イベント等参加 ② 生産の安定	①ア) 神戸まつり『須磨区音楽の森』参加 (5月) イ) 北須磨団地『ふるさと祭り』参加 (8月) ウ) 北須磨団地『こんにちはカーニバル』参加 (3月) ②ア) 北須磨団地自治会会長とお茶の販売方法について意見交換 (8月) イ) PJ委員会開催。管理体制修正 (10月) ウ) 利用者による管理ソフト完成 (12月)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
支援学校との連携強化	①学校側との協議の場を持つ	ア) 青陽須磨支援学校評議委員拝命 (4月) イ) 同校にて現在進行中の困難ケース協議 (6月) ウ) 困難ケースへの早期協力の申し出実施 (9月) エ) 学校訪問、困難ケース協議 (10月) オ) 青陽須磨進路担当教員と懇談会を実施 (11月) カ) 困難ケースの実習受け入れについて進路担当と意見交換 (12月) キ) 学校評議員会参加 (2月) ク) 困難ケースについて、小、中、高等部の進路担当と「第1回連絡会」を実施 (3月)	◎
作業種の見直し	①見直し・計画策定 ②企業、バザーでの店頭販売展開 ③ギフト商品としての提案営業 ④作業担当者による納品業務の継続	①ア) 新生工業の特定作業の単価交渉検討 (9月) イ) 新生工業単価交渉に必要な上半期の作業リスト作成 (10月) ア) 単価交渉品種の絞り込み。価格改定を申し入れ (2月) ②ア) 但馬・お城まつり (4月) イ) 神戸まつり『須磨区音楽の森』 (5月) ウ) ふるさと祭り (8月) エ) おいでやすカーニバル (9月) オ) しあわせの村バザーに参加 (10月) カ) 神戸女子大学大学祭「ふれあいショップ」にて販売 (11月) キ) クリスマスフェスティバルに参加 (12月) ク) 自立支援協議会「すまいんど部会」定例会参加 (11月) ケ) オープンファクトリー下畑訪問し委託販売についての打ち合わせ実施 (3月) ③ア) 須磨区社協様へギフトセット納品 (6月) イ) クリスマス用ギフト商品作成・販売 (12月) ④ア) 担当者納品を実施、継続 (4月～) イ) 職員会議にて状況報告 (10月)	○

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
ジョブコーチ認定申請	①申請 ②活動開始・助成金活用	ア)ジョブコーチ（JC）指定事業所認定（4月） ア)職業センター打合せ（4月） イ)JC 推進協議会出席（6月） ウ)市内就労推進センターへ JC の宣伝活動（8月） エ)ジョブコーチ推進協議会出席（10月） オ)ジョブ支援開始（㈱コーナン）（12月） カ)ジョブ支援開始（㈱エトリジ）（2月） キ)友生園利用者雇用によるジョブ支援開始（オックスリビング）（3月）	◎
安定的経営の模索と経費削減の取り組み	①実習・見学の受け入れ ②月ごとの時間管理 ③効率化検証、時間管理	①ア)専門学校実習 31 名、支援学校実習 2 名、介護等体験 3 名、ワーキャン 1 名、見学 10 回約 30 名（4月～9月） イ)専門学校実習 18 名、支援学校実習 3 名、支援学校見学会 42 名、一般利用希望者見学 8 名、体験実習 2 名（10月～3月） ②ア)職員会議での報告 3 回（4～6月） イ)職員会議での報告 6 回（10月～3月） ③ア)朝礼時、退勤時間の促し（4月～3月）	◎
個別状況に配慮しながら出勤率向上	①営業日数管理	ア)請求時に日数管理を実施（4月～3月）	◎
個別プログラム実施計画を作成	①就労プログラム充実 ②検証	①ア)就労プログラム年間計画策定（4月） イ)体験実習実施検討（仕事体験事業の活用方法）実施。 ウ)利用者 1 名体験実習実施（㈱ナガタ薬品）（1月） エ)障害者合同面接会参加（2月） ②ア)活用法は把握、実習先の応募に移る（7月） イ)就労プログラムの具体的内容について検証実施（3月）	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
外部アドバイザーによる販路拡大・商品力の強化	<p>①生産の安定</p> <p>②アドバイザー検討</p>	<p>①ア)生産管理体制の確立（生産・在庫管理フォームの作成）（5月）</p> <p>イ)在庫管理を利用者へ移管（8月）</p> <p>ウ)利用者の管理項目を拡充（11月）</p> <p>エ)在庫管理ソフト完成（12月）</p> <p>オ)在庫管理システム稼働、棚卸実施（1月）</p> <p>カ)在庫管理システム不具合修正（2月）</p> <p>②ア)デザイン会社訪問、商品・チラシ等のデザインのアドバイスを受ける。（8月）</p> <p>イ)アドバイザー導入に対し他事業所と情報交換（12月）</p> <p>ウ)現状とコスト面を鑑みアドバイザー導入を見合わせることを決断しギフト商品の拡充に方向変換（1月）</p>	○
作業手順書作成	①順次作業手順書作成・活用・修正	<p>ア)手順書を複数枚作成、作業場で活用（6月）</p> <p>イ)現行手順書について職員間で協議、検討実施（10月）</p> <p>ウ)サインボード作成（11月）</p> <p>エ)新手順書作成、管理方法再検討（12月）</p> <p>オ)より見やすい工夫（マグネット等利用）の採用（1月）</p> <p>カ)部材表示ツール作成（2月）</p> <p>キ)作業指示カードの表示ツール作成（3月）</p>	○
作業評価基準の改定と活用	<p>①フォーム見直し</p> <p>②活用</p>	<p>①ア)神戸市監査にて指摘を受け新評価表の基本構想を検討（10月）</p> <p>イ)新評価表のひな形入手・検討（12月）</p> <p>②ア)新評価基準表原案作成（1月）</p>	×

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
共同受注窓口の充実	①連携課題整理 ②課題の分析 ③企業訪問と検討	①ア)6月からの共同作業実施に向け各事業所の課題調査、把握(4月) イ)共同受注推進委員会開催、課題整理(8月) ウ)共同作業後の課題整理実施(10月) エ)各事業所に対してヒアリング実施(11月) ②ア)共同受注推進委員会にて課題整理を実施(8月) ③ア)1企業訪問し営業活動実施(1月) イ)1企業に対し営業活動実施(2月)	△
個別プログラム実施計画を作成	①個別プログラム提案	ア)導入にあたり想定される問題点検討(5月) イ)利用者親睦会にてプログラムのニーズを抽出(6月) ウ)2名の利用者への個別プログラム実施(10月～) エ)個別支援計画を遂行することからプログラムの実施が出来ていることから改めて作成する必要性が低いことを確認。今後はモニタリングで評価を行いながら必要な個別プログラムを実施(1月)	×
ケース会議の実施	①年間予定通り実施	ア)4月1件、5月～毎月2件、ケース会議実施	◎
サービス提供表の充実と活用	①サービス提供表作成・活用・修正	ア)4月1件、5月～毎月2件、サービス提供票更新実施	◎
グループホーム事業開始に向けた取り組み	①プロジェクト立ち上げ ②見学会実施	①ア)正規職員会議にて事業概要説明(4月) イ)不動産業者訪問(5月、7月) ウ)神戸地区GH部会への参加(9月) ウ)近隣地域よりGH建設の案件情報、部会で検討(11月) ②ア)候補物件の見学(4月、5月)、候補物件の利用者説明会実施(5月) イ)候補物件がなくなり見学会は未実施	×



実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
防災対策	①訓練実施 ②数量確認 ③マニュアル作成	①ア)年間計画策定、(7月未実施) イ)地震を想定した避難行動について職員間で協議、持ち出し荷物を選定(10月) ウ)友が丘3園合同避難訓練実施(2月) エ)次年度計画を策定(3月) ②ア)消費期限確認(7月) イ)在庫確認、購入品選定(8月) ウ)備蓄品発注(9月) エ)備蓄品リスト更新(11月) ③ア)神戸市監査にて防犯訓練実施の指摘を受ける(10月) イ)防犯マニュアル作成着手(11月)	△
内部研修の実施と充実	①内部/外部研修実施	ア)内部研修実施 6月、7月、8月、12月、2月 イ)外部研修参加 5月、6月、10月(3回)、2月	◎
各種マニュアルの整備	①業務分析 ②業務マニュアル作成	未実施	×
法人理念と支援指針の共有	①内部研修を通して理解共有	ア)朝礼にて理念唱和、職員会議にて聖書朗読(4月～3月) イ)理念についての内部研修実施(7月)	○
虐待・不適切ケアの防止	①職員会議内で事例検討 ②気づきツール案募集	①ア)職員会議で事例検討実施(4月～3月) イ)同会議で不適切支援の報告・共有(7月、8月) ②ア)『ニヤリ・ほっと報告』の提案(6月) イ)職員会議でツール案の再度提唱(8月) ウ)ヒヤリハットの運用方法を再考、「気づきツール」へと展開検討(12月) エ)「気づきツール」試行(1月) オ)「気づきツール」運用開始。苦情解決委員会・虐待防止委員会で報告(2月) カ)2件の「気づき」報告について職員会議で検討(3月)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
中期計画進捗状況を全職員で共有	①職員会議にて進捗確認	ア) 全体職員会議で進捗報告 (5月～8月、10月～3月) 正規職員会議で毎月検討会実施の提唱 (9月) イ) 正規職員会議で下半期総括と次年度役割分担を確認 (3月)	○

## 2. 出来した事案

『神戸友生園利用者とは施設利用者の金銭トラブルに関連して、他施設利用者から賠償を求められた件』

### (1) 事故発生とその解消の経緯

神戸友生園利用者と現在他施設を利用している元神戸友生園利用者2名との間に長期に渡り金銭トラブルがあり、そのトラブルの改善に向けて元利用者2名が利用している施設と情報共有を行なった。その支援過程において、元利用者のうち1名は金銭トラブルに関わっていない事が判明。その元利用者のご家族より、神戸友生園による情報収集が不十分な状態で他施設との情報共有を行ったことで元利用者が精神的に傷ついた事に対して、賠償を求められた。

その後、常務理事と施設長が相手方と面談行い、裁判所調停の方向で対応を進めていくこととなるが、調停制度の利用が困難であることが判明。顧問弁護士を交えた相手方との話し合いの結果、金銭(示談金30万円)と神戸友生園のケア記録の修正を行う事で示談成立。

### (2) 原因と今後の対応

- ①長期に渡って金銭トラブルがあったにも関わらず、介入時期が遅れた為に、トラブル全体像が掴みにくくなった。
- ②他施設との情報共有を行う際の情報の取り扱いについての確認と共有が不十分であった。
- ③トラブルを把握する際に多面的に捉える事ができず、偏った捉え方しか出来ていなかった。

上記の事が原因と考えられます。

これらの反省に立ち、①支援の基本を学び直す内部研修を行い、課題を多面的に捉えた上で問題解決が行えるよう職員のスキル向上に努め、②関係機関との情報共有を行う際は、その取り扱いに対し十分に留意してもらうよう確認と共有を行うなど、今後同様の事が発生しないよう努めて参ります。

以上

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

施設名 神戸光生園

施設長 吉本 ひろみ

### 神戸光生園中期事業目標

利用者・家族のニーズに応えられるサービスを具体化します

就労移行・就労継続支援B型・生活介護の多機能型事業は、一見「多様な集合体」ですが、実は「働く」「仲間と社会参加を実現する」「個性を輝かせる」という私たちが大切にしたい事を行う為に必要なサービスなのだと思います。グループホームの設立によって「暮らしを支える」事にも微力ではありますがサポートしています。いろいろな障害、個性をお持ちの方達が勢活動していく中でお互いが刺激し合い、影響し合っている時にはトラブルにもなりますが、ひとつの「社会」が成り立っているのです。その「社会」をより良くしたい思いで少々欲張りすぎた第三期中期計画ですが、1年目はその取組みに慣れる事で終わってしまったことが反省点です。しかし、全員で取り組む事の意義を重視し2年目の「本番」に向けて全職員がそれぞれの役割をしっかりと認識し、意欲をもって「事業計画」を達成するべく取り組んでいくために必要な「助走期間」でもありました。また2項にも記載しましたが、施設内での金銭紛失が相次ぎ、これまでになく施設内のリスク管理に追われた1年でした。利用者の皆様の自由度を制限せずに、職員の負担も増やさずに、という事は相反し困難を極めました。安心してご利用頂ける施設を維持する為にも今後も継続した管理体制を維持します。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
発達障害の理解と支援方法の確立	①発達障害に関する研修受講	ア) 計画に即した研修の情報収集 イ) 発達障害者の就労支援に関するDVDを借用 ウ) 今年度は研修に不参加	△
	①SSTの技法を使った支援方法を習得	ア) 計画に即した研修の情報収集 イ) SSTに関する書籍「わかりやすい発達障がい・知的障がいのSST実践マニュアル」を購入 ウ) 3月にSST研修に参加(1名)	○
就労支援に特化した環境の構築	①実習先の要件検討	ア) 1月～2月にかけて「ワークセンターひょうご」にて現任訓練実施	○
	①就労支援専用の場所を検討	ア) 現任訓練終了後から検討するが新たな場所は未定	△
	①発達障害に特化したプログラム検討	ア) 研修受講できず、プログラム検討には未着手	×

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
送迎ニーズの調査	①送迎ニーズについて調査を実施	ア) 各支援員に担当利用者の送迎の必要性についてアンケートを実施 イ) アンケートの集計を実施	△
	①結果から、新たなルートの必要性を検討	ア) 法人全体の送迎サービスとの連動を考え、今年度独自のルート検討は未着手	×
送迎車両の確保	①調査結果により購入を検討	ア) 調査未実施（法人中期計画と連動）	×
	①車両購入方法として「やまぶき財団」などの補助金活用を検討	ア) 未実施	×
マニュアルの整備と見直し	①既存のマニュアル見直し	ア) 不足マニュアルの洗い出しに必要な既存マニュアルの整備を実施 イ) 整備したマニュアルのファイリング実施	△
	①業務マニュアル整備	ア) 不足マニュアルの洗い出しに必要な既存マニュアルの整備を実施 イ) 整備したマニュアルのファイリング実施	△
	①支援マニュアル作成	ア) 個別支援計画の書式を変更し個々の計画書に支援マニュアルを記載	○
接遇マニュアルの作成と更新	①製本化し、各自が活用しやすいように配布する	ア) 既存のマニュアルの確認 イ) 製本化までは未完了	△
多機能型施設の強みを活かすことができるスーパーバイザーを育てる	①スーパーバイザー適任者を選出	ア) 月1回の会議を実施。多機能型事業所での支援の質の向上のために必要とされるスーパーバイザーの要件、適任者の候補選出 イ) 下半期、生活介護・就労から1名ずつ選出	◎
	①研修等で研鑽を積み実践に活かす	ア) スーパーバイザーの研修参加 イ) 下半期に研修参加 ウ) 研修の情報収集 エ) 11月～12月に研修1名参加	△
経営計画を現場職員がより理解するための方法を考える	①基本的な加算（送迎、食事等）と特別な加算について学ぶ	ア) 請求できる加算について再確認 イ) 機会損失がないように業務改善やツールの提案実施 ウ) 事業間での加算チェック方法を統一 エ) ケア記録に加算のチェック欄を設定	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
経営計画を現場職員がより理解するための方法を考える	①加算が収入に繋がるように意識付け、実践につなげ又達成しているかを評価する	ア) 月1回の会議を実施 イ) 収支の全体像の理解とグラフ化により、日常業務での節約・業務省力化を検討 ウ) 下半期、職員会議での報告形式を検討 エ) グラフ化する項目まで検討するも業務省力化までは未着手 オ) 職員会議での報告書式まで完成するが実践までは未着手	△
専門家との連携を継続し、創作活動の充実を図る	①月1回の専門家からのアドバイスを継続	ア) 専門家との会議は2018年2月、3月に実施 イ) 商品化は専門家からのアドバイスを受けストール、エコバック試作	△
	①専門の大学からボランティアを募る	ア) 創作専門の学生ボランティアを、創作活動で指導を受けているデザイナーに依頼し候補者を募るが、未実施	△
専門家による職員への指導とスキルアップ	①専門家による年1回の勉強会の実施	ア) 研修実施「授産品力向上セミナー」を開催(10月12日)市内の事業所にも案内し実施 法人フェイスブックに案内掲載	◎
	①アートに特化した施設や展覧会への研修及び視察	ア) 11月にアートに特化した施設「たんぽぽの家」(奈良)に職員2名現任訓練に参加	◎
デザイン事務所との連携と商品開発	①月1回のデザイン事務所との商品化会議の継続	ア) 専門家との会議は2018年2月、3月に実施 イ) 商品化についての取組みはストール、エコバックを試作	△
	①エイブルアートカンパニーへの登録	ア) 2017年12月に1名のエントリーを実施するが、2018年3月通知により落選	△
	①作品保管庫の設置	ア) 倉庫の片づけを実施(毎月)、保管場所のスペースの片づけは完了 イ) 作品ケースを購入し作品保管実施	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
デザイン事務所との連携と商品開発	①ギフトショーへの出展のための企画立案	ア) 東京ギフトショーの出展は商品開発が進まず断念 イ) 商品の質向上・種類を増やし次年度に出展を延期	×
	①カタログの作成のための商品開発	ア) 専門家にアドバイスを受け試作品製作し、更に改善し試作継続 イ) 家族会(さをり部)に製作依頼し、ストール、エコバックを試作	○
1年間の活動を記録する	①各プログラムの記録担当選任	ア) 専門家との日程調整ができず、未着手	×
	①随時活動を記録する	ア) 未実施 イ) 専門機材での撮影が必要であるとの事で記録せず	×
SNSの実用化	①タブレット購入	ア) 記録ソフト導入(クラウド化)に備え、業務用タブレット購入	◎
	①Wi-Fiの設置	ア) 2018年2月(2階事務所)、3月(1階作業場)に設置	◎
	①フェイスブックの活用	ア) 2017年11月開設し、園行事を中心に掲載実施	○
専門大学との連携	①協力校の選定と学校への依頼	ア) 神戸芸術工科大学の映像表現学科を紹介してもらい、顔合わせと神戸光生園の見学の予定であったが、専門家と大学側の日程調整がつかず、次年度再調整	△
	①専門大学の学生等による指導及び共同製作	ア) 専門家との日程調整ができず、進捗せず未実施	×
神戸光生園の実習プログラムを作成する	①現状の実習指導の内容等を分析する	ア) 実習オリエンテーションのマニュアルが未整備だったため、新たに作成	○
	①新たな実習プログラムの内容を検討	ア) 保育士用の実習プログラムを新たに作成	○
大学との連携を強め、人材確保に努める	①実習指導者講習会を受講する資格のある職員は必ず受講する	ア) 実習指導者講習会(11/25・26)を受講(1名)	◎
	①実習受入校の研修会、発表会等に積極的に参加し、関係性を強化	ア) 神戸学院大学主催のオープンカレッジ(6/10・24・7/1)に参加(利用者4名・職員3名) イ) 実習指導者交流会(11/18)(1名) 福祉実習教育研究会(2/6)(1名)に参加	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
大学との連携を強め、人材確保に努める	①評価システムを法人内で統一化する事を検討	ア) 法人内の実習指導担当者の確認と情報交換を実施。評価システムの統一化を検討したが、次年度以降は実習プログラムの統一化へ変更	○
人材育成プログラムを作成する	①OJT研修受講者によって人材育成プログラムを作成	ア) OJT研修（基礎編）の勉強会（9/1）を実施（職員5名参加） イ) 新任職員用振り返りシートを作成 ウ) OJT研修の内部研修（3/7）を実施（職員16名参加）	○
	①OJT研修への参加	ア) OJT推進研修実践編（6/16）に参加（2名） イ) OJTリーダー養成研修（9/19・11/10）に参加（1名） ウ) 職場内研修（OJT研修）担当者研修（2/16・2/23）に参加（1名）	◎
防災計画と訓練の実施	①防災計画の具体化	ア) 昨年度の防災計画を再確認。他府県の災害マニュアルを入手し、参考としながら施設の防災計画の見直しを実施 イ) 本園の防災計画は整備するも、G Hの防災計画は未着手	○
	①地域の障害者を対象とした計画策定	ア) 3/3 に地域住民を含めた防災イベントを計画実施。住民参加は少なかったが地域住民による協議会等との関係を構築	◎
防災計画に基づく備蓄品の見直し・補充	①計画に基づき備蓄品の見直し・補充	ア) 備品の在庫状況確認。期限が切れているものを処分し、地域を含めた防災計画を考慮した場合の不足品の購入検討。また、備品のローリングストック法による消費・購入を計画（防災イベント） イ) 防災イベントにて期限切れが近い備品から消費	○
バリアフリー化（トイレ・EV）	①長期保全計画に加え、更なるバリアフリー化計画を策定	ア) 多目的トイレの設置は、以前補助金による改修を行っているため平成31年度に実施予定 イ) EVについては、建物の大規模改修が必要な為断念	×
	①必要な費用算出と積立金の積立て	ア) トイレ改修の費用算出未実施	×

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
垂水区社会福祉法人連絡協議会・自立支援協議会に参加	①神陵台地域で活動	ア) 4月の垂水区社会福祉法人連絡協議会にて、神陵台地区から本多聞地区に変更となる。本園とは対象地域が異なる事もあり、積極的な参加は出来ず。ほっとかへんねつとの活動に参加 イ) ほっとかへんねつとの活動として、名谷地区のふれあい喫茶・自治会の祭りに参加 ウ) 自立支援協議会（防災部会）として、塩屋北小学校防災訓練、垂水区総合防災訓練に参加	◎
防災計画の策定と周知	①現在進めているヘルプカードの活用推進	ア) ヘルプカードの活用について利用者家族にアンケート実施（9月） イ) アンケート結果を自立支援協議会防災部会にて報告	△
	①地域・学校との共同での活動へ利用者さんと共に積極的に参加	ア) 地域のイベントへの和太鼓チームの出演（7月） イ) 地域の自治会公園清掃に利用者と一緒に参加（5月・12月・3月）	△
神戸聖隷の成り立ちについて、創生期の方の講話を聴き理解を深める	①金附顧問に講演頂き、法人の成り立ちと、先人の方達の強い意志を引き継ぎ学ぶ	ア) 金附顧問に講演の依頼、2018年3月に講演を実施して全職員がレポート提出	◎
長谷川保氏の書物を読み神戸聖隷のルーツともなる聖隷福祉事業団の歴史を知る	①「長谷川保の生涯」を読む	ア) 「長谷川保の生涯」を3冊入手。下半期より輪読開始 イ) 毎月3人ずつ輪読してレポート提出	◎
浜松の歴史資料館や施設、神戸聖隷の歴史資料館を見学し、聖隷の歴史を身近に感じる	①全職員が順番に長谷川保氏の書物を読み見学経験のない職員は全員見学を実施、レポートを作成する	ア) 2018年1月に聖隷福祉事業団の見学に参加 イ) 2017年12月に神戸聖隷歴史資料館に2回見学実施	◎



## 2. 出来した事案

### 利用者所持金の紛失多発事案の件

施設内で、利用者様の所持金が紛失する事案が多発しました。自己管理をしている方のお財布の金額が合わない、というご家族からのお申し出により発覚したもので、家族会やお知らせ文の配布により、所持金の申告と、財布・貴重品を預かせて頂く事、(これまでも特定の方の財布等貴重品はお預かりしていました)ロッカーの施錠を管理出来る方については自己管理をお願いしました。更衣室内での職員の見守りも強化しましたが、全ての利用者様の行動を見守る事は困難であり、また預かる事を拒否される方、認識の違いで申告をされなかった方もおられ中々終息する事が出来ませんでした。結果としては特定の方による行為が判明しました。そのような行為がこれまでなかった方であり、生活形態の変化により生じた事ではありましたが職員の思いこみにより見過ごしてしまった事が原因究明を遅らせた一因でした。一旦終息したかに見えましたが、再び貴重品の紛失があり、全ロッカーを施錠する対応を取る事と致しました。その都度家族会等でお詫びと報告・説明を行い防止策を講じておりましたが、利用者様・ご家族様には多大なるご迷惑をおかけしてしまいました。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
グループホームみなみたもん  
管理者 吉本ひろみ

2017年度の課題は、利用者間の人間関係の調整に悩んだ1年でした。お一人ずつであれば何事もない場合でも、その時々で気持ちの安定が得られない場合は他の利用者の方への攻撃になる時もしばしばでした。どうしたらお互いが気持ち良く暮らすことができるのか、解決の道筋が見えないままでした。出来る事は、休日の余暇の過ごし方の提案として、ガイドヘルパーの調整、訴えに耳を傾ける事、相性がよくないと思われる方との接点をできるだけ少なくすること、でした。また、年度末にお一人が内臓疾患の手術を受けられ、入院をされることがありました。今後も健康管理には十分に留意しホームでの生活を続けて頂けるようにサポートします。また、65歳以上の方の今後の日中活動の利用についての問題にも直面しました。介護保険優先の原則はありますが、介護保険では十分な支援が受けられない方の生活をどう受け止めるかが課題となり、今後も検討を続けることとなります。

### 1. 推進状況

区分	2017年度計画	実施状況	達成度
QOL	①権利擁護のための支援	ア) 入居者の後見人・保佐人との報告・連絡・調整を密に行い本人の意思を尊重した支援を徹底 イ) 虐待防止に向けた取り組みとして、世話人会議（月1回）で利用者対応方法を共有したが学習会としては未実施	○
	①マニュアルの整備	ア) 世話人・生活支援員業務についてのマニュアルの再作成は未着手、日中支援マニュアルは作成	△
	①健康管理	ア) 定期受診、状況に応じて受診調整を実施	◎
	①地域との連携	ア) 自治会主催の防火訓練に世話人、利用者共に参加（11月）	○
	①防災対策	ア) 防災設備点検2回実施 イ) 避難訓練、通報訓練は2回実施	◎
財務	①利用率の安定維持	ア) 365日の運営で安定した生活を提供	◎
	①堅実なバックアップ施設	ア) 世話人・日中支援員の交替要員として支援を実施	◎
人材育成	①キリスト教理念の浸透	ア) 世話人会議開催時に基本理念を唱和	○
	①専門性の向上	ア) サービス管理責任者が全国グループホーム研修会（福井）に参加（8月）	○

	①虐待防止・人権擁護の 取組み	ア) 内部研修を神戸光生園にて3月に実施し 5名中3名参加 イ) 関係機関等実施の外部研修には不参加 ウ) 月1回定例の世話人会議を実施、支援方法 や利用者対応についての相談を実施	○
--	--------------------	--	---

## 2. 出来した事案

### 虐待が疑われる支援行為について

5/13 グループホーム利用者さんが他の利用者さんに対して自室に戻るように背中を押し続け、間に入って止めようとした支援員の手が利用者さんの顔に当たり、「顔を叩いて」しまいました。支援員から施設長に報告があり、本部報告、5/18に神戸市に事故報告書を提出しました。6/1に神戸市が実施指導として当事者及び施設長へ聴き取りを行い、後日口頭にて「虐待とは取り扱わない」と報告がありました。特定の利用者さんへの、一方的なこだわりについて修正がむずかしく、対象となった利用者さんとの接点を少なくするよう全支援員に周知しました

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

事業所名 グループホームふくだ

管理者 吉本 ひろみ

法人で初めて「建て貸し方式」を採用し、10名定員で障害支援区分が4～6の方が入居されたグループホームを5月にオープンして11カ月が過ぎました。スタート時の職員も数名入れ替わり、職員の安定的な確保に苦慮しました。また10名という規模が想像以上に大きく、これまでのグループホームの概念を変えて「小規模施設」として様々な対応をする必要に迫られました。5月1日にオープンできたものの予定していた全員が入居されたのがほぼ月末に近かったこと、予定より帰省が多かったことから当初の収入予算を下回りました。一方、入居された方々はスムーズにホームの生活に慣れてとても和やかな雰囲気でもらわれています。

心配されたご近所の方とのトラブルもなく良い関係を築きつつあり、自治会にも加入させて頂きました。夏には近くの学校での夏祭りにも参加できました。体制としては「施設」かもしれませんが、入居者の皆さんが夕食後リビングで過ごされる時間が多いので皆さんにとっては「家庭」となりつつあるのではないかと感じています。今後の課題としては、「職員体制の安定的な確保」と「世話人・生活支援員の障害特性の理解と支援力の向上」です。知識や支援力不足が虐待につながってしまうことが決してないように取り組む必要性を強く認識しました。

### 1. 推進状況

区分	2017年度計画	実施状況	達成度
QOL	①権利擁護・虐待防止のための支援	ア) 支援員・世話人への雇用時の研修実施、法人の虐待防止体制の為の取組みの周知 イ) 年2回の支援員のセルフチェックを実施	○
	①マニュアルの整備	ア) 世話人・生活支援員業務についてのマニュアルを策定し、随時更新	○
	①地域との連携	ア) 地域自治会に加入、近隣小学校での夏祭りに参加 イ) 地域住民の方への障害理解への取組みは未実施	△
	①防災対策	ア) 避難訓練は年2回実施 イ) 地域自治会では防災訓練の開催無し	◎
財務	①利用率の安定維持	ア) 週7日のサービス提供と、利用率89%の実績(目標95%) イ) 4名は帰省なしの利用	△
	①バックアップ機能の体制整備	ア) コーディネーター(サービス管理責任者)配置するも支援重視となり、バックアップ体制構築までは着手出来ず	△

人材育成	①基本理念の浸透	ア)職員会議開催時に基本理念を唱和 (月1回)	○
	①専門性の向上	ア)強度行動障支援者養成研修(実践研修)に 支援員1名参加	○
	①虐待防止・人権擁護の 取組み	ア)神戸光生園内部研修に合同参加(5名) (3/29)不参加者資料配布 イ)多くの支援員をシフト制で配置するので 支援の標準化を目指しマニュアルの作 成・更新	○

## 2. 出来した事案

### 利用者さんの金銭を紛失した件

1月に、ご家族からお預かりしていた入居者の財布(現金40,316円入り)を紛失する事故がありました。本来金庫に保管すべき物を一時置き場に置いたままにしてしまい、捜索しましたが見つかりませんでした。ご家族にお詫びし、弁済をさせて頂きました。再発防止策として、現金・貴重品の保管方法のマニュアルを作成し全職員に周知徹底しました。また、預り金等の定期的な確認を管理者が行う事などを決めました。多くの支援員が関わる為、利便性を重視した故にリスク管理が出来ていなかった事が原因と反省しました。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 神戸明生園  
 施設長 山本 隆志

### 神戸明生園中期事業目標

#### ご利用者、ご家族、職員のだれもが笑顔の多くみられる施設の実現

支援のベースとなる基本理念については、海外研修、他法人理念研修へ参加し、理解を進める動きを行いました。

高齢のご利用者への身体機能維持としての活動提供については、理学療法士と連携してプログラムの検討と実施をしています。理学療法士による施設内での介護技術基礎研修などを行う中で、施設全体での意識の向上が新たな課題として見えました。同時に、今までの業務の流れを見直す動きを始めています。

支援記録ソフトの導入が完了し、まずはケア記録、業務日誌がソフト入力へと移行できました。ヒヤリハット報告の入力、一部データの整理を始めることができました。ご利用者支援の充実、業務の効率化へ向けた取り組みが、次年度の課題として残っています。

地域ニーズ及び安定した経営を支える短期入所については、マンパワー不足により、十分な結果には繋げることが出来ませんでした。その様な状況においても、虐待事例での緊急的な受け入れ、介護者不在による医療行為の必要な事例の受け入れなど、ご利用者を中心とした支援を提供できたことは、入所施設としての役割を果たせた部分でした。

ご利用者の個性を社会に発信していく場である作品展は、今年度も成功に終わられました。

ご利用者、ご家族、職員の笑顔が更に増えるように、次年度に向けて計画を進めていきます。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
短期入所の安定した受け入れ	①稼働率目標の維持	ア)虐待事案の緊急受け入れ実施 イ)医療面で配慮が必要な方についても受け入れ実施 ウ)5,6月以外は目標達成 エ)下半期は稼働率目標未達 オ)受け入れ体制の見直しに着手	△
短期入所受け入れマニュアルの作成	①マニュアル作成に着手	ア)マニュアル作成について担当者決めを実施 イ)マニュアルの完成には至らず	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域ニーズ、法人内ご利用者のニーズの再調査委	①法人内の知的障害者施設へのニーズ調査を実施 (短期入所、施設入所、グループホームなど)	ア) グループホーム設立に関しては、法人内各部会との調整が必要と判断 イ) 部会との連携には未着手	△
ニーズに合った生活の場、活動の場の再考	①アンケート結果に基づきサービス展開の方向性を確認	ア) 法人内部会との調整が必要と判断 イ) 部会との連携には未着手	△
重度加算への対応	①加算対象研修受講3名	ア) 加算対象研修へ3名申し込み実施(基礎) イ) 加算対象研修指導者1名受講 ウ) 実践研修を3名受講済み エ) 支援計画シートの作成に着手	◎
積立金の計上	①3千万円の積立実施	ア) 現時点では目標未達見込み(修繕、改修のコスト増のため) イ) 2800万円積立	△
PTとの連携による、リハビリの実施	①リハビリが必要なご利用者の再調査	ア) ご利用者の状況について確認実施 イ) PTとの連携により介護技術基礎研修を実施	◎
重度・高齢化への設備面での対応	①施設改修・設備検討委員会での検討	ア) 一部介護ベッド導入 イ) 旧館について、改修、活用方法を検討する会議実施 ウ) 設計士と旧館について相談実施	○
業務分析・業務標準化の実施	①業務改善委員会でのマニュアル作成に着手	ア) 施設内アンケート実施 イ) 委員会開催(3回) ウ) 業務内容の再アンケート実施	△
支援記録システムの導入	①支援記録システムの導入と運用開始	ア) 記録検討委員会開催(5月) イ) ソフトデモンストレーション受講(7月) ウ) ソフト導入実施(9月) エ) 導入研修実施(3回/9月) オ) 11月よりケア記録の完全移行を実施	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
虐待防止の徹底・接遇改善の推進	①3か月に1度のチェックリスト実施	ア)チェックリスト実施(4回)	◎
	②チェックリストのフィードバック実施	ア)フィードバック実施(4回)	◎
	③スローガンポスターの継続	ア)スローガンポスター掲示更新(4回)	◎
豊かな暮らしの支援	①神戸明生園作品展の開催継続	ア)委員会実施(3回) イ)区社協助成金申請、交付決定 ウ)メディアへの広報実施 エ)作品展実施、イベント成功	◎
業務に必要な技術の習得と研修内容・研修計画を検討	①施設内で必要な研修内容を検討整理	ア)外部研修への積極的な参加 イ)9月に研修計画策定委員会第1回目実施 ウ)初任者研修内容の検討に着手	○
法人理念の理解、浸透と、理念に基づいたサービスの提供	①歴史資料館見学を実施し法人の歴史を学ぶ	ア)3名の見学実施(6月) イ)4名の見学実施(11月)	○
	②神戸明生園の歴史について学ぶ(法人40年記念誌、DVDの活用)	ア)DVD上映1回 イ)自施設の歴史学習は未着手	△
	①基本理念と平和を求める祈りの唱和(週1回)	ア)継続実施中	○
	②基本理念と支援の関係性を考える会の進め方を検討する	ア)会議実施出来ず イ)神戸聖隷ハンドブックについて説明を実施	△
	③会議での基本理念勉強会実施	ア)下半期の全体会議にて、理念についての話を実施 イ)海外研修参加報告実施 ウ)他法人理念研修参加報告実施	△

## 2. 出来た事案

無し



## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
事業所名 ケアホームきたすま  
管理者 山本 隆志

ご利用者の安全対策として、改正消防法への対応が完了しました。具体的には、補助金を活用してスプリンクラー設備の設置及び、火災報知機と自動火災通報装置の連動工事を行いました。工事に際して、近隣住宅への工事説明を個別に行った結果、グループホーム運営への理解が深まりました。

ご家族の高齢化に伴い、ご利用者の週末帰省が減少し、移動支援を利用した余暇活動へと移行してきています。ご家族、ご本人が安心して地域生活を行えるように、関係機関との調整が図れました。

支援員の専門性向上に向けて、内部研修を2回実施しましたが、外部研修への参加がかなわず、課題として残りました。

バックアップ担当者との連携については、今年度は施設からのバックアップが中心となりましたが、課題がある際は、引き続き情報共有を図る事に努めました。

### 1. 推進状況

区分	2017年度計画	実施状況	達成度
QOL	高齢・重度化への対応	ア) 居室内の椅子など、身体面への配慮実施 イ) 共用スペースの椅子見直し実施	○
	利用者の安全の確保	ア) 消防法改正への対応完了 イ) 既存防火設備の強化完了 ウ) 体調不良時の本体施設からのバックアップ実施 エ) 防犯対策に消防設備の活用検討	◎
	地域生活の定着	ア) 自治会清掃へ参加実施 イ) 近隣商業施設の利用実施 ウ) 移動支援事業所利用者増加（2名） エ) 近隣住民（1軒）と対話実施により理解が深まった	◎
財務	予算に沿った収入の確保	ア) 利用率の維持へ努め調整実施	○
	設備改修	ア) 物件オーナーとの連携実施、承諾書受領 今後の継続的利用をオーナーと共有 イ) スプリンクラー設置へ補助金受領	◎

人材育成	専門性の向上	ア)外部研修への参加は未達成 イ)チェックリスト4回実施、内部研修2回実施 ウ)参考テキスト読み合わせ1回 エ)バックアップ体制の強化 バックアップ担当者との会議2回 対応可能職員は1名増	△
------	--------	---	---

2. 出来した事案

無し

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 神戸市立ワークセンターひょうご、神戸市障害者就労推進センター  
 神戸障害者就業・生活支援センター、障害者就職拡大推進事業  
 所 長 森崎 康文

### 中期事業目標

障害のある方が安心して地域生活を送ることができる支援の仕組みを作ります

第3期中期計画の初年度が終了しました。

まず、地域交流については、隣接するキャナルタウンイーストの自治会長と面談することができましたので、次年度は自治会役員会に出席させていただき、当施設の見学、地域交流行事の開催に繋がりたいと思います。

次に、職員の育成、専門性の向上については、積極的な外部研修受講に取り組みました。内部研修では、事例検討会(年2回)、法人基本理念研修を実施し、スキルアップを図りました。

ワークセンターひょうごについては、昨年度受審した第三者評価の結果を踏まえ、各種支援マニュアルの作成に取り組みました。就労相談部門と共通の「個人情報保護・管理マニュアル」「リスク管理マニュアル」をはじめ、事業の運営マニュアルも整備しました。上半期は6名と低調だった就職者数は、下半期は9名と挽回し、年間15名の就職者となりました。しかしここ数年と比較するとやや少なく、次年度の基本報酬で最上位の単位が取得できないという影響がありました。グループホームについては、適した土地情報がなく、頓挫している状況です。法人内他施設とも連携しながら、進めたいと思います。また、新設される就労定着支援事業については、次年度7月開設予定で予算を策定しましたので、指定申請等の準備を進めていきます。

神戸市障害者就労推進センターをはじめとする就労相談部門では、定められた事業を確実に遂行しました。また、相談者の利便性向上を目指し、1月から第3土曜日の開所が実現しました。今後は広報に力を入れ、必要な方に利用していただけるようにしたいと思います。未登録(新規)相談の分析と活用方法の検討、福祉の基礎研修の実施については、十分に進捗しなかったため、次年度に力を入れて取り組んでいきます。就労分野で注目されている精神・発達障害者への支援強化についても、引き続き力を入れていきます。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
【共通】区役所を通じ、近隣の自治会とのつながりを持つ	①区役所を通じ、近隣の自治会を紹介してもらい、顔合わせをする。 ②自治会長等に、当施設の見学をしてもらう。	ア) 区役所を通じ、近隣の自治会を紹介してもらう予定であったが、まずは隣接するキャナルタウンイーストの自治会とつながりを持つこと、中部在障全体で自治会とのかかわりを進めていくことを中部在障の運営会議で確認 イ) 7月、3月に自治会長が来所し面談。次年度、自治会の役員会に出席させていただく予定	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
【共通】 福祉避難所としての施設整備	①神戸市と協議を重ね、必要な整備を進める。	神戸市との協議を実施 ア) 福祉避難所、障害者支援センター構想について確認（6、8、9、10、2月） イ) 今後、障害者支援センターを受託し、災害時要援護者支援機能が求められるまでは、福祉避難所としての指定を受け、機能を果たしていくことを確認	△
【共通】 法人基本理念、事例検討会を含めた内部研修の充実	①PCAGIP法の学習	ア) PCAGIP法の勉強会を実施（8月）	◎
	②事例検討会の開催	ア) PCAGIP法を用いた事例検討会を開催（10、2月）	◎
	③法人基本理念を含めた内部研修の実施	ア) 法人基本理念の内部研修を開催（1月、講師：水野理事長）	◎
【共通】 福祉の基礎研修の実施	①研修内容の検討 ②研修実施と研修の内容の見直し	ア) ひょうごデイサービスセンター、自立センターひょうごの見学を実施（7月） イ) 神戸愛生園の見学を実施（12月） ウ) 新人職員が社会福祉施設新任職員研修（4月）、就業支援基礎研修（9月）県知協知的障害者スタッフ研修（2月）を受講	△
【就労】 精神・発達障害者への支援の強化	①関係機関への協力依頼 ②現場実習の実施	ア) 就業支援アドバイザー（精神科医、精神保健福祉士）による意見照会を実施（10、1月） イ) 精神科デイケアでの就労支援についての研修会を開催（10月） ウ) 精神障害者を対象とした就労移行支援事業所での実習（4月）、アセスメント研修（3月）を実施	◎
【就労】 事業内容の充実と誠実な遂行	（就業・生活） ネットワーク会議、就労移行支援部会、教育関係機関就労支援連絡会、ラーニングセッションの開催	ア) ネットワーク会議を開催（5、2月） イ) 就労移行支援部会を開催（7、12月） ウ) 教育関係機関就労支援連絡会を開催（10、2月） エ) ラーニングセッションを開催（9月）	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
【就労】 事業内容の 充実と誠実 な遂行	(就労推進) 中部地域ネットワーク会 議、5者会の開催	ア) 中部地域ネットワーク会議を開催 (7、10、1月) イ) 月1回、5者会を開催	◎
	在職者交流会、ドリームの 開催	ア) 在職者交流会を開催 (7、10、12、2月) イ) 毎週金曜日にドリームを開催 (年48回、延べ1090人が参加)	◎
	登録確認・現況調査の実施	ア) 8月、590名の登録者に現況調査を 送付。うちロンガー対象者を除く 522名には併せて登録確認も送付。 現況調査の回答者は401名で回収 率は68%	◎
【ワーク】 積極的な営 業活動	積極的な営業活動(訪問、 見学や体験実習の積極的 な受け入れ)	ア) 特別支援学校、普通校、定時制高 校を計35回訪問 イ) 特別支援学校等から108名、一般 243名、計351名の見学を受け入れ ウ) オープン見学会(神戸市主催)を開 催し、35名の見学者を受け入れ エ) 特別支援学校等から53名の体験実 習を受け入れ	◎
【共通】 ホームペー ジの充実	①新しいホームページの スタート、タイムリーな 情報発信、アクセス状況 分析による内容の充実  ②効果検証	ア) ブログやインフォメーションのコ ンテンツを追加し、タイムリーな情 報を発信(毎月2回以上更新) イ) 名刺、見学者向け資料にホーム ページのQRコードを掲載してPR ウ) ワークセンターひょうごの次年度 利用者募集要項(9月)、二次募集 要項(1月)の情報を掲載 エ) 年間のアクセス件数は8046件	◎
【ワーク】 開所日数の 増加と利用 率向上	計画的な土曜開所とプロ グラムの充実	ア) 4月に年間計画を訓練生に周知 (年24回) イ) 満足度調査での要望を受け、年2 回一日外出活動を実施(7、11月) ウ) 土曜日の平均出勤率は77.7%	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
【ワーク】 一般就労者のグループホームの開設	①グループホーム検討委員会の立ち上げ ②家族会・ファミリー会に向け、3年以内にグループホームの利用を希望する人を募り、検討会議を実施	ア) 検討委員会は立ち上げたが、検討する材料がなく、定期開催に至らず イ) 東尻池のグループホーム計画は、大規模改修が必要であることから検討中止。中道通、板宿の物件情報も不適との判断。その後は適した土地情報なし ウ) 東尻池については、検討段階で家族会・ファミリー会に意向調査を実施。その後は適した土地情報がないため、利用希望を募ることはせず	△
【ワーク】 「自立生活援助」「就労定着支援」の事業所開設の検討	「自立生活援助」「就労定着支援」について国の動向の情報収集	ア) 研修等に参加し、情報収集。2～3月に詳細が明示 イ) 神戸市障害者支援課指定指導係と「就労定着支援事業」について面談(2月) ウ) 次年度7月開設を目指し、予算を策定	○
【就労】 土曜開所の検討(月1回～)	①神戸市と協議し、開所日の検討 ②職員の勤務シフトの検討	ア) 神戸市を訪問し、土曜開所について説明、承認(8月)。1月から第3土曜日を開所(職員2名体制) イ) ホームページで土曜開所について周知	◎
【共通】 研修受講一覧の整備と外部研修の積極的な受講	①研修受講一覧の作成 ②外部研修の積極的な受講	ア) 職員ごとの研修受講一覧を作成 イ) 障害者就業・生活支援センター就業支援担当者研修、面接相談スキルアップ研修(基礎・フォローアップ)、ビジネスマナー研修、ファシリテーター養成研修、障害者虐待防止対応力向上研修、訪問型職場適応援助者養成研修等、78研修119名が受講	◎
【就労】 未登録の相談(新規相談)の記録のデータ化	未登録の相談記録のデータ化の検討	ア) 未登録相談のうち継続相談となりそうなケースは相談記録システムに入力しデータ化を実施 イ) データ化した記録の集計や活用方法については未検討	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
【共通】 日々の業務 のマニュアル 化	個人情報管理、リスク管理 等についてのマニュアル 作成	ア) 担当で検討会議を開催し、「個人情報保護管理マニュアル」「リスク管理マニュアル」の案を完成。運用に向けて準備中	○
	ワークセンターの業務・支 援マニュアルの整備	ア) 「見守り支援」「食事支援」「定着支援」「訓練場内における支援マニュアル」「体験実習受け入れマニュアル」「基礎評価の手引き」を作成	○
	ほっとロビー、ドリームに ついての支援マニュアル の整備	ア) ほっとロビー、ドリームのマニュアルを作成し、職員間で周知し、運用	◎

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
ひょうご障害者地域生活支援センター  
神戸市障害者基幹相談支援センター  
神戸市発達障害者中部相談窓口  
所 長 森崎 康文

### 中期事業目標

**障害のある方が安心して地域生活を送ることができる支援の仕組みを作ります**

第3期中期計画の1年目が終了しました。以下、年度報告をいたします。

まず、共通の重点実行計画である「ワンストップサービスの強化」についてですが、各職員がお互いの事業をより深く理解するために、全体職員会議（年7回）では、各事業の最新の取り組みの共有を行いました。また、毎月の支援センター・発達窓口合同会議（3木会）や就労相談・発達窓口合同会議（中の島会）においてケース共有も行いました。続いて、「PCAGIP法による事例検討会」を2月に開催し、具体的な事例を通して、お互いの事業や支援内容について理解し合う機会を持ちました。その他にも、各事業に関する既存の資料の整理を行い、各事業の“見える化”の一步を踏み出すことができました。しかし、「各事業の支援の流れ」については文書化できず、課題として残りました。次年度は、「各事業の支援の流れ」の完成とともに、全体職員会議などのよりいっそうの充実などを通して、それぞれの事業内容に対する各職員の理解の促進を図っていききたいと思います。

次に、各事業の重点実施計画ですが、地域生活支援センターでは、地域貢献活動と地域ニーズの把握に取り組みました。まず、地域貢献活動については、「ほっとかへんネット兵庫」の一員として、他法人の職員と協力しながら、生活環境改善事業（清掃活動）に年4回参加しました。そのうちの1回では、支援対象者の生活環境が改善したことにより、親族との交流が再開し、支援対象者の「生活の質」の向上に貢献することができました。次年度も引き続き、生活環境改善事業に積極的に参加していきます。

続いて、地域ニーズの把握ですが、地域のキーパーソンである民生委員・児童委員との関係構築が大切であるとの観点から、「ふれあいセミナー」と称して、障害特性や障害福祉に対する啓発活動を10地区に対して計8回行いました。その中で、多くの民生委員・児童委員の方々と直に交流し、地域の実情を把握する一步が踏み出せました。また、障害者に対する理解促進にもつながりました。しかし、より踏み込んだ形での地域ニーズ・課題の把握はできなかったため、次年度は区自立支援協議会の部会活動（特に、次年度新設予定の相談支援部会）を通して、地域ニーズ・課題の把握とそれら課題への対応に取り組んでいきたいと思えます。

次に、基幹相談支援センターでは、市内の特定相談支援事業者連絡会及び研修会（以下、連絡会という）の充実に取り組みました。相談支援専門員のアセスメント力の向上やスーパービジョンについての正しい理解などを目的に、連絡会を年3回開催し、参加者からは、「多くの気づきが得られた」などの肯定的な感想が見られました。次年度も引き続き、市内の相談支援専門員のよりいっそうの資質向上を目指して、連絡会の運営を行っていきます。

最後に、発達障害者中部相談窓口では、若年の発達障害者とその関係者に対する支援の強化に取り組みました。まず、支援対象地域内の専門学校のうち17校に対して訪問や電話等のアプローチを行いました。その中で、専門学校内で支援の必要な学生の存在の確認ができたとも



に、教職員が対応に苦慮している実情を把握することができました。次に、訪問の際、教職員向けの勉強会に対して関心を示された学校が2校あり、そのうちの1校を再訪問しました。結果、3月に教職員向けの勉強会を開催することができました。次年度は、昨年度に勉強会を実施した学校へのフォローアップや新たな学校での勉強会の開催を通して、引き続き、若年の発達障害者とその関係者に対する支援を行っていきたいと思います。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
【地域】「ほっとかへんネット兵庫」の活動への参画	① ほっとかへんネット (兵庫区社会福祉法人等連絡協議会)の構成メンバーとの関係構築	ア) 兵庫区社会福祉法人等連絡協議会の実務者会に参加(4月) イ) 兵庫区社会福祉法人等連絡協議会の総会に参加(5月) ウ) 兵庫区社会福祉法人等連絡協議会主催の視察、研修会に参加(12月、1月)	◎
	① 公益的取り組みの検討・実施	ア) 生活環境改善事業審査会に出席(4月、7月、9月、3月) イ) 生活環境改善事業(清掃活動)に参加(4月、8月、9月、3月)	◎
【地域】地域におけるニーズの把握と対応	① 地域のニーズ調査・結果分析	ア) 区自立支援協議会総会において、地域課題等の共有を目的とした「障害者地域ケア会議」の開催と民生委員との関係強化の方針を確認(5月) イ) 民生委員への説明会の最終確認(10月)、民生委員への説明会を計8回開催(11月:3回、12月:1回、1月:2回、3月:2回) ウ) 上記の説明会により、地域の実情の把握の第一歩を踏み出したが、それ以上の地域ニーズの把握・分析に至らず、より詳細の地域ニーズの把握は次年度に繰り越し	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
<p>【共通】 支援センター事業への応募による受託</p>	<p>① 公募への準備・応募</p>	<p>ア)次期の地域生活支援センター、基幹センター、発達窓口の運営法人選定については「事業評価」で行われることをセンター連絡協議会で確認（7、9月） イ)神戸市障害者支援課から事業評価に関する通知と報告書類の提示あり（11月） ウ)神戸市障害者支援課に、事業評価に関する報告書類を提出（12月）</p>	◎
	<p>① 事業受託</p>	<p>ア)神戸市から、地域生活支援センター、基幹センター、発達窓口に関する次期の事業受託通知を受信（3月）</p>	◎
<p>【地域】 高齢障害者に対する調査業務の適正化による安定的な事業運営</p>	<p>① 区等との調査業に関する協議</p>	<p>ア)区との定例打ち合わせにおいて、調査の割り振りを実施（毎月） イ)調査業務について、具体的な件数と現状を区係長と情報共有（6月） ウ)業務の簡略化について区係長と協議し、方向性を提示するも、大幅な改善には至らないとの現場判断により、未実施（7月）</p>	△
<p>【地域】 高齢障害者に対する調査業務の適正化による安定的な事業運営</p>	<p>① センター連絡協議会と連携して市・区に対し、小規模センター設置要望</p>	<p>ア)神戸市障害者支援課から、「センター連絡協議会は要望の場ではない」との見解が示され、連絡協議会からの要望を断念 イ)区課長等の協力のもと、区から小規模センター設置について事業要望を行っていただくこととなり、区に要望書を提出（6月） ウ)区長に対して、支援センターの実態を知っていただくため、見学及び業務内容の説明を実施（7月） エ)区から、神戸市本庁に対して、小規模センター設置に関する要望書を提出していただくが、結果、区経由で、「設置は難しい」との回答あり（2月）</p>	×

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
【共通】 他の福祉分野との連携による相談支援の拡充と総合相談窓口化に関する動向の把握	① ケアマネジャーとの連携	ア) ケアマネジャーとの連携の第一歩として、「兵庫区地域ケアネットワークケアマネ部会」に参加（7、8月） イ) 下半期は、具体的な取り組みについて未実施	×
	① 総合相談窓口化に関する動向把握	ア) 圏域コーディネーター連絡会に出席するも、国・県の相談支援の最新動向の把握以外は、特に総合相談窓口化についての情報なし（毎月） イ) 相談支援従事者指導者養成研修を受講（6月）し、基幹相談支援センター全国研修を受講（9月）するが、総合相談窓口化の情報提供なし	△
【共通】 法人フェイスブック（FB）、支援センターブログ等の活用	① FB、ブログの更新	ア) 法人FBにおいて、地域生活支援センター、基幹相談支援センター、発達障害者中部相談窓口に関する記事を掲載（5、6、2月） イ) 支援センターのブログにおいて、区自立支援協議会の部会活動の記事を更新（8月、11月、12月、1月、3月）	△
	① 効果検証	ア) ブログ更新の回数が少なかったため、効果検証は未実施	×
【共通】 各事業の内容の共有化と見える化（職員会議、各事業に関する資料整理など）	① 各事業内容の共有 ② 振り返り	ア) 全体職員会議において、各事業の最新動向を共有（6、8、10、12、2、3月） イ) 支援センター・発達窓口合同会議と就労相談・発達窓口合同会議を開催（毎月） ウ) ワンストップサービス提供の目的・意義に関する文書の作成に着手（9月）するが、未完成 エ) 振り返りについて、上半期のみ実施	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
【共通】 各事業の内容の共有化と見える化（職員会議、各事業に関する資料整理など）の続き	① 資料整理等による見える化と活用	ア)既存の各事業の資料の確認（5月） イ)既存の資料と新たな資料の整理（6月、7月）し、その後は毎月資料の整理更新を実施 ウ)各事業の“見える化”にむけて、各事業の業務の文書化に着手するが、未完成	△
【共通】 事例検討の開催	① PCAGIP法の学習と事例検討の実施	ア)PCAGIP法を用いた事例検討会開催に向けて、今年度新着職員に対してPCAGIP法についての学習会を開催（8月） イ)PCAGIP法による事例検討会を開催（10、2月）	◎
【発達】 大学、専門学校との関係構築	① 大学・専門学校訪問	ア)専門学校について、4月に1校、6月に2校、7月に1校、10月に1校、11月に1校訪問	◎
	① 訪問結果の分析	ア)上半期の振り返り（9月）と下半期の振り返り（3月）を実施 イ)各学校とも、発達障害が疑われる学生が数名在籍していることや、教職員向けの勉強会の必要性を感じている学校があることを確認	◎
【発達】 教職員との勉強会の開催	① 訪問により、勉強会について教職員の意向確認	ア)専門学校への訪問を通して、勉強会開催の意向確認を実施 イ)上半期に訪問した学校の中で、勉強会に興味を示された学校が2校あることを把握。そのうちの1校に対して、下半期に再訪問（1月）し、結果、教職員向けの勉強会を開催（3月）	◎
【発達】 児童福祉分野の知識の習得とそれらの関係機関との連携	① 研修への参加と関係機関との交流	ア)相談員連絡会において、神戸市特別支援教育課から、学童期の支援についての説明を拝聴（5月） イ)相談員連絡会に毎月参加するが、特に児童分野に関する研修はなし	×

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
<b>【基幹】</b> 市内特定相談支援事業者連絡会の充実	① 内容の検討、開催、検証	ア) 市内特定相談支援事業者連絡会及び研修会について、計画どおり年3回開催（7、12、3月） イ) 3回とも、参加者にアンケートを行い、参加者の感想から、「多くの気づきを得られた」などの肯定的な意見が見られ、一定の効果を確認	◎
<b>【地域】</b> スーパーバイズ（SV）の強化	① SV の定例実施	ア) 4名の職員に対して、機能強化員と事業責任者による個別面談を計3回実施（7、2、3月）したが、当初の予定の回数（年6回）の実施については未達成	△
<b>【共通】</b> 相談支援従事者育成プログラムの作成	① 育成プログラムの作成	ア) 育成プログラムの素案作成作業に着手（5月、6月）したが、未完成	△
<b>【共通】</b> 内部研修の充実	① 内部研修の実施 ② 振り返り	ア) PCAGIP 法による事例検討会を年2回開催（9、2月） イ) 水野理事長をお招きし、法人基本理念研修を実施（1月） ウ) 内部研修の振り返りを実施（3月）	◎

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 ひょうごデイサービスセンター  
 施設長 村山 盛光

### ひょうごデイサービスセンター中期事業目標

- ・日中活動支援事業と短期入所事業の円滑な相互利用システム創り
- ・利用者とその家族が安心できる地域生活の実現

第3期中期計画の1年目となる本年度は、中期事業目標達成に向け所属する事業にとらわれることなく「ひょうごデイサービスセンターは一体」とのスローガンのもと、短期入所事業の職員兼務体制の堅持、理学療法士間での訓練メニューの共有、一体的な送迎サービス実施に向けた送迎スケジュールの見直し、に取り組んできました。また、開設2年目を迎えた短期入所事業が、より安定的にサービスを提供し、加えて社会的役割をしっかりと果たしていくために、『アクシスひょうごの今後を考える会』を立ち上げ、要医療ケア者受入を推進していくといった基本方針を策定することができました。一方、人材確保、定着には慢性的な課題を抱えており、従事する職員には多大な負荷がかかっている状況です。次年度においては現在進行している計画に加え、組織の再編、職場定着に向けての定期的な職員面談を行い、組織体制の安定を図り、引き続きご利用者が安心して利用頂けるよう努めていきます。

最後に、本年度12月にイオンモール神戸南店オープンを記念しイオン社会福祉基金より福祉車両1台をご寄贈頂きました。利用者の外出支援にて有効に活用させて頂いていますこと、ご報告致します。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
利用者様、職員で地域の清掃活動を実施	① 2017年4月に開始 ② 清掃区域の見直し	ア) 人員体制充足後9月開始 イ) 中部在障前自販機から道路向かいの自販機前まで拡大 ウ) 中部在障自販機周辺の清掃を継続的に実施	○
車椅子を希望される地域住民への貸し出し	① 広報活動	ア) 中部在障全体の取組として、自治会長を訪問 イ) キャナルタウン自治会長へ自治会役員会による広報を依頼	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
設備備品を地域住民に快適に利用して頂けるよう、貸し出し時間等管理台帳の作成や利用上のルールを決める	① ルール整備、台帳完成	ア) 貸出可能な車椅子の台数を確認し、清掃整備を実施したが、ルール整備や台帳完成には未到達 イ) 年間通して車椅子の清掃・整備を行い、台帳を作成し、住民への貸出へ向けて管理方法やルールを決定	△
ボランティアの募集から定着までのシステムを確立	① ボランティアコーディネーターの育成 ② 受入れマニュアルの作成	ア) 実施に至らず イ) 登録用紙を見直し、新たな登録用紙(仮)を作成 ウ) 受け入れについての様式、内容を検討 エ) ボランティア受け入れマニュアルの完成	△
週の各事業定例会議で説明、目安となる数値目標を示す	① 月次実績表ファイル整備 ② 各事業への月1回会議	ア) 月次実績表ファイルを作成 イ) 月1回の会議については未開催 ウ) ファイル未整備 エ) 各事業の会議での説明、目標の提示、未実施	×
日毎で上記を意識できるような様式に業務日誌を改訂	① 業務日誌改訂 ② 2017年4月から使用開始	ア) 業務日誌改訂完了(12月) イ) 2018年1月から使用開始 ウ) ひょうごデイ各事業にて利用率を日毎に積算し、業務日誌に明記	○
各行政、相談支援事業所への広報・案内	① 各区あんしんすこやか係、支援センター、学校へ随時訪問、照会問い合わせを実施	ア) 各事業における受け入れ可能な利用者数を調査 イ) “ひょうごデイ事業方針” “各事業の強み” “ワンストップサービス” を盛り込んだ視覚的にわかりやすいリーフレット第1版を完成。友生支援学校評議員会にて配布。	○

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
各種マニュアルの整備	① 必要なマニュアルの明確化と作成 ② 現行マニュアルの更新	ア) 既存の業務マニュアルを確認、追記すべき業務マニュアルを検討 イ) 法人QOL推進部会のマニュアル作成内容と照合のうえ、既存の業務マニュアルを確認。追加すべき業務マニュアルを作成 ウ) 既存マニュアルの改訂は未完成	△
常設委員会設置	① リスクマネジメント委員会開催 ② 今までの経緯を振り返り	ア) 毎月の定例委員会を開催 イ) 定例委員会にてヒヤリハット、事故報告を共有 ウ) 全職員を対象にストレスセルフチェックを実施 エ) サービス利用中の利用者様の単独外出についてルールを決定。 オ) ひょうごデイの現状をアセスメント。分析結果で明確化した課題は「手順の見直し」「書式」「マニュアルの整備」。次年度の第3者評価に向けて整備を予定 カ) ヒヤリ事故報告を分析。委員会としてアナウンスを行い未然にアクシデントを抑止	○
ひょうごデイトー体系的なエリア別の送迎体制を構築	① 年間通して試行やシミュレーションを段階的に進める	ア) インクルと多機能の利用者宅を曜日別に地図上に表記 イ) 利用者に応じた車両の割り当てを曜日別実施 ウ) 送迎における利用者の時間都合把握のためにアンケートを作成・配布・回収 エ) アンケートを基に送迎表を作成、送迎ルートを検討 オ) 2018 年度実施に向け計画化	○



実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
ひょうご デイー体的 な機能訓練 事業の提供 体制を構築	① 年間通して試行やシミュレーションを段階的に進める	ア)機能訓練メニューを中心とした引き継ぎを開始（6月） イ)インクルージョンPTが生活介護事業の利用者に対し、休業日分の機能訓練の振替を行う旨を確認 ウ)機能訓練の振替に関するアンケートを作成し、該当利用者へ配布、回収 エ)振替を希望する該当利用者29名中27名の機能訓練内容の、生活介護PTよりインクルージョンPTへの引き継ぎ オ)PTの増員が見込めず、機能訓練の振替については困難と判断。一体的なサービス提供の在り方について再検討。	○
安定的な夜勤2名体制維持、看護師配置へ向けて事務的裏付けを神戸市へ示し、東部、西部在宅と連携して折衝	① 神戸市へ折衝	ア)7/13 兵庫区長来所時に要医療ケア利用者受入時の職員配置上の課題について説明 イ)7/27 神戸市障害福祉部総務課長来所時、職員配置上の課題を伝え、予算化を要望 ウ)8/3 重心父母の会会長と面談。医療ケア受入に向けた課題解消に向け、父母の会からも神戸市へ要望して頂くよう依頼、了承を獲得 エ) 8/9 西部在宅障害者福祉センター、11/28 東部在宅障害者福祉センター各所長と課題を共有。連携して要望していくことを確認。 オ)10/13 インクルージョン家族懇談会に出席された障害支援課長に家族会、センターより職員配置の予算化について要望 カ)継続的な検討会議として、「アクセスひょうごの今後を考える会」を開催。重心利用者、要医療ケア者の受入体制について検討	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
アクシスタ 方入浴の提 供体制の整 備	① アンケート結果の分析	ア) 「アクシスひょうごの今後を考 える会」にて取組方針を明確化 イ) 委員会にて具体的方策を日中事業 所の方向性と併せて検討。1泊利 用者の入浴試行を次年度夏期に実 施予定	△
研修計画の 作成	① 研修担当を設置 ② 事業計画と共に研修計 画を作成	ア) 研修担当を設置 イ) 今年度の研修計画を作成、研修実 施	○
人事考課制 度の定着	① 評価者の技術向上 ② 施設内評価審議会の強 化	ア) 設定目標について定期的に面談を 実施 イ) 支援員の目標達成に向けて随時面 談を実施するが、制度定着、評価者 の技術向上、審議会の強化まで には未到達	△
理念研修を 実施	① 各事業所独自研修の開 催（法人全体の取り組 みの推移を見ながら）	ア) 2016年度以降に着任した職員を対 象に基本理念研修を開催（8月） イ) 各事業での研修開催には至らず。	×

2. 出来た事案  
なし

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 神戸市立自立センターひょうご  
 施設長 村山 盛光

### 神戸市立自立センターひょうご中期事業目標

#### 利用者・家族の心のよりどころとなる自立センターとなります

第3期中期計画の1年目となる本年度は、事業目標を実現させるべく4つの視点を持って取組みました。

一つ目の理念・人材育成の視点では、新たに講師を迎え定期的に理念研修を開催し、職員としての在り方について学ぶことができました。また、海外研修（タイ国）への職員の参加を通じて「仕える」ということを共に考え、話し合う機会を得ることができました。二つ目の財務の視点では、支援学校生徒の実習受け入れプログラムの改訂、送迎バス委託費の見直し、祝日プログラムの充実を図り一定の成果をあげることができました。三つ目のQOLの視点では、親なきあとのご利用者の生活のイメージアップを図る為、グループホームについての勉強会をご家族と共に開催し、課題の共有に努めました。四つ目の地域貢献の視点では、地域交流を主眼として落語会の開催、サポートブック携帯啓発活動に積極的に取組み、多くの地域の方々と交流ができたことに加え、キャナルタウンイースト自治会役員と顔が見える関係を築くことができました。これらの取組みを通して、事業を3年といった中期的な視点で捉えることができるようになり、発想が柔軟になってきたことも大きな成果であったと思います。

しかしながら、年間推進計画、年度達成イメージが不明確であった為、未着手、未達成となった計画があります。次年度は反省を生かした計画を策定し、引き続き「心のよりどころとなる自立センター」を目指し職員一丸となって取組んでいきます。

#### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
基本理念研修の開催	朝礼、職員会議、グループミーティングでの基本理念の唱和	ア)職員会議での唱和（継続） イ)毎週月曜日の朝礼での実施（7月～） ウ)グループミーティングでの実施（8月～） エ)基本理念、基本方針、センタービジョンの事業所内の張り出しと携帯の実施（5月～）	◎
	基本理念研修の開催（講師招聘）	吉川潤講師による研修の開催 ア)第1回目実施（7月） イ)第2回目実施（9月） ウ)第3回目実施（12月） エ)第4回目実施（2月）	◎

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
基本理念 研修の開催	アンケートの実施	ア) 第 1 回目後に振り返りアンケートを実施 (7 月) イ) 第 2 回目後に振り返りアンケートを実施 (9 月) ウ) 第 3 回目後に振り返りアンケートを実施 (12 月) エ) 第 4 回目後に振り返りアンケートを実施 (2 月)	◎
事業計画 に基づいた 目標設定	支援方針と目標の設定 (各 グループにおける)	ア) 各グループで目標設定の話合い開催 (4 月) イ) 各グループの目標を全職員で共有し取組を開始 (5 月)	△
	振り返りの実施	ア) 未実施	×
研修体系 の構築と 外部研修 への参加	研修体系の構築	①エルダー制 ア) 勉強会：施設長より実施 (5 月) イ) 勉強会：神戸愛生園にて実施 (7 月) ウ) 意見交換実施 (6・7・8 月・9 月・10 月・11 月・2 月・3 月) エ) エルダー制マニュアル作成 (1 月・2 月・3 月) 完成 (3 月) ②新着任職員研修 ア) 新着任職員研修の開催実施 (4 月・1 月) イ) 新着任職員の振り返り実施 (5・6・7・8・9 月・10 月・11 月・12 月・1 月・2 月) と半年の振り返り (11 月) と 1 年の振り返り (3 月) ウ) 次年度新着職員研修内容の見直し実施 (12 月) ③中堅職員研修 ア) 中堅職員のピックアップ実施 (4 月) イ) 中堅職員研修プログラム未構築	○

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
研修体系の構築と外部研修への参加	内部研修の開催	ア) 他グループ交換研修未実施	×
	外部研修への出席	①法人内外部研修への参加 ア) 中級一般職員研修 (6 月) イ) 主任・副主任研修 (6 月・10 月) ウ) 対人援助者の基本的な作法 (10 月) エ) キリスト教福祉講座 (10 月) オ) 施設職員ビジネス基礎マナー講座 (11 月) カ) 海外研修 in タイ (11 月) キ) 上級一般職員研修 (1 月) ク) 他法人理念研修 (1 月) ケ) 成年後見制度実務研修会 (3 月) ②他施設への研修 ア) 自立センターたるみへ現任訓練 (8 月) ③ 1 人 1 回研修 ア) キャリアビジョンと倫理観 (全 2 回) (4・5 月) イ) 強度行動障害支援スーパーバイザー養成研修 (全 6 回) (4~9 月) ウ) 『ビジネスマナー』研修 (5 月) エ) 業務の進め方研修「コミュニケーションと報告・連絡・相談」 (5 月) オ) PWS 支援者ネットワーク第 30 回定例会 (6 月) カ) てんかん基礎講座 (8 月) キ) PECS レベル 1 ワークショップ (8 月) ク) 全国知的障害福祉関係職員研究大会 (9 月) ケ) 兵庫県強度行動障害支援者養成研修 (9 月~10 月) コ) サービス管理責任者研修 (9 月~11 月)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
業活動ツールの作成及び見直し	パンフレット、PVの作成。 HPの見直し、Facebookの更新	①委員会の発足と内容検討 ア) 委員会発足 (5月) イ) ミーティング実施 (6月) ②facebook投稿 ア) 原稿作成 (6月・2月) イ) 原稿アップ (7月・3月) ③プロモーションビデオの作成 ア) ワークセンターひょうごのPV視聴 (8月)	○
	見学、体験利用プログラムの作成	①実習生用体験プログラムの作成 ア) 支援学校実習シートの作成 (6月) イ) 支援学校実習振り返りシートの作成 (7月) ウ) 振り返りシートを元に現状分析 (7月) エ) 各種実習記録シートの作成 (8月) オ) 各種実習記録シート説明と活用 (8月) カ) 各種実習記録シートを用いての実習受け入れ、フィードバック (6月:5名、9月:1名、10月:1名、1月:1名、2月:1名) ク) 実習終了時に記念品贈呈	○
利用率向上に向けた取組	魅力ある祝日プログラムの立案	①祝日プログラムの実践 ア) GW祝日プログラム立案 (4月) イ) 8月、9月プログラム検討 (7月) ウ) お茶会の実施 (8月・12月) エ) 祝日ハワイアン演奏実施 (9月) オ) グループカラオケ大会 (10月) キ) 運動会と秋祭り (11月) ク) クリスマス会 (12月) ケ) 新年会 (1月) コ) カラオケ大会 (2月)	◎
	年間予定表の作成と配布	ア) 各月ふりがな予定表の作成と配布 (毎月)	◎

実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
利用率向上に向けた取組	長期欠席者、低利用率の方の分析と利用増への働きかけ	ア) 欠席者の状況把握と分析 (5、6月) イ) 分析結果を職員会議で報告 (8月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月)	○
	アクセシビリティ (短期入所) 利用促進	ア) 利用状況の情報収集 (7月) イ) 利用対応困難ケースについて支援検討 (8月) ウ) 利用対応困難ケースの視覚化・共有 (9月・10月) エ) アクセス利用の促し (12月・1月・2月・3月) (新規利用: 11月2名、12月1名、1月1名、2月1名、3月1名)	○
残業代の削減	活動時間中での事務作業体制の検討	ア) 職員体制、食事体制の配置検討 (7月)	△
	業務の見直し	ア) 未実施	×
予算の周知及び執行状況管理	事務、事業消耗品の精査と計画に基づいた備品の購入管理	ア) 購入物品等の管理方法の決定 (6月) イ) 支出項目について共有 (6月) ウ) 予算管理表による管理 (7月～)	○
送迎費用の見直し	送迎システムの更新	ア) 現状と経緯の確認 (4月) イ) 人件費の試算 (5月) ウ) 他業社へ送迎請負をした場合の試算 (8月)	○
合同勉強会の開催	WGの編成 (保護者、職員) と問題の共有	ア) 課題の共有 (4月) イ) 保護者会でグループホーム勉強会の開催 (7、9月) ウ) 保護者の将来ビジョンの確認 (7、9、11、2月)	○
送迎サービスの充実	ニーズ調査の実施	ア) 未着手	×
	送迎システムの再構築	ア) 安全面において乗車マニュアルの整備 (9月) イ) 次年度に向けて、送迎絶対必要条件の利用者、優先者のピックアップ (9月)	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
機能訓練の実施	WGの発足と検討	ア)ワーキンググループの立ち上げ(4月) イ)機能訓練を当事業所で行う意義について検討(4月)	△
	理学療法士の選定	ア)アンケートを作成、検討(6月) イ)選定までは至らず	
グループホームの運営	ニーズ調査の実施	ア)グループホーム勉強会にて意見聴衆(5月、7月、9月)	△
	グループホームの形態の検討	ア)保護者会例会後にグループホーム勉強会実施(7月、9月)	
『ぎゅっとハート』キャンペーンの拡大	サポートブックの作成	ア) サポートブックの有無確認(未作成35名) イ) 未作成の方へ作成依頼の手紙配布(8月) ウ) サポートブック順次作成17名完成(12月) エ) 兵庫区自立支援協議会とのコラボ検討(9月)	○
	『ぎゅっとハート』街頭等キャンペーンの実施	ア) 自立センター 缶バッジ装着(通年) イ) 中部在障キャンペーン 缶バッジ装着(9月・1月・3月) ウ) 兵庫駅前街頭キャンペーン(9月・1月)	◎
地域清掃プログラムの実施	駅前広場の清掃(月1回)	ア)駅前広場のゴミ拾い(4月～1月実施)	◎
新規定期ボランティアの確保	西松医師による地域住民向け落語会の開催	ア) キャナル自治会・近隣商業施設ポスター掲示(6月・) イ) 『第1回よつば寄席』開催(7月) ウ) 野菜・花の苗を作成・販売(7月)	◎
	日中活動プログラム参加ボランティアの確保	ア) 近隣商業施設にボランティア募集ポスター掲示(6月～8月・12月～1月) イ) 兵庫区ボランティアセンターに依頼 エ) 掲示ポスターを見てボランティア来所 散歩ボランティアとして活動に参加	○



実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
新規定期ボランティアの確保	近隣企業、実習生等へのボランティア活動へのお誘い	ア) 神戸マツダ 毎月依頼のメール (毎月) イ) 神戸マツダボランティア来所 (5月・9月・10月・11月・3月) ウ) 実習生 ボランティアのお誘い (随時)	◎
活動スペースの現状分析・課題の明確化	現状の把握	ア) 職員アンケート実施(5月)	○
	課題の明確化	ア) 職員アンケート実施(5月) イ) アンケート分析(8月～)	○
快適で安全なセンター内環境整備	大規模改修	ア) 職員アンケート実施(5月) イ) 大規模修繕箇所の検討(8月～)	○
	設備の充実	ア) 職員アンケート実施(5月) イ) 環境整備に向けた設備の検討(8月～) ウ) ウォッシュレット増設(男女各1台、自動石鹸(食堂3ヶ所)、トイレディスプレイ設置(女性トイレ3ヶ所))	○
	センター内美化	ア) 職員アンケート実施(5月) イ) センター内美化に向けての取り組み検討(8月～) ウ) 利用者更衣室清掃 全職員で実施 エレベーターホール清掃 全職員で実施	○

## 2. 出来した事案

5月のサービス提供時にご利用者の眼球が破裂するという大変大きな事故が発生しました。ご本人ならびにご家族に多大な痛みを与えてしまったことを真摯に受け止め、引き続き再発防止に努めます。

以上

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
施設名 ワークセンターわかまつ  
施設長 木南 仁

### ワークセンターわかまつ中期事業目標

#### 一生共に歩みます

事業所移転に向けたプロジェクトを立ち上げ、周辺の空き地や店舗などの情報を集めました。が、現実的な有効物件にたどり着くことはできず、次年度、社会福祉充実計画でも挙げられている「カフェの出店」を優先することに致します。

軽自動車を新たに一台導入したことで2方向へ同時に納品に行くことができるようになりました。ほとんどの取引企業と交渉した結果、数社は消費税を付加してもらうことができるようになりました。自主生産品については、これまでの焼き菓子だけでなく、廃版海図を再利用した紙袋などは大口注文をいただくなど各種イベントでご利用いただくことができました。

今年度は焼き菓子担当の職員の異動もあり、新しく担当になった職員が主体的に学びを重ね、担当以外の職員も協力して年間の販売をすることができました。

4月から支援学校卒業者に加え、10月からはさらに1名加え、実利用者35名になりました。一般就労までには結び付きませんでした。2017年度末で1名ワークセンターひょうごに送り出すことができました。

宿泊活動も継続し、その後行った利用者満足度調査でも非常に高い満足度でした。ご本人・家族向けに法人内のグループホームの見学会を企画した結果、多くの参加者があり、体験型のグループホームへの契約、利用にも多くつなげることができました。

ワークライフバランスを整えるためにノー残業デーはほぼ順守できました。また、業務の無駄をなくすために業務分析を各自調査しましたが、改善に向けた分析までには至りませんでした。研修については、内部研修は主に臨時職員を中心に行なうことができました。広報誌（わかまつ通信）を今年度から3回発行し、事業所から情報発信することができました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
カフェの出店と地域住民に開放するスペースを提供	①わかまつ移転プロジェクトの開催(開放スペースの場所、内容の検討)	ア)職員による街歩き等を実施したものの現実的な有効物件は見つからない状況 イ)物件について、新長田まちづくり(株)と面識を持つにとどまり、内容については検討の継続 ウ)わかまつの移転より先にカフェの出店を優先	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域の会合、イベントに参加	①長田区、須磨区の自立支援協議会の活動への参加	ア) 須磨区：自立支援協議会の活動に参加(すまいんど部会すまるしえ実行チーム所属) イ) 長田区：課長が自立支援協議会防災部会長(4月)、施設長が法人連絡協議会(ほっとかへんネット長田)の副代表(7月)に急遽就任。それぞれの会議・役員会等に随時参加	◎
地域の小学校、保育所等との交流	①2017年度は池田小学校のボランティア受け入れ	ア) 10月の一日体験に向け、担当者と事前打ち合わせ等を実施。(8月) イ) 一日体験の受け入れを実施(10月)	◎
販売活動の推進	①バザー等への積極的出店	ア) 須磨区；4月：須磨妙法寺川さくらまつり、5月：神戸まつり「須磨音楽の森」 6, 8, 10, 2, 3月：「すまるしえ」 イ) 長田区；11月：「一七市拡大版」 ウ) 例年；4月：「竹田城お城まつり」 9月：「クリスチャンセンター・フェスティバル」 11月：「兵庫松本通教会バザー」 「神戸女子大学大学祭」 3月：「愛のチャリティバザー」 「こんにちはカーニバル」 エ) 他；6月：神戸ふれあい工房即売会、 10月：落合児童館バザー、 12月クリスマスフェスティバル	◎
稼働率 100%以上	①2017年度は、稼働率100%をめざし利用者34名登録の維持	ア) 4月から新規利用1名：34名登録 イ) 10月から新規利用1名：35名登録 ウ) 稼働率(AVE)102.91%	◎
定員増 30→40名	①2017年度は、現状のまま定員30名を継続(わかまつの移転後に定員増)	ア) 現状の定員30名を維持 イ) 2018年度から40名定員(理事会承認済)	△
目標工賃達成加算の取得をめざす	①共同受注と連携し安定した作業を提供(受注作業の見直し)	ア) 共同受注のフレークシール、うおの目パッド作業を提供 イ) 法人神戸地区就労系事業所の担当者が集まり話し合いの実施(8月) ウ) 新規作業について神戸友生園より打診があったが実現せず(3月)	△
事業支出の見直し	①事業支出の検証	ア) 携帯電話解約(1台) イ) NTT固定電話の基本利用料軽減 ウ) 複合機の入替(リース料軽減)	◎

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
作業内容の見直し	①納品の効率化(軽自動車を新たに導入)	ア)納品用に軽自動車(エブリイ)を導入。(5月)	◎
	②工賃単価の見直し交渉	ア)現状の取引企業については、単価交渉として消費税分の上乗せ交渉実施	○
	③作業内容の見直し	ア)取引企業や作業種変更なし イ)ベーカリー班(パン、焼き菓子)の賞味期限検査を実施(専門業者に委託)	○
	④自主生産品の販路拡大に向けた営業活動	ア)チャートバッグの新製品、クリスマス商品の新製品を作成・サンプル配布。 イ)バザー等でチャートバッグの販売を開始 ウ)クリスマス献金袋、イースター献金袋の外部販売 エ)神戸ふれあい工房にチャートバッグの商談。結果ミニ封筒の店頭販売が決定	△
わかまつの移転	①わかまつ移転プロジェクトの開催(働く場所の検討)	ア)職員による街歩き等を実施したが現実的な有効物件は見つからない状況 イ)物件について、新長田まちづくり(株)と面識を持つにとどまり、内容については検討の継続 ウ)わかまつの移転より先にカフェの出店を優先	△
業務マニュアルの整備	①不足マニュアルの確認 ②マニュアル作成の順位付け ③調査・作成	ア)不足マニュアルを確認 イ)優先順位を決定 ウ)各作業マニュアルを雛形作成 エ)作業マニュアル作成 ベーカリー班：ハートクッキー、タオル加工班：タオルたたみ作業、受注作業班：紙袋作業 オ)気象警報等発令時の対応を変更	○
サービス提供票の充実	①サービス提供票の整備と活用	ア)サービス提供票の検証結果、現状のものを継続 イ)サービス提供票の随時確認、追記	◎
	②サービスマニュアルの作成	ア)サービス(支援)マニュアル作成 イ)検証については次年度実施	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
利用者ニーズに即した支援	①利用者自治会の深化、発展	ア)利用者自治会において DVD の内容を利用者役員で最終決定するように変更 イ)クリスマス会で利用者の意見が反映されたメニューやティータイムの実現	○
	②宿泊活動の継続実施	ア)宿泊活動実施(10/27~28)淡路方面	◎
	③利用者満足度調査の継続実施	ア)質問内容、順番、方法、日程検討 イ)利用者満足度調査実施(1/10) ウ)集計内容・結果については、利用者自治会及びわかまつ通信にて公表	◎
防災対策の推進	①防火・防災訓練の実施	ア)ジョイプラザ合同避難訓練実施 5月：防火訓練 11月：防災訓練	○
	②災害用備蓄品の整備・確認	ア)毎月末、備蓄品在庫確認を実施 イ)備蓄品購入の内容検討・購入	◎
	③災害時の体制の検討	ア)地震発生時のマニュアルについて雛型を作成 イ)家族向け一斉メール配信を希望者に実施 ウ)パソコンからの携帯キャリアの問題で一部にしか送信できず、個々に対応するが全員には未開通	○
グループホーム設置の検討	①グループホームのニーズ調査の実施・検証	ア)ニーズ調査については、未実施	×
	②法人内グループホームの見学会の実施(利用者向け・家族向け)	ア)家族会にてグループホームたいのはた東の体験利用についての説明(5月) イ)利用者・家族によるグループホームたいのはた東の見学会の実施(9家族、5月) ウ)グループホームたいのはた東との契約を合同でわかまつにて実施(7月：5家族、3月：2家族)	○
内部研修の充実	①内部研修実施 ②検証・次年度の計画	ア)新人職員向け「個別支援計画策定の意義」実施(6月) イ)全職員向け「ケア記録の書き方研修」実施(8月) ウ)臨時職員向け「支援の基本」実施(8,3月)	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
業務の見直し	①ケア記録のパソコン化	ア) 全利用者のケア記録のパソコン化の実施(4月) イ) パソコン書式の一部変更・改善(7月)	◎
	②業務分析の実施	ア) 7～9月の各1週間、業務について職員各自で現状確認を実施。 イ) 職員各自で自らの業務の振り返りは行なうが、共有・検討までには至らず	△
実習生の受け入れ	①様々な実習の受け入れ	ア) 福祉体験学習事業の実習(5月)1名 イ) 介護等体験実習(5, 6, 10, 11月)5名 ウ) 兵庫県立歯科衛生学科(7月)6名 エ) 保育実習(9月)3名 ハ) 支援学校親子見学会(7月) カ) 特別支援学校実習(8月)	◎
外部研修への参加	①全職員が最低一度は外部研修への参加	ア) OJT受講者研修(5月) イ) 市民福祉大学新人職員研修(6月) ウ) 感染症基礎講座(6月) エ) 業務の進め方研修(8, 11月) ハ) 長田区感染症講座(10月) カ) 苦情解決セミナー(11月) キ) 市民福祉大学事務職員講座(10月) ク) 友生支援学校見学会(1月)	○
法人理念と支援指針の共有	①内部研修(勉強会)を通して、法人理念とわかまつの支援指針の理解共有	ア) 「法人基本理念について」(7月) イ) 「支援の基本」(8, 3月)	△
虐待・不適切ケアの防止	①職員会議内で事例検討(年6回)	ア) KYT(危険予知トレーニング)を全職員に実施(6月) イ) 虐待防止研修(講師: 稲松真人氏)実施(2月) ウ) 法人虐待防止学習会実施(2月)	△
	②虐待防止チェックリストの実施(年12回)	ア) 全社協のセルフチェックリストを毎月実施	○
成年後見制度の推進	①成年後見制度の勉強会[職員向け、家族向け]の開催(年1回)	ア) 成年後見セミナーへの参加 イ) 家族向けの勉強会は家族会で提案するも未実施	△

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
利用者・家族への情報提供	①家族、利用者向けに広報紙の発行(年4回)	ア) 4回/年の発行を予定していたが、3回発行	○
全職員で中期計画の進捗管理	①職員会議で中期計画の進捗状況の確認(年4回)	ア) 職員会議内で進捗状況の確認を実施	◎

## 2. 出来した事案

### (1) 公用車のドアに利用者の手を挟む

6/12、友が丘地区での焼き菓子販売時に公用車で現地に到着。職員1名(ドライバー)と後部座席に利用者2名が乗車しており、降車時に利用者1名の手をもう1名の利用者がドアを閉め挟んでしまう。職員による状況確認、受診付添い、家族への対応等実施。幸い打撲の診断を受け、通院はしばらく続くが完治。医療費についてはAIU保険にて対応。

### (2) 作業工賃の不足支払い

7/3、工賃明細の遅早の欄に不明点があるとの問い合わせを家族から受け、確認した結果、算出表(PC上)に誤りを発見し、謝罪及び訂正し対応。以後ダブルチェックの徹底を確認。

### (3) 賞味期限の表記ミス

11/17のわかまつ家族向けのシュトーレンの販売において、11/23付の賞味期限にするところを12/23と表記する。販売先が全てわかっていたので対応できたものの、以後のチェック体制を確認。

## 2017年度事業報告

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団  
 施設名 せいれいやさかだい  
 施設長 高瀬 菜穂

### せいれいやさかだい中期事業目標

#### 専門性の高い就労トレーニングと社会参加の場の実現

せいれいやさかだいは、第2期中期計画で明確化された方針に沿って多機能型事業所から就労継続支援B型事業への一本化に向け「専門性の高い就労トレーニングと社会参加の場の実現」を第3期中期計画のテーマとしました。7月には定員を38名から40名に変更し、林タオル事業所は、生活介護を廃止し、就労継続B型事業所15名と増員しました。シミズ事業所は、環境配慮から定員を12名から10名に縮小し、増大する生活介護ニーズに対応する為、友が丘事業所を10名から15名定員に拡張しました。

就労継続B型の安全な活動場所の確保に向け情報収集に取り組みましたが移転先の確保には至りませんでした。さらに範囲を広げて情報収集し具体化します。

神戸市から「就労準備支援事業」を受託し、社会的孤立を抱える方々の社会参加を支援する活動を開始しました。広報活動を行いました。1名の利用に留まりましたが、中途障害者1名を支援し、6ヶ月の訓練を経て盲学校への進学につなげることができました。法人内連携を強化します。

友が丘事業所への生活介護ニーズの集約に取り組むとともに、高齢化・重度化への取り組みとして、法人内理学療法士の支援を得て介護講習会や住宅改修に取り組みました。

また、自閉症スペクトラムの方々への支援の専門性を高める為、近隣事業所や支援学校との連携のもと学習会を行い支援力向上に取り組み内外の研修会で発表の機会を得ました。

### 1. 推進状況

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
地域貢献WGによるニーズ調査	①検討会開催(2回/年)	①ア)友が丘総合事業推進会議で検討 ②ア)地域の民生児童委員との懇談会や日常の交流活動を通じてニーズ把握	○
	②調査方法と内容の検討		
地域貢献計画の策定	①友が丘事業所での地域貢献計画の策定	①地域高齢者の居場所づくり計画 ア)茶話会実施 10月3日開催の「心と体をほぐしませんか」 イ)友愛訪問 茶話会の呼びかけの為、近隣の高齢者世帯に友愛訪問実施。(延べ10件) ウ)地域の公園で健康体操実施(11月から毎週1回)	◎



実行計画	2017 年度計画	実施状況	達成度
サロン活動の継続	①月 1 回のサロン活動の継続	ア) 8 回実施。延べ 43 名の地域住民と利用者の食事会実施	◎
ミニ広報紙発行	①年 3 回発行	ア) 3 回発行。地域自治会掲示板・近隣世帯に配布 茶話会、健康体操広報	◎
小・中・高生への発信と交流	①北須磨児童館との交流	ア) 北須磨児童館との交流 2 回実施 (10 月 21 日、1 月 27 日)	◎
	②友が丘中学校のトライやるウィーク受け入れ	ア) 11 月 6 日～11 日に 4 名の中学生受け入れ	◎
	③近隣の高校ボランティア部への活動招請	ア) 北須磨高校ボランティア部と折衝	△
移転計画立案	①せいれいやさかだい(就 B) 事業計画の策定	ア) 林タオル事業所を就労継続 B 型に移行。定員変更に伴い就 B 事業計画を策定	○
	②活動場所の確保	ア) 流通団地内物件を不動産業者から情報収集	○
就労準備支援事業対象者の確保	①広報紙作成	ア) 6 月に広報紙完成。区役所の説明会にて配布	◎
	②福祉事務所への広報活動	ア) 神戸市主催の全市説明会 (6 月 26 日) 垂水区 (7 月 28 日) 中央区 (8 月 4 日) 垂水区 (8 月 9 日) 西区 (9 月 28 日) 長田区 (12 月 19 日) 兵庫区 (12 月 21 日) 須磨区 (12 月 26 日) ひょうご支援センター (1 月 18 日) 須磨区 (2 月 6 日、7 日)	◎
関係機関との連携強化	①受託事業所との連携強化	ア) ヨハネ寮見学 (5 月 26 日) イ) すいせい見学 (2 月 1 日)	◎
安心安全な環境を整える	①介護講習会の実施	ア) ひょうごデイサービスの理学療法士による介護講習会実施 (9 月 28 日)	◎
	②環境整備	ア) ひょうごデイサービスの理学療法士が友が丘事業所にて利用者の生活状況を確認後、住宅改修について助言。改修計画策定、家主と調整完了。10 月改修実施	◎
	②健康機能の数値化	ア) 知的障害者高齢化施設見学 (8 月 28 日) イ) 情報収集 (あゆみ学園チェックシート)	○

実行計画	2017年度計画	実施状況	達成度
研修計画の立案	①研修項目の整理	ア) 県社会福祉研修所のアドバイザーとの連携によりアセスメントシート作成に着手するも完成せず	△
	②研修計画策定		
事例検討会の実施 実行計画	①ABA 理論に基づく事例検討会の実施	ア) 支援学校教員を講師とし、地域の事業者と学習会を実施(4月17日、5月17日、11月11日)	◎
就労支援プログラムの策定	①先進事業所の見学(2回)	①ア) 先進事業所について全国生産活動・就労支援部会にて情報収集(11月9,10日) ②イ) 地域の生活ニーズに基づく作業活動の模索	○
	②活動内容の検討		
利用者の確定	①面談を通じて利用者ニーズを把握	ア) 1名の事業所間移行(10月) イ) 1名体験実習実施(11月)	◎
	①聖生園からの移行者の把握	ア) 調整するも実施できず	×
情報共有	①ミーティングの開催、対応策の実施、振り返り	ア) 職員会議にて各事業所の事業内容を共有 イ) 職員会議での議案提案用紙作成	○
人事交流	①人事交流計画の策定	ア) 3事業所の人事交流実施。10月より新体制	◎
マニュアル整備	①マニュアルの見直しとPDCAサイクル確立	ア) 必要項目の整理	△
神戸聖生園での調理体制の確立	①神戸聖生園との協議	ア) 利用者・家族会と協議し、給食弁当の継続決定	◎
	②調理室整備	ア) 神戸聖生園での給食提供断念	◎
	③神戸市への届出	ア) 利用者・家族会と協議し、給食弁当の継続決定	◎
西神戸教会員から法人の歴史を学ぶ	①教会員からの講話	ア) 金附顧問による講話(7月18日)	◎
キリスト教福祉講座の開催	①竹内牧師の講義	ア) 「理念の言語化」について竹内牧師と打ち合わせ実施。10月3日に内部研修(グループワーク)実施	◎
理念に基づく支援観の共有	①施設長・主任の講話	ア) 職員会議にて施設長のメッセージ(4月) イ) 主任によるメッセージ(10月)	◎

2017年度 事業報告別表 1(事業実績)

特養・グループホーム・施設入所支援 (入所型事業)		定員 数	利用延べ人数		利用率①		地域生活移行	
			2017年度		2017年度		2017年度	
			目標	実績 【年間】	目標	実績 【年間】	目標	実績 【年間】
特養	平生園	60	21,243	21,176	97.0	96.6		
"	さくらの苑	29	9,423	8,723	97.0	89.9		
GH	わらしべ	18	6,510	6,489	99.0	98.7		
入所	恵生園	60	21,338	20,713	98.0	94.5	1	0
"	真生園	60	21,464	21,125	98.0	96.5	0	0
"	神戸愛生園	50	17,885	16,785	98.0	93.8	2	0
"	神戸明生園	70	23,505	23,234	91.9	90.9	0	0
GH	グループホームもみの木	5	1,696	1,696	93.0	92.9		
"	グループホームかしの木	7	2,134	2,317	83.5	90.7		
"	グループホームかしの木Ⅱ	5	1,696	1,713	93.0	93.9		
"	ながみね	4	565	418	77.2	57.1		
"	しおや	4	1,403	1,238	97.0	84.8		
"	きたすま	5	1,697	1,710	93.0	93.6		
"	みなみたもん	5	1,764	1,777	97.0	97.4		
"	たいのはた東	5+1	1,650	1,570	75.3	86.3		
"	ふくだ	10	3,182	3,000	95.0	89.6		

短期入所支援事業		定員 数	利用延べ人数		利用率①	
			2017年度		2017年度	
			目標	実績 【年間】	目標	実績 【年間】
高齢	さくらの苑	10	3283	3125	98.0	92.0
障害	恵生園	3	552	753	50.4	68.7
"	真生園	4	516	683	35.0	46.8
"	神戸愛生園	5	913	1,144	50.0	125.3
"	神戸明生園	10	3,309	3,153	90.6	86.3
"	アクセスひょうご	6	2,201	2,513	100.5	116.6

通所介護・生活介護・児童発達・放課後等デイ 重症心身障害者日中活動支援事業・日中一時支援事業 (日中型事業)		定員 数	利用延べ人数		利用率②	
			2017年度		2017年度	
			目標	実績 【年間】	目標	実績 【年間】
通所	さくらの苑	18	4,983	4,929	88.0	86.9
生活	恵生園	60	16,430	16,222	101.8	100.5
"	真生園	60	16,140	16,095	100.0	99.7
"	神戸愛生園	60	16,255	15,598	100.7	95.9
"	神戸聖生園	47	11,026	10,133	85.0	81.3
"	せいれいやさかだい	28	7,005	6,520	93.0	86.6
"	神戸光生園	54	13,945	13,597	96.0	93.6
"	神戸明生園	80	20,890	20,665	97.0	96.0
"	デイセンターひょうご	25	5,486	5,299	81.6	78.7
"	自立センターひょうご	60	13,135	13,188	81.4	81.7
"	トゥモロー	8	1,440	1,324	75.0	67.5
"	インクルージョンひょうご	20	3,586	3,379	66.7	62.8
日中	真生園	5	95	30	5.0	1.6
"	神戸明生園	-	66	68.25	延べ66日	延べ68.25日
児童	すまいる	20	3,600	3,617	75.0	72.0
"	エスポワールこじか	10	1,771	1,970	76.0	84.6

就労移行支援事業・就労相談 (日中型事業)		定員数	単位=人		単位=%		単位=人		単位=%	
			利用延べ人数		利用率②		就職者数		定着率(就職後6ヶ月)	
			2017年度 目標	2017年度実績 【年間】	2017年度 目標	2017年度実績 【年間】	2017年度 目標	2017年度実績 【年間】	2017年度 目標	2017年度実績 【年間】
移行	和生園	6	1,425	932	90.0	57.7	3	2	100.0	100.0
"	神戸光生園	6	1,129	845	70.0	52.4	2	3	100.0	100.0
"	ワークセンターひょうご	30	6,370	6,228	80.0	77.2	16	15	100.0	100.0
相談	神戸市障害者就労推進センター	—	—	—	—	—	150	151	—	—
"	神戸障害者就業・生活支援センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—

就労継続支援B型 (日中型事業)		定員数	単位=人		単位=%		単位=円		単位=円	
			利用延べ人数		利用率②		時間給工賃(平均)		月配分額(平均)	
			2017年度 目標	2017年度実績 【年間】	2017年度 目標	2017年度実績 【年間】	2017年度 目標	2017年度実績 【年間】	2017年度 目標	2017年度実績 【年間】
就B	和生園	34	8,920	8,929	97.5	97.6	294	272	30,000	26,210
"	神戸聖生園	22	5,272	5,104	90.1	87.5	51	66	4,500	5,818
"	せいれいやさかだい	10	2,743	3,154	102.0	117.2	64	70	6,410	7,032
"	神戸友生園	30	8,879	8,831	100.0	109.0	115	169	12,600	16,630
"	神戸光生園	30	7,747	7,636	96.0	94.6	156	114	13,650	11,423
"	デイセンターひょうご	10	2,709	2,631	100.7	97.8	90	110	2,000	2,469
"	ワークセンターわかまつ	30	8,118	8,296	100.6	102.8	130	116	11,800	10,668

居宅介護支援・相談支援		支援内容・対象	単位=件	
			支援件数	
			2017年度 目標	2017年度実績 【年間】
居宅	居宅介護支援事業さくらの苑	ケアマネージング	1,560	1,086
障害	ぴあほくたん	障害者・児	520	677
"	発達障害者支援センター・プランチ	発達障害者	350	409
"	エスポワールこじか相談支援事業	障害児	189	262
"	恵生園相談支援事業所	障害者	159	208
"	神戸障害者就業・生活支援センター	障害者	10,000	11,033
"	神戸市障害者就労推進センター	障害者	—	—
"	ひょうご障害者地域生活支援センター(夜間支援含む)	相談・緊急対応	5,300	6,251
"	神戸市発達障害者中部相談窓口	発達障害者	900	876
"	すま障害者地域生活支援センター	相談・緊急対応	7,200	8,081
"	神戸聖隷総合相談センター	相談	1,200	2,539

生活援助・介護予防・職場開拓		延べ人数・件数		
		項目	2017年度 目標	2017年度実績 【年間】
		障害	あったかプラザ(飲食店)	来店人数
"	障害者専門職業紹介事業	職場開拓活動	300件	363件

診療所		単位=人	
		診療延べ人数	
		2017年度 目標	2017年度実績 【年間】
医療	真生園診療所	3,350	2,878
"	風クリニック	1,200	1,050
"	神戸愛生園診療所	3,480	3,177

注意：利用率の計算方法

①入所型事業及び短期入所利用延べ人数÷(定員数×365日)

②日中型事業は 利用延べ人数÷[定員数×(365日-8日×12ヶ月)]

2017年度 事業報告別表 2(設備整備実績)

No.	施設名	施設 件数No.	件名	内容概略	整備完了時期	事業金額 (千円)	財源			
							サービス区分	財源科目	備考(補助金・助成金)	補助助成金 (千円)
1	法人本部		宅地(朝来市和田山町竹田字外川原2486番19、384.06㎡)	さくらの苑隣接、GH・放課後等DS用地	2017年12月	10,324	本部	拠点区分間繰入金	社会福祉充実残額	0
2	恵生園	1	障がい福祉支援記録システム導入	ケア記録・日誌等、転記業務の簡素化による業務簡略化。また、食事・水分摂取等のデータに基づく個別支援計画実践のための障がい福祉支援記録システム導入	2017年5月	1,976	生活介護	修繕積立資産取崩収入		0
3	恵生園	2	スチームコンベクションオープン更新	老朽化したスチームコンベクションオープンの更新	2018年10月	1,599	生活介護	介護給付費収益		0
4	真生園	1	記録システム導入一式	ケア記録・日誌等、転記業務の簡素化による業務省略化。又、食事・水分摂取等のデータに基づく個別支援のため	2017年5月	3,505	真生園生活介護	修繕積立資産取崩収入		0
5	真生園	2	キュービクル変圧器更新	経年劣化による老朽化と修理保証がないため	2017年11月	1,959	真生園生活介護	介護給付費収入		0
6	平生園	1	エレベーター部品取替え工事	エレベーターのモーター制御盤やロープの交換	2018年10月	3,000	平生園(特別養護老人ホーム)	介護保険収入		0
7	神戸聖生園	1	せきもり移設に係る家賃等	敷金50万円、家賃15万円×12か月	2017年7月	1,312	神戸聖生園生活介護	介護給付費収入		0
8	神戸愛生園	1	特殊浴槽の更新	経年利用(15年)のため、電動昇降ストレッチャーの故障が度々見られ、利用者の安全確保と職員の労働環境改善のため入替設置	2017年10月	8,899	神戸愛生園生活介護	施設整備等補助金収入 移行時備品積立資産	神戸やまぶき財団助成申請	3,000
9	神戸光生園	1	・厨房水回り改修 ・事務室・男子更衣室・相談室等床クロス張替	・厨房は埋設配管の水漏れが発生しており対応策として露出配管に変更した。 ・事務室、男子更衣室等は老朽化対策として室内整美	2018年3月	6,461	神戸光生園生活介護	修繕積立資産取崩収入		0
10	神戸明生園	1	神戸明生園旧館大規模修繕工事	旧館外壁塗装・屋上防水工事	2017年12月	31,341	生活介護	施設整備等補助金収入 減価償却積立金	神戸市民間社会福祉施設整備費等補助金	20,527
11	神戸明生園	2	ケアホームきたすま スプリンクラー設置	消防法改正に適うスプリンクラーの設置	2018年3月	9,917	ケアホームきたすま	施設整備等補助金収入 運営資金	神戸市民間社会福祉施設整備費等補助金	3,000